

國立臺灣大學文學院日本語文學系
碩士論文

Department of Japanese Language and Literature

College of Liberal Arts

National Taiwan University

Master's Thesis



JFL 環境における反転授業の実践
— 社会人初級日本語学習者を対象に —

The Practice of Flipped Classrooms in a JFL Context:
Focusing on Adult Beginner Learners of Japanese

前川 愛實

Manami Maekawa

指導教授: 黃鈺涵 博士

Advisor: Yu-Han Huang, Ph.D.

中華民國 114 年 7 月

July 2025

謝辞



本論文の作成にあたり、お世話になった方々に、この場を借りてお礼を申し上げます。

3年間の研究生生活を通して、実践の計画から分析、論文執筆に至るまで、常に温かく丁寧にご指導くださった指導教授の黄鈺涵先生に、心より深く感謝申し上げます。実践上の課題により分析方法の変更を余儀なくされた際には、先生の豊かな知見と的確なご助言のおかげで、落ち着いて研究の方向性を見直すことができました。

また、審査委員を務めていただいた中國文化大學の陳毓敏先生及び銘傳大學の黃聖文先生には、分析方法や考察内容に関して細やかなご指摘いただき、研究をさらに深めることができました。お忙しい中、貴重なお時間を割いていただき、心より感謝いたします。

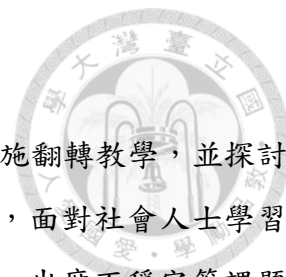
さらに、大学院への申請資料の作成から反転授業の実践や分析方法に至るまで、何度もお相談に乗っていただいた関西大学の古川智樹先生に、心より深く感謝申し上げます。学部時代よりご指導いただき、反転授業に関するご指導を、日本語教育における反転授業導入の第一人者である先生からご指導いただけたことは、私にとって大変貴重で非常に幸運でした。

また、本研究の実施にご協力いただいた J3・J4 クラスの皆さんには、授業への参加のみならず、アンケートやインタビューにも協力いただき、深く御礼申し上げます。授業準備が大変な時もありましたが、一緒に日本語を勉強できた時間は私にとって、とても楽しくかけがえのないものでした。ありがとうございました。

日々の研究活動を支えてくれた日本語文学科研究室の皆さんにも心より感謝いたします。とりわけ、資料整理に協力してくれた浩喆、USB やパソコンの不具合をいつも直してくれた定中、そして提案・口試審査において準備に協力してくれた佳興と柏睿には、この場を借りて深く感謝の意を表します。

最後に、学業・生活の両面において、常に支えてくれた家族に、心より感謝申し上げます。

摘要



本研究旨在於 JFL 環境中，針對社會人士初級日語學習者實施翻轉教學，並探討其效果及受容過程。筆者在一年間負責台北市某企業的日語課程，面對社會人士學習者的特性，在傳統面授課堂中出現了進度差異、專注力維持困難、出席不穩定等課題。為了解決這些問題，本研究提供文法解說影片及確認練習作為課前預習，並將課堂內活動重組為以對話練習與小組活動為主的輸出導向形式。

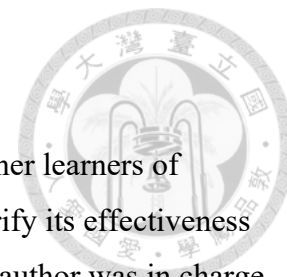
本研究於 2024 年前期與後期兩個學期內，在上述企業的初級日語班級中實施。資料收集方式包括課前課後問卷調查與定期的半結構式訪談，分析學習者對翻轉教學的評價與學習意識的變化。研究結果顯示，翻轉教學的導入促進了學習者建立自主的預習與複習習慣。社會人士學習者認為「能依照自己的節奏學習」以及「即使無法出席課堂，也可藉由影片隨時參與學習」等特點，使翻轉教學非常適合社會人士。

訪談分析亦顯示，學習者初期雖對翻轉教學感到不安，但逐漸理解其優點並積極加以活用。在後期的訪談中，學習者更主動提出對預習作業及課堂活動的改進建議，顯示持續參與翻轉教學有可能促使學習者從被動轉向主動，產生學習意識的轉變。

本研究對於設計適用於 JFL 環境中社會人士學習者的翻轉教學模式提供了啟發，並對未來的實踐研究有所貢獻。

關鍵詞：翻轉教學、JFL 環境、社會人士學習者、SCAT 分析

Abstract



This study aims to implement flipped classrooms for adult beginner learners of Japanese in a JFL (Japanese as a Foreign Language) context and to clarify its effectiveness and the process of learner acceptance. Over the course of one year, the author was in charge of a beginner-level Japanese course offered as part of employee welfare at a company in Taipei. Given the characteristics of adult learners, traditional face-to-face classes presented challenges such as differences in learning pace, difficulty maintaining concentration, and irregular attendance. To address these issues, the study provided grammar explanation videos and review exercises as pre-class learning materials, while in-class activities were reorganized to focus on output-oriented tasks such as pair and group work.

The study was conducted over two academic terms—Spring and Fall 2024—within the same beginner-level Japanese course at the company. Data were collected through pre- and post-course surveys and regular semi-structured interviews to analyze learners' evaluations of flipped classrooms and changes in their attitudes. The results showed that the introduction of flipped instruction helped learners establish habits of autonomous study for both preparation and review. Adult learners evaluated flipped classrooms positively, citing benefits such as being able to learn at their own pace and having access to video materials that allowed them to participate in class even if they were absent.

Interview analysis revealed that although learners initially felt confused by the flipped format, they gradually came to understand its advantages and began to actively make use of it. In the later interviews, learners began to proactively suggest improvements for the pre-class tasks and in-class activities, indicating that continued exposure to the flipped format may have helped shift them from passive to active learners.

This study provides insights into designing flipped classrooms tailored to adult learners in JFL contexts and contributes to future research on instructional practices.

Keywords: Flipped Classroom, JFL Context, Adult Learners, SCAT analysis

要旨



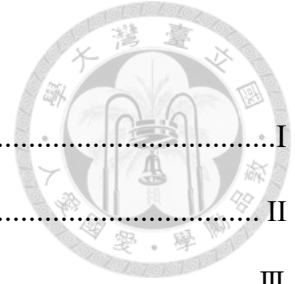
本研究は、JFL 環境における社会人初級日本語学習者を対象に反転授業を実践し、その効果と受容過程を明らかにすることを目的とする。本研究の筆者は1年間にわたり、台北市内の某企業で福利厚生の中級日本語を担当しており、社会人学習者という特性から、従来の対面授業では、進度の差、集中力の維持、出席の不安定さといった課題が存在していた。これらを解決するため、本研究では事前学習として文法解説動画と確認課題を提供し、教室内活動をペア及びグループワーク等のアウトプット中心に再構成した。

本研究は 2024 年前期および後期の 2 学期間にわたり、前述の同企業内初級日本語クラスで実施した。データ収集には、授業前後アンケート、定期的な半構造化インタビューを行い、学習者の反転授業に対する評価や意識変容を分析した。結果として、反転授業の導入により、学習者の予習・復習の自律学習習慣が定着した。社会人学習者は「自分のペースで学習を進められること」や「授業に参加できなくても動画があることでいつでも授業に参加できる点」から反転授業は社会人学習者に適していると評価していた。また、インタビュー分析では、学習者が反転授業に対して当初は戸惑いを覚えつつも、次第にその利点を理解し、積極的に活用するようになる過程が明らかになった。また、後期のインタビューにおいては予習課題や授業内活動についての改善案が学習者から主体的に挙げられるようになり、継続的な反転授業形式の受講が、受動的な学習者から能動的な学習者へと学習意識を変容させた可能性が示された。

本研究は、JFL 環境における社会人学習者に適した反転授業の設計について示唆を与えるものであり、今後の実践研究に貢献するものである。

キーワード：反転授業、JFL 環境、社会人学習者、SCAT 分析

目次



謝辞.....	I
摘要.....	II
ABSTRACT.....	III
要旨.....	IV
目次	V
圖次.....	VII
表次.....	VIII
第一章 序論	1
1-1.研究背景	1
1-2.研究目的	4
1-3.本論文の構成	5
第二章 先行研究.....	6
2-1.反転授業の定義づけと種類	6
2-2.日本語教育における反転授業	8
2-2-1.日本における反転授業	8
2-2-2.台湾における反転授業	11
2-3.台湾における社会人学習者に対する日本語教育	18
第三章 実践方法.....	20
3-1.実践概要	20
3-2.講義動画及び予習課題の作成	25
3-3.調査概要	27

3-3-1.授業前後アンケート	28
3-3-2.半構造化インタビュー	29
第四章 社会人学習者の反転授業への評価.....	32
4-1.前期の授業前後アンケートの結果と分析	32
4-2.後期の授業前後アンケートの結果と分析	46
第五章 社会人学習者の反転授業の受容過程.....	70
5-1.始めて反転授業を受けた際の受容過程	71
5-1-1.反転授業への評価に関する構成概念	72
5-1-2.学習意識の変容に関する構成概念	76
5-1-3.前期におけるストーリーラインと理論記述	77
5-2.継続して反転授業を受けた際の意識変化	78
5-2-1.2 度目の反転授業への受容姿勢	78
5-2-2.学習意識の変容	80
5-2-3.後期におけるストーリーラインと理論記述	85
5-3.全体を統合したストーリーラインと理論記述及びさらに追求すべき課題	86
第六章 まとめと今後の課題.....	90
6-1.研究結果のまとめ	90
6-2.今後の課題.....	92
参考文献.....	95
添付資料.....	99

圖次



第三章

図 1 講義動画例.....	27
----------------	----

第四章

図 2 【学習方法】 質問 1 前期、授業前後.....	35
図 3 【学習方法】 質問 4 前期、授業前後.....	36
図 4 【授業形式】 質問 5 前期、授業前.....	38
図 5 【文法動画】 質問 4 前期、授業後（複数回答）	45
図 6 【文法動画】 質問 5 前期、授業後（複数回答）	45
図 7 【文法動画】 質問 6 前期、授業後（複数回答）	46
図 8 【前期への感想】 質問 1	47
図 9 【学習方法】 質問 1 後期、授業前.....	50
図 10 【学習方法】 質問 4 後期、授業後.....	51
図 11 【学習方法】 質問 2 後期、授業前.....	51
図 12 【学習方法】 質問 3-1 後期、授業前（複数回答）	52
図 13 【学習方法】 質問 3-2 後期、授業前（複数回答）	53
図 14 【学習方法】 質問 5 後期、授業前（複数回答）	54
図 15 【反転授業】 質問 8 後期、授業後.....	58
図 16 【自己評価】 質問 1 後期、授業後.....	65
図 17 【動画と予習課題】 質問 8 後期、授業後（複数回答）	67
図 18 【動画と予習課題】 質問 9 後期、授業後（複数回答）	67
図 19 【動画と予習課題】 質問 10（複数回答） 後期、授業後.....	68

表次



第二章

表 1 習得活用型授業デザイン例	7
表 2 反転授業を実践した先行研究のまとめ	15

第三章

表 3 実践概要	21
表 4 前期のシラバス	22
表 5 後期のシラバス	23
表 6 授業の流れ	24
表 7 講義動画の内訳（前期）	26
表 8 講義動画の内訳（後期）	26
表 9 定期テストの平均値推移	28
表 10 半構造化インタビュー対象者詳細	30
表 11 SCAT 法による分析結果の例	31

第四章

表 12 【学習経歴】日本語学習の動機	33
表 13 【今後の計画】	33
表 14 【学習方法】前期、授業前、後	34
表 15 【授業形式】前期、授業前後	37
表 16 【反転授業】前期、授業前	40
表 17 【反転授業】前期、授業後	41
表 18 【反転授業】前期、質問 8	42
表 19 【反転授業】前期、質問 9	43
表 20 【動画と筆記予習課題】質問 12 後期、授業後	48
表 21 【前期への感想】質問 3,4 後期、授業前	49
表 22 【授業形式】後期、授業後	54
表 23 【授業形式】質問 5 後期、授業後	56
表 24 【反転授業】質問 1～7 後期、授業後	57

表 25 【反転授業】質問 9 後期、授業後	59
表 26 【反転授業】質問 10 後期、授業後	60
表 27 【反転授業】質問 11（記述式）後期、授業後	62
表 28 【反転授業】質問 12 後期、授業後	63

第五章

表 29 インタビュー対象者の内訳	70
表 30 SCAT 法による分析の例(学習者 B のテキストから).....	71
表 31 構成概念：「時間的制約と予習への不安」	72
表 32 構成概念：反転授業の受容	73
表 33 構成概念：「自律学習行動の増加」「内発的動機の増加」	76
表 34 前期におけるストーリーラインと理論的記述	78
表 35 構成概念：「反転授業への前向きな受容姿勢」「学習時間確保の不安」	79
表 36 構成概念：予習課題に対する改善案と意欲的姿勢	80
表 37 構成概念：練習方式と学習効率への懸念	83
表 38 後期におけるストーリーラインと理論記述	85
表 39 前期・後期を統合したストーリーライン、理論記述、追求すべき課題	87

第一章 序論



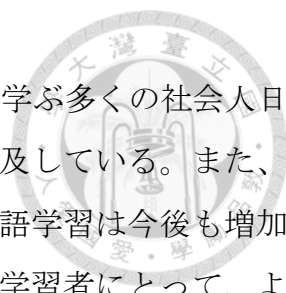
1-1.研究背景

近年、デジタル化や ICT（情報通信技術）の発展により、教育環境が整備され、遠隔授業や e ラーニングなどに取り組む教育機関が増えている。ICT を活用した教育方法のひとつとして、近年関心を集めているのが「反転授業」である。2000 年代、徐々に普及して来た反転授業は、その名の通り従来の一般的な授業構成を「反転」させた授業形態のことである。具体的に言えば、従来授業内で行ってきた導入及び説明の部分を動画などにまとめ、事前学習とし、宿題としてきた応用の部分を授業中に全体で行う形式である。台湾では 2013 年頃から葉によって中学・高校などの教育機関において実践が進められてきた¹。反転授業の効果として、葉（2015）は単に学生の学習効果を向上させるだけでなく、学習への主体的な参加を促し、深い理解を可能にする効果的な教育手法であると述べている。日本国内においては、佐藤靖泰教諭の宮城県富谷町立東向陽台小学校での実践をはじめとし、主に一般科目において反転授業の導入が進められてきた。佐藤教諭は小学 6 年生の算数の授業にて反転授業を実施し、生徒らはビデオ視聴後に自分で思考を整理することができるため、より効果的な学習につながると報告している²。また日本語教育の分野においては、古川・手塚（2016）、中溝（2016）を筆頭に実践が進められ、その有効性が多数証明されている。しかしながら、そのほとんどが日本国内における日本語教育における実践であり、JFL（Japanese as a second language:外国語としての日本語）環境での実践は未だ少ない。

さて、国際交流基金によれば、台湾における日本語学習者数は 2021 年の段階で約 14 万人であり、そのうちの約 2 割は学校教育以外での機関で日本語を学ぶ学習である。初中等、高等教育機関だけでなく、年少者から日本語世代の高齢者まで幅広い年代層の学習者が補習班（塾や予備校、語学学校を指す）や社区大学など様々な機関において日本語学習に励んでいる。2023 年度の日本語能力試験の応募者数は 78,048 人で前年度と比較し 4000 人増加しており、受験者の年齢は 7 歳から 91 歳まで

¹ 安喬（2017）『翻轉教育，教育翻轉了什麼？』換日線 CROSSING

² ベネッセ教育研究所（2013）『Benesse 発 これからの教育』



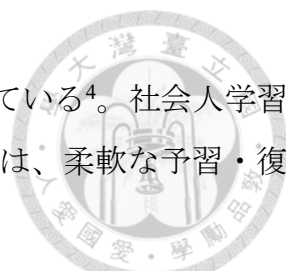
と幅広い³。このように、台湾では趣味や仕事のために日本語を学ぶ多くの社会人日本語学習者が存在しており、生涯学習としての日本語教育が普及している。また、日系企業も多数進出している台湾において、成人学習者の日本語学習は今後も増加すると考えられる。そのため、どのような授業スタイルが成人学習者にとって、より効果的なのかを検討することは必要不可欠であると考ええる。

筆者は2023年から現在まで1年にわたり、台北市内のある企業において初級日本語授業を担当している。これは、台湾にある某日本語学校より派遣されて担当しているもので、福利厚生の一環として企業側が提供しているものである。受講している学習者の年齢は25～50代までと幅広く、部署もさまざまである。筆者は2学期間の授業を終えて、大きく分けて二点の問題点があると感じた。

一点目は、学習者間の理解度の差である。アニメ好きなど比較的学习意欲の高い学習者は普段の練習においても積極的に取り組み、スムーズに進めることができる。一方で、そうでない学習者や比較的年齢の高い学習者は理解に時間がかかり、結果として他の学習者に後れを取ってしまう傾向が見られた。こうした後れは日常的に日本語に触れる機会の少なさが影響していると考えられる。また、学習者のライフスタイルの違いも理解度の差に大きく影響している。学習者はそれぞれ異なる職種や業務内容に従事しており、勤務形態に差があるため、定期的に授業に参加することが難しい学習者もあり、欠席や遅刻が頻発することもあった。特に、出張が多い学習者や繁忙期には何週も欠席せざるを得ない学習者もあり、その間に学習内容に大きなギャップが生まれてしまう。こうした差は学習者間の日本語習得状況の格差につながり、学習の継続性やモチベーションにも影響を及ぼしてしまうと考えられる。

また、従来の授業形式では、その日の授業で初めて文法を学び、その場で練習問題に取り組む必要があるため、理解から習得までの十分な時間が確保されていない点も大きな要因であると考えられる。この点に関して、心理学者 J.B.Carrol は「学校学習モデル (A Model of School Learning)」において、学習成果は個人の能力ではなく、時間的要因によって決まると主張しており、学習者が十分な時間と適切な指導

³ 国際交流基金 (2017) 『海外日本語教育機関調査報告書：国・地域別情報, 台湾』



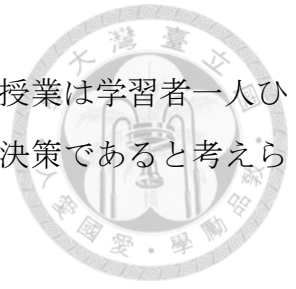
を受ければほとんどの学習者が高い達成度に到達できると述べている⁴。社会人学習者にとって、限られた学習時間の中で理解と定着を図るためには、柔軟な予習・復習の機会が必要である。

二点目は、学習者の集中力である。社会人学習者は一日の仕事を終えた後に授業に参加するため、肉体的、精神的に疲労が蓄積している状態にある。そのため、授業中に教師による説明が長く続くと、集中力が低下しやすく、内容を十分に理解できないまま授業が進行してしまうこともある。特に、学習内容が比較的難しく、受け身の状態が続いた場合には、学習者の反応が鈍くなり、場合によっては居眠りをしてしまう姿も見られた。

また、集中力の低下は学習内容の理解だけでなく、ペアワーク等の口頭練習にも影響を及ぼす。例えばペアワークの際に、居眠りをしてしまっていた学習者に対して、もう一人の学習者が説明をしなければならなかったり、全体であまり理解している様子でなければ、教師が再度内容を説明する必要が生じたり、全体の進行に影響を及ぼすこともあった。こうした問題は、授業の進行に影響を与えるだけでなく、クラス全体の活動のテンポを見出す要因にもなりうる。結果として、意欲的に取り組んでいた学習者の集中力も途切れやすくなり、クラス全体の学習効率が下がってしまうと感じられた。

以上のような問題点を解決する手段として、筆者は「反転授業」が最適であると考えている。反転授業では、授業前に学習者が自分のペースで予習を行い、理解を深めた上で授業に臨むことができる。すなわち、各学習者に十分な学習時間を与えて理解を深めさせることが可能であり、学習者間の理解度の格差を減少させることにつながると考える。また、文法解説動画による予習は忙しい社会人にもそれぞれのライフスタイルに合わせて柔軟に対応でき、授業に参加していなくても文法学習を進めることが可能であり、授業参加の有無による格差を減らすことができる。さらに、授業中は集中して他学習者とのアウトプット練習に取り組むことができるため、疲

⁴ J. B. Carroll (1963) “A Model of School Learning” は学習成果が「学習に必要な時間 (Time Needed in Learning)」と「学習に利用できる時間 (Time Spent in Learning)」の比率によって決まるという考え方である。学習に必要な時間は学習適性、指導の質、学習者の持続性などの要因によって影響を受け、学習に利用できる時間は学習機会や学習者の関与度などによって決まると述べている。



れや集中力の低下を補うことも期待できる。このように、反転授業は学習者一人ひとりのニーズに応じた学習環境を提供できるため、効果的な解決策であると考えられる。

1-2.研究目的

前節にも述べたように、反転授業形式では学習者が自分の好きなタイミングで文法解説動画を視聴することができるため、忙しい社会人でも自身のライフスタイルに合わせて学習する事ができる。また、社会人日本語学習者の多くは、日本旅行や仕事のために日本語の会話能力を伸ばしたいという目標を持つ。反転授業では授業内でアウトプットの機会を多く設けることができるため、社会人学習者の需要に合った効率的な日本語学習の機会を提供することができるのではないかと考える。

しかし、日本語教育における反転授業のほとんどは大学生や大学院生を対象とした高等教育機関での実践で、社会人を対象とした反転授業の実践報告は未だ少ない。そこで、本論文では、社会人を対象とした初級日本語クラスにおいて反転授業を実践し、どのような効果が得られるのか実践する。また、アンケート調査及び数名への半構造化インタビューを実施し、学習者らが反転授業をどのように受け止めたのかを明らかにする。

更に、これまでの先行研究で、反転授業のデメリットとして学習者が授業動画を見て来なかった場合などに反転授業の効果が薄まることが挙げられている（古川・手塚 2016 等）。特に忙しい社会人にとっては講義動画及び予習課題は高等教育機関に通う学生らに比べ、より負担になると予想される。そこで、忙しい社会人に適した講義動画や予習課題の頻度及び内容について検討する。以上をまとめた本研究の目的は以下の通りである。

- 一、 社会人日本語学習者が反転授業をどう評価し、どのように受容していくのかを学習進度や理解度、学習継続のしやすさと言った観点から、アンケートと半構造化インタビューを通して明らかにする。
- 二、 社会人を対象とした反転授業を行う上で、講義動画を含む予習課題や授業内活動をどのように行うのが最適であるか、考察する。



1-3.本論文の構成

本論文は全六章で構成されている。ここでは各章の概要について述べる。

まず第一章では、本研究の背景と動機について述べている。

第二章では、まず反転授業についての先行研究をまとめる。次に、日本及び台湾での反転授業に関する先行研究を概観し、JFL (Japanese as Foreign Language: 外国語としての日本語) 環境、JSL (Japanese as Second Language: 第二言語としての日本語) 環境それぞれの反転授業実践の現状と残されている課題について整理する。また、台湾の社会人学習者に対する日本語教育の先行研究も取り上げる。

第三章では、台湾の社会人日本語学習者に対する反転授業実践に関する概要を紹介する。具体的には実践参加者、スケジュール、実践内容と評価及び効果の測定に用いた成績評価、授業前後アンケート、半構造化インタビュー及び SCAT 分析の内容についてである。

第四章から第六章まではそれぞれの分析方法の結果及び考察である。

第四章では、授業前後アンケートをメインに半構造化インタビューの内容も適宜使用し、初めて反転授業形式で授業を受けた社会人らが反転授業をどう評価したか、全体の傾向を分析する。

第五章では、半構造化インタビューの結果をもとに SCAT 法を用いて分析し、学習者らの反転授業への評価及び受容過程を質的分析の観点から述べる。

第六章では、本研究における総まとめを行い、社会人日本語学習者に対する反転授業実践の提案と今後の課題を述べる。

第二章 先行研究



2-1. 反転授業の定義づけと種類

今日、「反転授業」と呼ばれている授業形態は 20 世紀後半以降から通信情報技術 (ICT) の普及とともに導入されるようになり、特に 2000 年代以降、動画教材や学習管理システムの整備とともに普及した。授業内容を反転させるという概念を導入した初期の代表的な研究として、Baker (2000) や Lage, Platt, & Treglia (2000) の研究が挙げられる。ただし、例えば Lage et al. (2000) ではこのような授業スタイルを「Inverting the Classroom (教室の反転)」と表現しており、現在広く使用されている「Flipped Classroom (反転授業)」という用語は Bergman & Sams (2012) によって広まり、一般化した。彼らは近年「Flipped Classroom (反転授業)」から「Flipped Learning (反転学習)」へと概念を発展させ、学習者中心の教育理念に基づいた授業の再構築を提唱している。すなわち、反転授業は単なる「授業と宿題の入れ替え」にとどまらず、学習者の主体的な関与を促進するための教育モデルとして位置付けられている。山内・大浦 (2014 : 3) は反転授業を「説明型の講義など基本的な学習を宿題として授業前に行い、個別指導やプロジェクト学習など知識の定着や応用力の育成に必要な学習を授業中に行う教育方法」と定義している。

反転授業には決まった実施方法がなく、その運用は教師や授業の目的によって異なる。溝上 (2017 : 2-3) は反転授業の主な特徴として、次の四点を挙げている。「①学生は自分のペースで学習できる、②学生は繰り返しオンライン教材を視聴でき、理解をより確かなものにすることができる、③授業外学習時間が増加する、④対面教室でアクティブラーニングに多くの時間を割ける」(森・溝上編, 2017)

また、山内・大浦 (2014 : 9) によれば、反転授業は授業に追求する付加価値によって、「完全習得学習型」と「高次能力学習型」の 2 種類に分けることができると提示している。「完全習得学習型」は「全員が一定基準以上理解すること」を目指す教育方法であり、主に基礎知識や技能の定着を重視する。一方、「高次能力学習型」では単なる知識の習得ではなく、作文や問題解決などの高次思考力の育成を目的とする授業である。本研究では、初級レベルの日本語学習者への文法授業において、基礎文法事

項の確実な定着を目的とする授業設計を行っており、山内・大浦（2014：9）が示す「完全習得学習型」の反転授業に該当する実践を試みた。以下の表1は森（2017：24）が「完全習得学習型」に多く見られる授業デザインの例として示したものであり、本研究でも授業デザインの参考とした（森・溝上編, 2017）。

表1 習得活用型授業デザイン例⁵

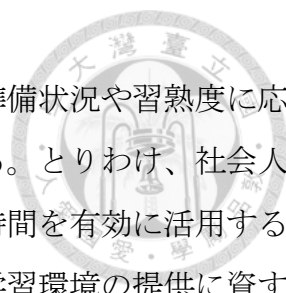
教育活動	学習活動	内化／外化
事前学習1	講義動画視聴	内化
事前学習2	該当箇所のノート作成等	外化
対面活動	導入	—
	グループによる演習	外化／内化
	教員による演習の解答説明／講義	内化

また、森（2017：22-23）は反転授業導入のメリットを以下のように述べている。

「まずは①授業で「教える」を事前学習にすることで、外化という演習する時間を授業において長めに確保できるということ。さらにもう1つ、②として教員としては「教える」を補強することができるメリットがある。（中略）つまり、事前に知識の差があるクラスであっても、教員は授業が始まる前に、いくつかの組み合わせパターンを準備することが可能であり、まさに学生は授業前に自らのニーズに合わせて事前に「教える」を組み合わせで学び、他学生とスタートラインを合わせて授業に臨むことができるのだ。」（森・溝上編, 2017）

このように、反転授業は「教える」行為を事前に動画等で提供することで、教室内では学習者の実践的な活動（外化）に十分な時間を確保し、知識の定着を促す構造を

⁵ 森（2017：24）より筆者が再作成した。



実現することができる。また、事前学習によって、各学習者の準備状況や習熟度に応じた柔軟な学びを支援できる点も、反転授業の重要な特性である。とりわけ、社会人学習者のように学習ペースや理解の個人差が大きく、限られた時間を有効に活用する必要がある学習者層にとって、こうした構造的特性は効果的な学習環境の提供に資すると考えられる。

2-2.日本語教育における反転授業

日本語教育における反転授業の先行研究は多岐にわたる。以下では JSL 環境である日本での反転授業実践と、JFL 環境である台湾における実践を分けて概観し、それぞれの課題と本研究の意義を述べる。

2-2-1.日本における反転授業

日本における反転授業実践のほとんどは中上級レベルの学習者を対象にしたものであり、古川・手塚（2016、2018）、中溝（2016）等が挙げられる。ここではそれぞれの研究概要を述べる。

まず、古川・手塚（2016）は、大学・大学院進学を目的とする上級日本語学習者を対象に反転授業を導入した。実践は 2 度で、分析は視聴ログ分析、学習成果分析、アンケート調査及び半構造化インタビュー調査の 3 つから行われた。実践①では動画視聴のみを予習課題としたのに対し、②では動画視聴に加えて確認練習問題及び文作成を課した。結果として、実践①では対面授業での構造が変化せず、学習者に動画視聴の意義を十分に理解させることができなかった。一方、実践②では学習者の産出やフィードバックの機会を多く設けられたことから、より有効であると述べた。また学習成果分析では、到達度テストの結果から、実践②は実践①や反転授業未実践のクラスに比べ、70 点以下の学習者数が減少し、点数の底上げが確認された。さらに、アンケート調査や視聴ログ分析のいずれにおいても実践②の形式を用いた反転授業がより有効であることを示した。



また、古川・手塚（2018）では、中級レベルから上級前半レベルの学習者 13 名を対象に、反転授業を実践し、授業終了後に半構造化インタビューを行い、SCAT 法を用いて学習者が反転授業をどのように評価し、学習意識がどう変容したかを明らかにした。授業の実践方法は古川・手塚（2016）と同様の流れである。SCAT 法による分析の結果、「教育方法の変化による戸惑い」「反転授業の受容」「予習の重要性への気づき」「学習観の変化」の 4 つの構成概念が抽出されたとした。

次に、中溝（2016）は中上級日本語学習者を対象とした文法授業において反転授業を導入し、アンケート調査と授業終了時の理解度を分析した。授業前の予習課題は動画視聴に加えて短文完成問題、アンケート、選択式練習問題を課している。授業中はグループごとに選択式問題や短文完成シートを行い、授業終了時にはその選択問題シートの回答と答え合わせ、解説を行った。その結果、アンケート調査から、学生らがビデオ等、ICT の導入や質問時間が確保された点を評価していることを明らかにした。また、日本語力が低い学生により好意的に受け入れられたと明らかにした。ただし、「同じ内容で従来型と反転授業があるならどちらを選ぶか」という問いに対しては、「一人で勉強したくない」や「ビデオは自分で良いから」という意見が見られ、従来型の授業を希望する学生が一定数いるとし、受講生の授業への期待やニーズを考慮する必要があると指摘した。

初級レベルにおいて反転授業を実践した先行研究は比較的少なく、ここでは鈴木（2018）町田（2019）を取り上げる。

まず、鈴木（2018）は「基本的な動詞の「て形」が口頭で産出でき、それを使った簡単な「依頼」の会話ができる」という目標設定のもと、授業内で動詞の導入と説明を行う統制群とオープン教材を用いた反転授業形式の実験群に分けて実践を行った。反転授業による授業の変化を具体的に調べるため、授業記録と音育データを用いる COLT（Communicative Orientation of Language Teaching）と、事後アンケート調査によって分析した。その結果、反転授業を行うことのメリットとして、学習者の会話などの自由な発話時間が増え、その結果授業に対する満足度が上がり、授業前に心の準備ができることが積極的な授業の参加につながる点が挙げられた。一方で、デメリットとしては学習者の負担増加や、評価方法が確立されていないことに



よる学習者の不満、反転授業になじまない学習スタイルを持つ学習者の存在等が挙げられた。また、オープン教材の使用が学習者の自律学習の促進に寄与する一方、媒介語が無ければ初級学習者の理解は困難であることも示した。

次に、町田（2019）は初級後半レベルのクラスにおいて反転授業を実践し、講義ビデオの作成手順と学生からのフィードバック及び自身の反省をもとに留意点をまとめた。町田は授業前の予習課題としてビデオの視聴とタスクシートを課したことで、口頭練習やペアワークなどがクラスの中心的な活動になったと述べている。ただし、古川・手塚（2016）の実践とは異なり、授業中にもビデオで使用したスライドを用いてビデオ内容の要点を確認するというステップを入れている。さらに、「初級後半レベルの学生は始めて見た単語や文章をすらすらと話すことは難しい」という点を考慮し、クラスで行う口頭練習は必ずしも応用的な練習ばかりではなく、動詞フォームの確認、単語や表現の意味の確認などにも時間を費やしたと述べている。ビデオについてはその長さについて「10 分程度がよい」という意見が得られたことや、「復習から入るもの」「動詞の新しい形を勉強するもの」「運用上の細かい説明の必要なもの」についてはビデオによる予習が特に効果的であると示した。また、反転授業の課題の一つとして挙げられる、ビデオを視聴しない学生については、隙間時間に教科書の文法説明を読んだり、練習の際クラスメイトに助けてもらうなどして主体的な学びの姿勢が見られたことから、数人程度であれば問題にならないと結論付けた。

以上の先行研究から、日本における反転授業の実践は、学習者の発話機会の増加や ICT の活用に対する肯定的な評価が多く見られた。また、先行研究の多くが、予習課題に確認問題や文作成を組み込むことで、学習者の理解が深まり、学習成果の向上につながることを示している。

一方で、反転授業には学習者への負担の増大や、自律学習に慣れていない学習者に対しては、反転授業の受容に個人差があり、ビデオ視聴をしてこない学生への対応についても改善の余地がある。これらの結果から、反転授業の効果を最大限に引き出すためには、学習者のレベルや学習スタイルに合わせた予習課題の設計や、授業内での支援体制の工夫が重要であることが示唆される。

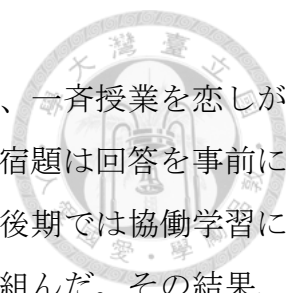


2-2-2.台湾における反転授業

以上は日本における反転授業実践の先行研究であったが、ここでは JFL 環境、特に台湾における反転授業実践の先行研究として、黄（2020）、張（2021）、陳（2022）、林（2021）、林（2024）を挙げる。

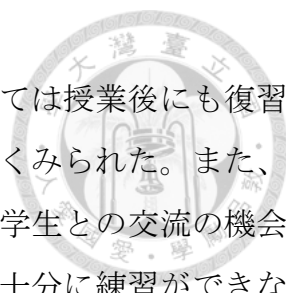
まず、黄（2020）は日本語非専攻初級大学生日本語学習者を対象とした必修の日本語授業において、1学期間反転授業を実施した。分析の際は、反転授業実施クラスと未実施クラスの定期試験の結果を比較し、実施クラスには負担感と感想に絞ったアンケート調査を用いている。文法理解が遅れている学生や他学習者よりも理解に時間がかかる学習者への考慮から、予習は文法解説動画の視聴と学習シートを課題としている。文法解説動画については2回目以降は教師が自作したものをYouTubeで限定公開するという形をとっている。また、授業中は従来の文法導入に替わり、教師による学習シートの読み上げ等学習シートの確認と文法理解の確認、質問の受付、練習用の学習シートを使用した協働学習、そしてゲームや会話練習という流れで進めている。反転実施クラスと未実施クラスの定期試験の比較結果は、実施クラスが未実施クラスに比べ平均点、中央値ともに上回る結果となり、実施クラスのほうが学習効果が高まると報告している。また、アンケート調査の結果では、ほとんどの学習者が予習に負担を感じず、負担を感じていた学習者についても反転授業の方式については評価している感想が見られ、多くの学習者が反転授業を高く評価していることを報告した。また、自由記述の箇所にはグラウンデッド・セオリー・アプローチ（GTA）を用いた質的分析を行い、反転授業の導入によって、「学習項目の定着」「学習意欲の向上」「対面授業でのストレスの減少」「自律学習の養成」「教室の雰囲気の変化」などの効果が確認されたと述べている。

次に、張（2021）は3年間にわたり、大学の初級日本語の授業において反転授業を実践した。1度目の実践は教室外では学習動画の視聴と宿題を予習として課し、教室内はその宿題の答え合わせ及び講義と協働学習、教室外はテストの準備や動画視聴、宿題をさせるというサイクルで行った。その結果、学習能力により反転授業の受容に差があり、とくに下位群は学習動画を視聴しても理解が追い付かず、その



結果宿題をしないことや授業中の居眠り等につながってしまい、一斉授業を恋しが
る声も見られた。これを踏まえ、二度目の実践では事前学習の宿題は回答を事前に
配布し、授業内は文法練習ワークシートの実施を導入、さらに後期では協働学習に
おけるグループは成績上位、中位、下位という構成になるよう組んだ。その結果、
成績については、一斉授業を実施した年度と比較し、前期で高い効果が見られた一
方で、後期は点数分布が下がっていた。これについては学習サイクルのマンネリ化
などが影響したとしている。また文法練習ワークシートに対しては学習者は概ね高
評価を下しており、特に前期においてワークシートの答え合わせを通した協働学習
に満足する学習者が多くみられた。一方で、後期では実践者がグループを組み直し
たことにより、学習者間の親しさが深まらず、グループ活動が前期に比較し機能し
ないという結果になった。最後に、三度目の実践では、これまでの結果から授業前
学習の負担を軽くするため、動画視聴後の宿題を 10 問程度の選択式問題に変更した。
その結果、成績面では一斉授業及び 2 度目の実践と同程度を保ち、文法クイズにつ
いては問題と学習動画の内容との関連性の低さから成績中位、下位の学生には負担
がかかる結果となった。これらすべての実践を通し、張は反転学習をデザインする
際には、事前学習と対面学習のつながりを意識し、事前学習が学生の負担とならな
いようにすることが重要であると述べた。また、完全習得型の反転学習には授業内
外の学習において「内化（知識のインプット）－外化（知識のアウトプット）－内
化」の往還サイクルを確保する事が理想的であると述べた。

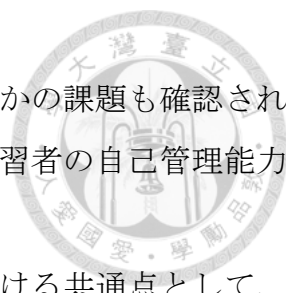
陳（2022）は大学の必修科目「初級日本語」の文法項目において反転授業を実践
し、反転授業とピア・ラーニングの実施効果を学期末に行った 2 種類のアンケート
調査から分析した。授業前は動画視聴と文型ごとに翻訳問題を予習として課してい
る。動画視聴については直前の視聴を避けるため、視聴制限時間を設けている。授
業内では各文型についての確認を学生を指名しながら行い、続いて練習問題のピ
ア・ラーニング、最後に練習問題の確認を全体で行っている。ピア・ラーニングの
グループ分けは教師がランダムに編成し、練習の際は学習者の居眠り等の防止や進
度の確認のため必ず起立して練習し、終われば座るという方法をとっている。アン
ケート調査の結果から得られた反転教育の長所については事前に授業内容が把握で



きることや、理解の促進などが挙げられた。一方で短所については授業後にも復習として動画を見たい等、動画視聴時間の制限に関する内容が多くみられた。また、ピア・ラーニングについては、様々な発音が聞けることや、他学生との交流の機会できるという面を評価している一方で、ピアの相手によっては十分に練習ができないことへの不満などが見られた。

林（2021）は日本語能力試験 N4 レベルの大学生 36 名を対象に、反転グループと従来通りの授業形式で行う情報グループの 2 つに分け、使役形に関する用法の授業を各 3 回実践した。反転グループへの予習課題には動画の視聴と確認問題を解くことを課している。予習課題の動画に関しては新出語彙の説明も動画内に含めており、また、動画視聴の際は重要語彙や文法解説等を記載したレジュメを参照しながら見ることとしている。授業内では反転グループはクラス活動およびスピーキング活動等の知識の産出にあたる活動を 45 分間設けているのに対し、情報グループは前半で文法解説や練習問題を行い、クラス活動は 15 分程度であった。効果の測定にはテスト（筆記および口頭）と授業前後アンケートを用いている。その結果、反転グループは情報グループに比べテストの平均点が大きく上回っており、特に産出面（口頭テストと作文）において反転グループが情報グループを上回っていたと示した。また、アンケート結果からは反転授業は文法解説中心の授業より満足度が高く、クラスメートとの相互活動の時間が増えたことを高く評価していた。課題としては、産出の学習時間が増える一方で詳しい文法解説が減少することへの不満や、指示されて行う活動は主体とは感じられないという意見が挙げられた。

最後に林（2024）は台湾北部の語学塾における成人学習者への日本語教育を事例とし、①反転教育の設計戦略の分析、②実施上の課題と学習成果の把握、③台湾教育現場への応用の可能性を提示することを目的とし、個別事例研究を行った。対象は語学塾に属する成人日本語学習者 2 名と塾責任者、学習コンサルタント、学習分析師、学習訓練師の計 6 名である。研究方法には半構造化インタビュー及び学習記録（処方箋・分析書）の収集と分析を用いている。その結果、①当該語学塾の反転教育の設計は詳細かつ明確だが、実施中に生じた課題に応じて継続的に改良が加えられていたこと、②成人日本語学習者に対する反転教育は概ね良好に機能し、多く



の学習者が学習タスクを遂行し目標を達成していたが、いくつかの課題も確認されたこと、③学習成果の達成スピードには個人差があり、特に学習者の自己管理能力が成果に影響を及ぼしていることの三点が示唆された。

以上の先行研究から、台湾国内における反転授業の実践における共通点として、予習課題に動画視聴と予習課題を設けていること、台湾人学習者らは反転授業を概ね高く評価していることが分かる。一方で、使用する動画や動画視聴に制限を設けるか、協働学習のデザインについては各実践において様々である。また、黄（2020）では反転授業形式は従来の授業形式に比べ成績が上がったという結果が出たのに対し、張（2021）では反転授業形式のほうが、成績が低いか従来の形式と同程度であったと報告されており、反転授業形式の導入と学習成果は必ずしも比例しないことがわかる。また、先に挙げた先行研究ではそのほとんどが主にアンケート調査による定量的な評価に留まっており、定期的な半構造化インタビュー等を通じた学習者の反転授業受容過程に関する詳細な質的分析は行われていない。

さらに、先行研究の多くは大学生を対象としており、社会人を対象とした研究は筆者の知る限り、林（2024）のみである。社会人学習者は学習時間の確保や自己管理の面で大学生とは異なる特性を持つことが考えられ、社会人学習者に適した反転授業の設計にはさらなる検討が必要である。

林（2024）の研究は文献分析および学習者を含む塾関係者へのインタビューをもとにした個別事例研究であり、反転授業の設計や運用上の課題に焦点を当てている。一方、本研究では筆者自身が社会人学習者を対象に反転授業を実践し、授業評価に加え、定期的な半構造化インタビュー及び SCAT 分析を通して、学習者自身の反転授業の受容過程を明らかにすることを目的としている。

以下は、反転授業の先行研究の対象者と研究方法をまとめたものである。

表 2 反転授業を実践した先行研究のまとめ



研究者 (年)	対象者 ① レベル ② 身分 ③ 国籍	課題	研究方法	結果
古川・手塚 (2016)	① 上級 ② 大学・大学院進学を目指す学生 ③ 多国籍	日本語学習者を対象とした、より有効な反転授業モデルの検証。	視聴ログ分析、学習成果分析、アンケート調査、半構造化インタビュー	動画視聴に加え、確認練習問題及び文作成を課した実践②の形式がより効果的で、学習成果も上がった。
中溝 (2016)	① 中上級 ② 大学生 ③ 多国籍	中上級学習者への反転授業導入の効果検証。	アンケート調査、理解度評価	ICT の導入や質問時間の確保を評価する学生が多かった。ただし、従来型を好む声も見られた。
古川・手塚 (2018)	① 中上級 ② 留学生別科に通う学生 ③ 多国籍	学習者の反転授業への評価と意識変容の調査。	半構造化インタビュー、SCAT 分析	「戸惑い」「受容」「予習の重要性」「学習観の変化」の構成概念を抽出した。
鈴木 (2018)	① 初級学習者	反転授業導入による授業の	COLT 分析（授業記録・音声デ	自由発話が増え、授業満足度が向

	② 初級 ③ 多国籍	変化とその教育的効果の検証。	ータ)、アンケート調査	上。予習での心の準備が授業参加につながる。一方で負担や教材への不満も見られた。
町田 (2019)	① 初級後半 ② 大学生 ③ 多国籍	初級学習者への反転授業実践と授業運営上の工夫・留意点の整理。	学生フィードバック、自身の授業記録	反転授業により口頭練習中心の授業が実現。「復習から入るもの」「動詞の新しい形を勉強するもの」「運用上の細かい説明の必要なもの」についてはビデオによる予習が特に効果的である。
黄 (2020)	① 初級 ② 日本語非専攻大学生 ③ 台湾	アクティブ・ラーニング型の反転授業を実施し、その効果と学習者の学習における変化を観察。	成績比較、アンケート調査、自由記述部分のGTA分析	ほとんどの学習者が予習に負担を感じず、反転授業を高く評価した。 「学習項目の定着」「学習意欲の向上」「対面授業でのストレスの減少」「自律学習の養成」「教室の雰囲気の変化」など

				の効果が確認された。
張（2021）	① 初級 ② 大学生 ③ 台湾	複数年にわたる反転授業実践の効果とその改善プロセスの検討。	3年分の実践比較、成績分析、アンケート調査	学習能力によって授業の需要に差がある。反転学習のデザインには事前学習と対面学習のつながりを意識し、事前学習が負担とならないようにすることが重要。
陳（2022）	① 初級 ② 大学生 ③ 台湾	反転授業とピア・ラーニングの効果検証。	アンケート調査、授業内観察	アンケート結果より、反転授業の長所として動画により授業内容の把握できること、理解の促進などが挙げられた。一方で、短所として動画の試聴時間の制限に関する内容が挙げられた。
林（2021）	① 初級（N4レベル） ② 大学生	反転授業が知識の「産出」に及ぼす効果の検証。	成績比較（筆記、口頭）、アンケート調査	反転グループは従来型よりも平均点が高く、特に産出面で優れていた。

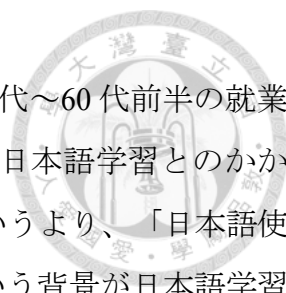


	③ 台湾			一方で、詳しい文法解説の不足や支持されて行うという形に主体性を感じないという声も見られた。
林（2024）	① 初級 ② 社会人 ③ 台湾	社会人学習者への反転授業の適用可能性、設計戦略、課題の明確化。	半構造化インタビュー、学習記録	反転授業は概ね良好に機能している。ただし、学習成果の進度には個人差があり、自己管理能力が大きな影響を与える。

2-3.台湾における社会人学習者に対する日本語教育

台湾における社会人日本語学習者を対象とした研究には、高齢学習者のコミュニケーションストラテジーや学習態度を調査したもの（閻 2022）、上級会話クラスにおける絵本の活用（池畑 2023）、そして成人日本語学習者の学習継続プロセスについて調査したもの（内山 2018、虞 2022）等が挙げられる。本実践では対象が 20～40 代の初級日本語学習者であるため、ここでは学習継続プロセスについて研究した内山（2018）と虞（2022）を概観する。

まず、内山（2018）では日本語上級レベルの成人学習者の学習継続プロセスを複線径路・等至性（TAE）アプローチにより分析研究した。その結果、仕事面での必要性から日本語学習を始め、授業参加する過程で学びの面白さを感じ、学習を継続する傾向があると述べた。また、成人学習者を対象とした教室デザインとして、単なる知識の獲得だけではなく、思考や知識の共有という自己領域を広げることができる環境であること、また教室がストレスを感じない場であることが重要であると述べている。



次に、虞（2022）では、学習経験、日本語レベルの異なる 50 代～60 代前半の就業女性三名を対象に、ライフストーリー・インタビューを行い、日本語学習とのかかわりについて調査した。その結果、仕事のための日本語学習というより、「日本語使用者としての理想の自分」や「日本語を忘れたくない自分」という背景が日本語学習を継続する動機に繋がっていることがわかった。

これらの研究から、台湾における社会人学習者の日本語学習は単なる知識習得にとどまらず、自分自身の成長や自己実現の場としての意味合いを強く持っていることが分かる。したがって、社会人学習者を対象とした授業デザインにおいては、学習者の学習目的や授業に対する考えを把握することが重要である。

しかし、本実践の対象である 20～40 代の初級日本語学習者に関する研究は限られており、特に文法教育の側面からの研究は筆者の知る限り見られない。文法教育に関する実践研究の不足は、本研究における意義を示す点であると考えられる。

したがって、本研究では、台湾における社会人初級日本語学習者を対象に、反転授業形式の授業実践を行い、その受容過程と学習者の気持ちの変容について明らかにすることを目的とする。これまでの研究では、上級レベルの学習者や中高年層を対象とした学習継続の動機や背景については明らかにされてきたが、初級段階で学習を開始した社会人学習者が、反転授業という学習形態をどのように受け入れ、どのような感情の変容を経験するかについては、未だ明らかにされていない。

特に本研究では、事前に動画教材で文法を学び、授業内で口頭練習を行う反転授業形式が、社会人学習者の学習意欲や自律性、さらには授業への満足感にどのような影響を与えるのかを探るものである。また、学習者の授業に対する評価及び認識の変化を、授業前後のアンケートや半構造化インタビューを通じて分析し、学習の継続や意欲に関する要因を明らかにすることも本研究の目的の一つである。

本研究は、20～40 代の日本語初級レベル社会人学習者に焦点を当て、彼らが文法学習を含む反転授業に対してどのような評価を持ち、どのように気持ちに変容していくのかを検討することで、台湾における社会人日本語教育に新たな視座を提供するものである。

第三章 実践方法



本章では、JFL 環境における反転授業の実践概要として、実践期間、学習者、学習内容、授業方法と授業準備に関する動画及び課題作成、成績、そして 2 つの分析方法をまとめた調査概要を説明する。

3-1.実践概要

筆者は 2023 年より台湾の日本語補習班に所属し、そこから台北市内にある某企業に派遣され、福利厚生として開講されている日本語授業を担当してきた。1 年間に 3 期に分けて開講されており、『大家的日語初級 I・II』を使用し毎学期 5 課ずつ進めて行く。1 学期およそ 2 ヶ月間で、週に 2 日、1 コマ 60 分の授業が 2 回、合計 18 回開講される。学習者は学期ごとに任意で参加するか否かを決めるため、毎学期多少の増減はあるが、大半が同じ学習者である。本実践にも参加した学習者らの多くはゼロ初級レベルから筆者が担当してきた学習者である。第一章でも述べたが、学習者らの年齢、会社での部署は様々であるため、従来の授業方法では習得状況にばらつきがあった。また、学習者らは日中の勤務後に受講するため、疲労から文法説明の時間に居眠りをしてしまうなどの課題があった。そこで、本実践では反転授業形式を取り入れ、これらの課題を改善しようと試みた。

本実践は、2024 年 5 月～7 月（以下、前期）と同年 9 月～11 月（以下、後期）の 2 期にわたって実施した。授業参加者は前期が 11 名、後期は 14 名であった。学習項目はどちらも『大家的日語初級 I・II』のそれぞれ第 10 課～14 課と、第 15 課～19 課である。表 3 は実践概要をまとめたものである。

表 3 実践概要

	前期	後期
実践期間	2024 年 5 月～7 月	2024 年 9 月～11 月
学習者数	11 名	14 名 ⁶
使用教材	『大家的日語初級 I』 『大家的日語初級 II』	『大家的日語初級 II』
学習範囲	第 10 課～14 課	第 15～19 課

従来の授業方法では、語彙導入から文法説明、反復練習、会話練習、リスニング、そして教科書内にあるまとめ問題等応用問題まですべて授業時間内に行ってきた。また、所属する補習班からの要望で、適宜文化紹介を交えつつ、1 学期に 2 回以上は 20 分程度の文化紹介の時間を設けていた。1 課をおよそ 2.5 日（約 5 コマ）で習得するペースであった。さらに、社会人学習者の負担を考慮し、予習復習等の宿題は基本的に出さないというのが補修班及び企業側の考えであった。そのため、学習者は授業当日に語彙、文法と多量のインプットをし、即座にアウトプットの練習をしなければならない。また、教師側はきっちりと文法説明をしたうえで教科書に載っている練習問題を授業時間内に全て終わらせる且つ、機械的な練習で学習者が退屈してしまわぬよう、適宜ゲームなど補足の練習を行わなければならないという焦りがあった。そこで、本実践では、特に時間のかかる且つ学習者が退屈しやすい文法説明箇所を講義動画として事前に配布し、理解確認の簡単な練習問題を含めて予習課題とした。以下、表 4、5 はそれぞれのシラバスである。

⁶ 後期の学習者 14 名のうち、5 名は後期から参加した新規学習者である。5 名のうち 3 名は後期の内容を学習済みで、2 名は未習であった。

表 4 前期のシラバス



週	日程	課数	予習課題	授業内容
第 1 週	5/6			復習
第 2 週	5/8	第 10 課	L10-1	単語、文法(存在動詞)
第 3 週	5/13	第 10 課	L10-2	単語、文法(存在動詞)
第 4 週	5/15	第 10 課		問題練習、文化講座
第 5 週	5/20	第 11 課	L11-1	単語、文法 (量詞①)
第 6 週	5/22	第 11 課	L11-2	単語、文法 (量詞②)
第 7 週	5/27	第 11 課		問題練習、文化講座
第 8 週	5/29	第 12 課	L12-1	単語、文法 (形容詞の過去形)
第 9 週	6/3	第 12 課		中間テスト、L12 の続き
第 10 週	6/5	第 12 課		問題練習、文化講座
第 11 週	6/10	第 13 課	L13-1	単語、文法 (希望表現)
第 12 週	6/12	第 13 課		単語、文法 (希望表現) ゲーム活動
第 13 週	6/17	第 13 課		問題練習、文化講座
第 14 週	6/19	第 14 課	L14-1	単語、文法 (動詞グループ分け、て形①)
第 15 週	6/24	第 14 課	L14-2	単語、文法 (て形②)
第 16 週	6/26	第 14 課		問題練習、第 10 課～第 14 課総復習
第 17 週	7/1			期末テスト、文化講座
第 18 週	7/3			テスト解説、会話練習

表 5 後期のシラバス



週	日程	課数	予習課題	授業内容
第 1 週	9/23			復習
第 2 週	9/25	第 15 課	L15-1	単語、文法(許可, 禁止表現)
第 3 週	10/7	第 15 課	L15-2	単語、文法(結果の持続、習慣)
第 4 週	10/9	第 15 課		問題練習、文化講座
第 5 週	10/14	第 16 課	L16-1	単語、文法(～て／で、～てから)
第 6 週	10/16	第 16 課	L16-2	単語、文法(【N1】は【N2】が～です)
第 7 週	10/21	第 16 課		問題練習、文化講座
第 8 週	10/23	第 17 課	L17-1	単語、文法(ない形①)、中間テスト
第 9 週	10/28	第 17 課	L17-2	単語、文法(ない形②)
第 10 週	10/30	第 17 課		問題練習、ゲーム活動
第 11 週	11/4	第 18 課	L18-1	単語、文法(辞書形①)
第 12 週	11/6	第 18 課	L18-2	単語、文法(辞書形②)
第 13 週	11/11	第 18 課		問題練習、ゲーム活動
第 14 週	11/13	第 19 課	L19-1	単語、文法(た形①)
第 15 週	11/18	第 19 課	L19-2	単語、文法(た形②)
第 16 週	11/20	第 19 課		問題練習、第 15 課～第 19 課総復習
第 17 週	11/25			期末テスト、文化講座
第 18 週	11/27			テスト解説、会話練習

1 回の授業ごとの具体的な流れは表 6 に示す。

表 6 授業の流れ

	前期	後期
授業前	文法解説動画視聴、理解確認問題	文法解説動画視聴、理解確認問題
授業内	①理解確認問題の答え合わせ（教師による解説） ②教科書の文法練習 ③会話練習及びゲーム活動	①理解確認問題の答え合わせ（指名して学習者主体で確認） ②教科書の文法練習 ③会話練習及びゲーム活動
授業後		単語音源のリスニング（任意）

授業内の流れについて、前期の授業では授業の最初に理解確認問題の答え合わせを教師主体で行っていた。そのため、教師による説明の時間が長くなり、会話練習やゲーム活動に当てられる時間が思ったように増えなかった。そこで、後期ではこの部分を学習者を指名して解説してもらうようにし、より学習者主体になるよう修正した。また、確認の際は他学習者の回答も見えるようスライドに表示し、他学習者のミスの指摘と修正を学習者らにさせるようにした。さらに、前期終了時のアンケートで「より即興性のある練習がしたい」という意見がみられたことから、会話練習やゲーム活動においてロールプレイなども適宜行った。

また、授業後について、前期の実践から、文法箇所については動画や練習問題で予習復習の教材があるのに対し、単語についてはそれがなく、単語の定着に時間がかかることが課題であると感じた。そのため、後期では筆者が教科書の単語を読み上げた音源を用意し、単語導入後に配布し、復習教材として使用できるようにした。ただし、先にも述べた通り、忙しい社会人の負担にならないよう、単語音源の使用は任意とした。

実践にあたり、補習班には事前に概要を説明し、学習者らから苦情ができれば従来通りの方法に戻すという条件で許可を得た。講義動画及び文法確認問題はすべて筆者が作成した。次節からは、その講義動画及び文法確認問題の作成と具体的な授業方法について詳しく述べる。

3-2.講義動画及び予習課題の作成



講義動画はすべて筆者が自作したものを YouTube 上にアップロードし、授業前日までに Google Classroom 内に動画リンクを載せるようにした。その際、授業が終わった後も復習教材として使用できるよう、動画に視聴回数や期間の制限は設けなかった。動画の作成には PowerPoint の録画機能を用い、撮影したものを編集ソフト Power Director 365 で編集した。Guo 他 (2014) によれば、動画の長さは長くなるほど学生の視聴率は下がり、特に 6 分以上の動画は多くの学生が途中で視聴をやめる傾向がみられたと報告している。また、動画には話し手の顔が入っているほうが学生の関心度が高まるとしている。そのため、本実践においてもほとんどの動画で 6 分から 10 分以内になるよう作成した。しかし、前期の講義動画については導入する文型の多い回や動詞変化を扱う回などでは最長で 12 分になるものもあった。動画の内容は、すべて中国語で解説を行い、通勤途中や音声を使用できない環境でも動画視聴ができるよう、編集の際に中国語の字幕を付けた。また、一つの文型で 2～3 の例文を用意し、適宜学習者らに自分で考えながら見るよう動画内で声かけを行った。さらに動画の最後にはその回の重要ポイントをまとめたスライドを提示し、動画の締めとした。講義動画の学習項目、長さ、平均視聴時間、視聴回数をまとめたものを表 7、8 に示す。

表 7 講義動画の内訳（前期）

動画番号	動画の長さ	平均視聴時間 ⁷	視聴回数 (授業前)	視聴回数 (授業後)	視聴回数 (合計)
L10-1	7 分 21 秒	2 分 9 秒	63	23	86
L10-2	4 分 34 秒	2 分 41 秒	29	8	37
L11-1	8 分 7 秒	4 分 47 秒	21	9	30
L11-2	8 分 52 秒	5 分 4 秒	19	5	24
L12	12 分 3 秒	7 分 2 秒	16	17	33
L13	9 分 18 秒	5 分 12 秒	15	18	33
L14-1	12 分 12 秒	7 分 52 秒	21	23	44
L14-2	6 分 38 秒	4 分 15 秒	14	10	24

表 8 講義動画の内訳（後期）

動画番号	動画の長さ	平均視聴時間	視聴回数 (授業前)	視聴回数 (授業後)	視聴回数 (合計)
L15-1	4 分 36 秒	3 分 18 秒	22	15	37
L15-2	6 分 17 秒	5 分 2 秒	20	11	31
L16-1	6 分 42 秒	3 分 30 秒	25	13	38
L16-2	7 分 42 秒	3 分 41 秒	22	18	40
L17-1	6 分 40 秒	4 分 25 秒	21	10	31
L17-2	7 分 6 秒	5 分 25 秒	21	10	31
L18-1	7 分 18 秒	5 分 24 秒	21	9	30
L18-2	6 分 25 秒	4 分 27 秒	15	13	28
L19-1	6 分 37 秒	4 分 27 秒	10	8	18
L19-2	9 分 40 秒	6 分 10 秒	17	15	22

⁷ 平均視聴時間の長さについての説明は p.44、66 を参照されたい。



図 1 講義動画例

次に文法確認問題については、Google Forms を用いて作成し、解説動画とおなじく Google Classroom にリンクを載せた。こちらについても回答回数や提出期間の制限は設けなかった。問題は前期は助詞や動詞変化の選択問題や前後件作成問題を中心に 1 回 5 問程度で作成し、後期は 5～10 問程度で作成した。インタビュー調査で、翻訳の問題や短文読解の問題があれば理解に助かるという意見があったため、後期では選択問題や文作成問題に加えて、短文読解と翻訳の問題も適宜出題した。また、後期は動詞変化が多かったため、ほとんどの回で問題の最初に動詞変化の練習問題を入れ、定着を図った。また、前期は確認問題の答え合わせは授業のみで行っていたのに対し、自分が答えた内容を忘れてしまうことや正誤がわからないという意見も見られたので、後期は授業での確認後に教師が個別に採点、コメントをつけて、返却するようにした。

3-3.調査概要

本研究では社会人学習者が反転授業形式をどう評価し、どのように受容していったかを調査するため、授業前後アンケートと数名を対象にした半構造化インタビューを行った。なお、筆記及び口頭の間・期末テスト⁸も実施しており、その結果を以下の表 9 に示す。

⁸ 筆記及び口頭試験については付録①～②を参照されたい。



表 9 定期テストの平均値推移⁹

	中間テスト	期末テスト	口頭試験
前期	85.6	80	84.3
後期	90.1	84.3	84.9

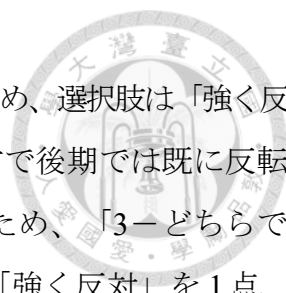
中間、期末テストの両方において、後期の平均点が高くなっている。しかし、受験した学習者が必ずしも一致していないことや試験範囲の難易度に差があることから、今回の分析には使用しない。本研究は点数の面から反転授業の効果を示すことは目的とせず、あくまでアンケートやインタビュー調査を通した、反転授業に対する学習者の内面的な部分に着目し、分析を行う。

以下、2つの調査方法の詳細を述べる。

3-3-1.授業前後アンケート

社会人学習者の学習傾向や反転授業への意識調査を目的に授業前後アンケートを前期と後期の授業前後で合わせて4回行った。アンケートの内容は前期後期の授業状況や学習者らのフィードバックを参考に変更した項目もあるが、【学習方法】【授業形式】【反転授業】に関する項目は前期の授業前後アンケートと後期の授業後アンケートで共通している。前期の授業後アンケートから後期の授業前アンケートの期間は長くなく、本実践ではあくまで2学期間を通した反転授業の実践による学習者の意識変容を測定するため、後期の授業前アンケートでは、前期の授業に対する感想や改善してほしい点などを問うた【前期授業について】という項目と普段の日本語学習でどのような媒体を使用しているのかに関する【学習方法】の項目のみに留めた。また、前期のアンケートでは回答の曖昧さ避け、社会人学習者の日本語学習

⁹ 表9は中間、期末の両方に参加した参加者の平均を示している。なお、中間・期末ともに受験した学習者は、前期は計9名、後期は11名であった。



に対する意識や反転授業に対する考えの大まかな傾向を掴むため、選択肢は「強く反対」、「反対」、「同意」、「強く同意」の4件法を採用した。一方で後期では既に反転授業を経験した学習者らの反転授業への考えをより詳しく知るため、「3—どちらでもない」を入れた5件法を用いた。なお、分析の際には前期は「強く反対」を1点、「反対」を2点、「同意」を3点、「強く同意」を4点とし、後期は「どちらでもない」を3点に加え、「同意」を4点、「強く同意」を5点とした。また、第4章で作成した表は「強く反対」と「反対」を「反対」、「同意」と「強く同意」を合わせて「同意」とした。収集したアンケートのうち、授業前後どちらも回答した学習者のもののみを使用したため、調査の対象となったのは前期で計9名、後期は計13名である。

3-3-2.半構造化インタビュー

社会人学習者の反転授業への受容過程を調べるため、2学期間にわたり、定期的な半構造化インタビューを行った。インタビューの実施回数は、授業開始前、中間テスト後、授業終了時の計3回で、すべてのインタビューは30分以内で行った。なお、インタビューの際の使用言語は中国語である。また、学習者には学期の始めに研究対象となる同意書を配布した際、授業前後で30分以内のインタビューに参加してもよければ「可」、不都合であれば「不可」と書くようお願いし、「可」と書いた学習者の中からランダムで前期4名（学習者A～D）、後期に5名（学習者B～E）を選んだ。対象者は前期と後期でほとんど同じだが、前期でインタビューに応じた4名のうち学習者Aは後期で仕事上の負担からインタビューの継続が難しくなり、後期ではその一名に替わり、新たに学習者Eを加えた。以下の表10は対象者の詳細である。

表 10 半構造化インタビュー対象者詳細¹⁰

No.	年齢、性別	日本語学習歴	調査学期
学習者 A	30 代、女性	1 年	前期
学習者 B ¹¹	20 代、男性	1 年	前期、後期
学習者 C	20 代、男性	1 年	前期、後期
学習者 D	20 代、女性	1 年	前期、後期
学習者 E	30 代、女性	数年（自学含む）	後期
学習者 F	30 代、男性	1 年	後期

なお、第 4 章では授業前後アンケートの結果に基づく分析を行なっているが、その解釈を補強する目的で、インタビュー発話内容も補助的に引用しており、インタビューを実施した全ての学習者の発言を必要に応じて取り上げている。しかし、第 5 章の SCAT 分析においては、反転授業の初期受容過程と継続後の受容態度を明らかにするという目的から、前期から継続して反転授業形式を受講している学習者のみを分析対象とした。そのため、後期から新たに授業に参加し、反転授業を初めて経験した学習者 F に関しては、SCAT 分析の対象から除外した。

半構造化インタビューで得られたデータはすべて文字化し、日本語に翻訳した後、大谷（2008）が開発した SCAT 分析法を用いて分析した。本分析に SCAT 分析法を採用したのは「比較的小さな質的データの分析にも有効で初心者にも着手しやすい質的分析手法である（大谷 2008）」という理由からである。分析における具体的手順は、〈1〉データの中の着目すべき語句、〈2〉それを言いかえるためのデータ外の語句、〈3〉それを説明するための語句、〈4〉そこから浮き上がるテーマ・構成概念の順に

¹⁰ 学習者は全員以前から筆者の担当する初級日本語クラスを受講してきた。

¹¹ なお、学習者 B についてはインタビュー実施回数が 2 回にとどまり、授業終了後のインタビューが実施できていない。ただし、反転授業導入初期の反応に関する示唆が得られるため、分析に含めることとした。

コードを考え付して行くコーディング作業と、そのテーマ・構成概念を紡いでストーリーラインを記述し、そこから理論を記述する手続きとからなる。分析の際には大谷（2008、2011）が作成した SCAT 分析の際のエクセルフォームを参考に実施した。

表 11 SCAT 法による分析結果の例

テキスト	テキスト中の注目すべき語句	左の語句の言い換え	左を説明するテキスト外の内容	そこから浮き上がるテーマ、構成概念
文法的部分是沒有不懂的地方。老師的影片都還蠻清楚的。（文法の部分でわからないところは特になかった。先生の動画はわかりやすい）	先生の動画はわかりやすい。	文法解説が明確でわかりやすい。	動画が理解支援として機能している。	教材としての動画の有用性

第四章 社会人学習者の反転授業への評価



本節では、前期と後期の授業前後に行ったアンケートの結果を報告する。ここでは、まず 4-1 で前期における授業前後アンケート結果を報告し、学習者らが初めての反転授業をどう評価したのか、予習復習に関する意識がどう変容したかを明らかにする。その後、4-2 で後期の授業前後アンケート結果を報告し、2 度目の反転授業をどう評価したか、改善すべき点について考察する。

4-1.前期の授業前後アンケートの結果と分析

前期の授業前アンケートではカテゴリーが【学習経歴】、【今後の計画】、【学習方法】、【授業形式】、【反転授業】という 5 つの項目に分かれている。授業後アンケートでは【学習経歴】と【今後の計画】に替わり、【文法動画】という項目を設けた。以下より、項目ごとに授業前後アンケートの結果を報告、比較する。

まず、【学習経歴】については①これまでの日本語学習歴と②日本語学習の動機について自由記述で問うた。①については 9 名中 7 名が日本語学習歴 1 年と回答した。この学習者らはすべて同企業における日本語の授業で筆者が 50 音から授業を担当してきた学習者らであった。その他の 2 名については趣味のために独学で日本語学習を続けており、一名は 3 年、もう一名は 5 年と回答した。但し、2 名とも日本語能力検定等は受験したことがなく、レベルも筆者の感覚にはなるが、初級レベルである。また、②については、「去日本玩（日本へ行って遊ぶ）」、「喜歡日本文化（日本の文化が好き）」等の日本旅行やアニメ観賞のためという回答や、「有成就感（達成感がある）」、「多學技能（スキルアップ）」、「自我成長（自己成長）」、「充實自我（自己の充実）」、という自己成長のために日本語を学習するという回答が得られた。

表 12 【学習経歴】日本語学習の動機



很有趣,很好玩,有成就感。(面白い、楽しい、達成感がある。)
動畫,舞台劇,想了解劇情靠自己的能力。(アニメや舞台劇を自分の能力で理解したい。)
對日本文化有興趣。(日本文化に興味がある。)
加薪。(給料アップ。)
自我成長。(自己成長。)
想去日本玩。(日本へ遊びに行きたい。)
去日本旅遊可以使用,或如果工作有用到可以使用。(日本旅行若しくは仕事で使用する事があれば使用したい。)
工作加薪,但現在公司沒有加薪了,就當多學技能。(給料アップ、でも今は給料アップの機会はなくなったのでスキルアップの為。)

次に【今後の計画】については、表 13 に示す通り、①前期の授業終了後も日本語学習を続けようと思うか、②日本語検定を受ける計画はあるか、③将来仕事で日本語を使用したいか、④旅行の際に日本語を使用したいかという 4 つの設問を設けた。

表 13 【今後の計画】

質問		反対	同意	平均値 ¹²
1	J3 クラスが終わった後も日本語学習を続けたい	1 人 (11%)	8 人 (89%)	3.11
2	日本語能力検定を受けたい	3 人 (33%)	6 人 (66%)	2.78
3	将来日本語を使用して仕事をしたい	1 人 (11%)	8 人 (89%)	3.11

¹² 第三章でも述べたが、分析の際は「強く反対」を 1 点、「反対」を 2 点、「同意」を 3 点、「強く同意」を 4 点とし、数値化し、学習者の傾向をより明確に把握するために、平均値を記載した。数値が高いほど、同意の傾向が強いことを示す。なお、前期における全ての設問の回答者数は 9 人であり、各項目の合計は 100%となっているため、本表では合計欄の記載を省略している。

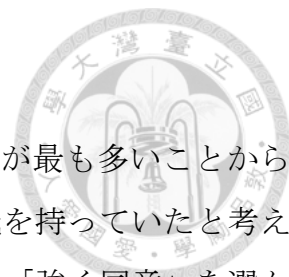
4	旅行の際に日本語を使用したい	0 人 (0%)	9 人 (100%)	3.78
---	----------------	----------	---------------	------

この結果から日本語学習を続けたいと考えている学習者が多く、その動機としては旅行の際に使用できること等が挙げられる。また、実践を行った段階で仕事上日本語を使用している学習者はいなかったが、もし機会があれば日本語を仕事上で使用し、スキルアップにつなげたいと考えている学習者が多いようである。次に、【学習方法】については普段の学習方法に関する質問を 4 つ設けた。その結果を表 14 に示す。設問 4 については、選択肢を「1－無し」、「2－1 時間」、「3－2 時間」、「4－3 時間以上」としている（図 3）。

表 14 【学習方法】前期、授業前、後

質問		反対		同意		平均値	
		前	後	前	後	前	後
1	授業前に予習もしくは授業後に復習をする ¹³ 。	3 人 (33%)	0 人 (0%)	6 人 (66%)	9 人 (100%)	2.6	3.2
2	テスト前になって勉強を始める。	1 人 (11%)	1 人 (11%)	8 人 (89%)	8 人 (89%)	3.4	3.2
3	普段日本語に触れるもしくは使用する機会がある。	3 人 (33%)	5 人 (56%)	6 人 (66%)	4 人 (44%)	2.7	2.4

¹³ 質問 1 では自学の習慣があるかどうかを把握することを目的としており、予習と復習は区別していない。



まず、授業前について、質 1 で「3-同意」を選んだ学習者が最も多いことから、学習者の多くは反転授業の導入前からある程度の自己学習意識を持っていたと考えられる。しかしながら、質問 2 で半数以上が「同意」もしくは「強く同意」を選んでいることに加え、質問 4 「1 週間の平均日本語学習時間」では半数以上が 0～1 時間と回答していることから、予習復習が十分に定着しているとはいえない。これについて、インタビューでも「時間があれば復習する」という意見がみられ、予習復習の必要の意識はあるものの、実際に行動に移せているとは言えない状況であると考えられる。また、なぜ予習・復習しないのかという問いに対しては「自分では難しい」という意見が得られ、予習・復習の方法が分からないという困難を抱えている様子も見られた。

続いて、これらを授業後の結果と比較する。この項目で特に変化があったのは質問 1 で、図 2 から分かるように、授業前は予習・復習をしないと答えていた学生がいたが、授業後アンケートではすべての学生が「同意」もしくは「強く同意」を選んでいる。

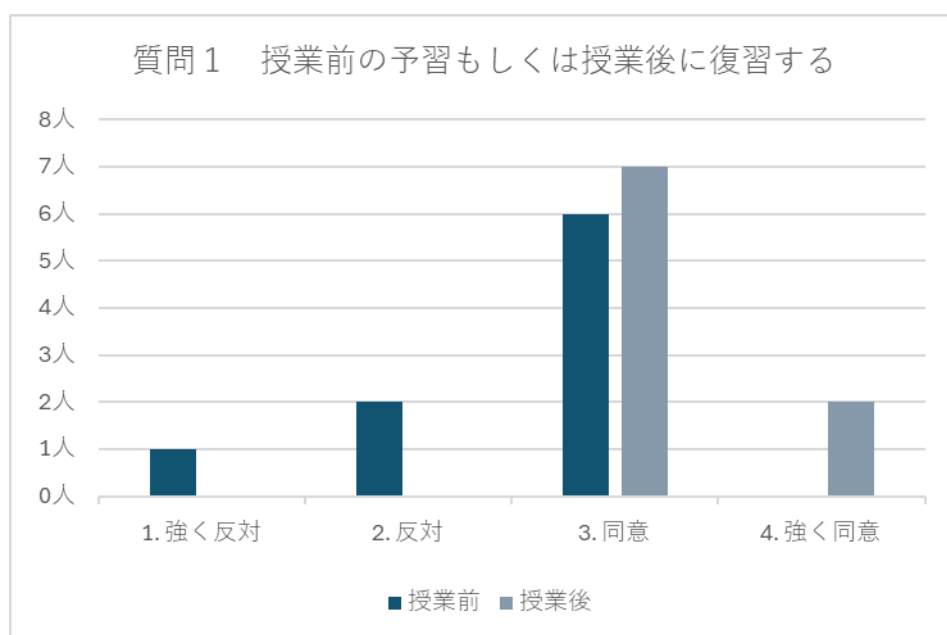


図 2 【学習方法】質問 1 前期、授業前後

さらに、一週間の日本語学習時間について問うた質問4でも、図3に示すとおり、「1ー無し」と答えた学習者が減少し、「2ー1時間」と答えた学習者が増加した。これは、反転授業形式では事前に文法動画の視聴、予習課題をする必要があるため、必然的に予習時間を確保するようになったと考えられる。インタビューでも「動画視聴及び予習課題の答えを考える時間が増えた」、「動画視聴や予習課題の他に、Google Classroomにも授業資料などが挙げられているので予習復習の方法が増えた」などの感想が得られた。

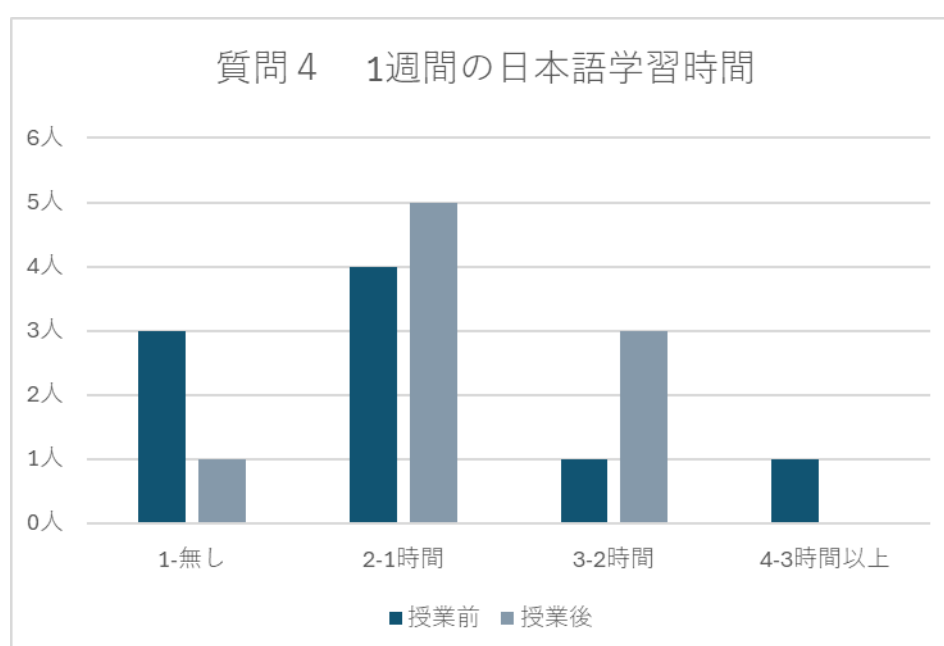


図3 【学習方法】質問4前期、授業前後

次に【授業形式】について、学習者がどのような授業形式を好むのかと特に伸ばしたい技能に関する質問を5問設けた。その結果を表15に示す。

表 15 【授業形式】 前期、授業前後

質問		反対		同意		平均値	
		前	後	前	後	前	後
1	会話とリスニング中心の授業のほうがいいだ	0 人 (0%)	0 人 (0%)	9 人 (100%)	9 人 (100%)	3.7	3.2
2	読解と作文中心の授業のほうがいいだ	5 人 (56%)	4 人 (44%)	4 人 (44%)	5 人 (56%)	2.4	2.7
3	文法中心の授業が好きだ	4 人 (44%)	3 人 (33%)	5 人 (56%)	6 人 (66%)	2.7	2.9
4	授業中ペアワークやグループワークをするのが好きだ	0 人 (0%)	0 人 (0%)	9 人 (100%)	9 人 (100%)	3.1	3.4

会話、リスニングの授業を好むかという質問 1 とその練習方法に関する質問 4 ではすべての学習者が「同意」若しくは「強く同意」を選んでいる。一方で、文法、読解や作文を中心とした授業を好むかという質問 2、3 では「反対」から「強く同意」まで回答が割れた。また、4 技能のうち最も伸ばしたい技能を問うた質問 5 では図 4 のとおり、「話す」を選んだ学習者が最も多かった。次いで「聞く」が二番目に多く、1 名が「読む」、そして「書く」を選んだ学習者は一人もいなかった。加えて、自由記述回答とした質問 6「今学期のクラスに求めること」では「希望可以與日本人流暢的溝通（日本人とスムーズにコミュニケーションできるようになりたい。）」や「希望可以更了解日文的使用,並吸收基礎的使用（日本語の使い方をより理解し、その基礎を吸収したい。）」など日本語の使用面を伸ばしたいという回答が見られた。この

結果から学習者の多くは会話やリスニングのスキル向上を重視しており、特に「話す」技能を伸ばしたいと考えていることが分かる。さらに、自由記述回答の結果から、日本語の運用能力を高めたいという意見が見られたことから、学習者は知識の習得だけでなく、実際の会話で使えるスキルの習得を重視していると考えられる。

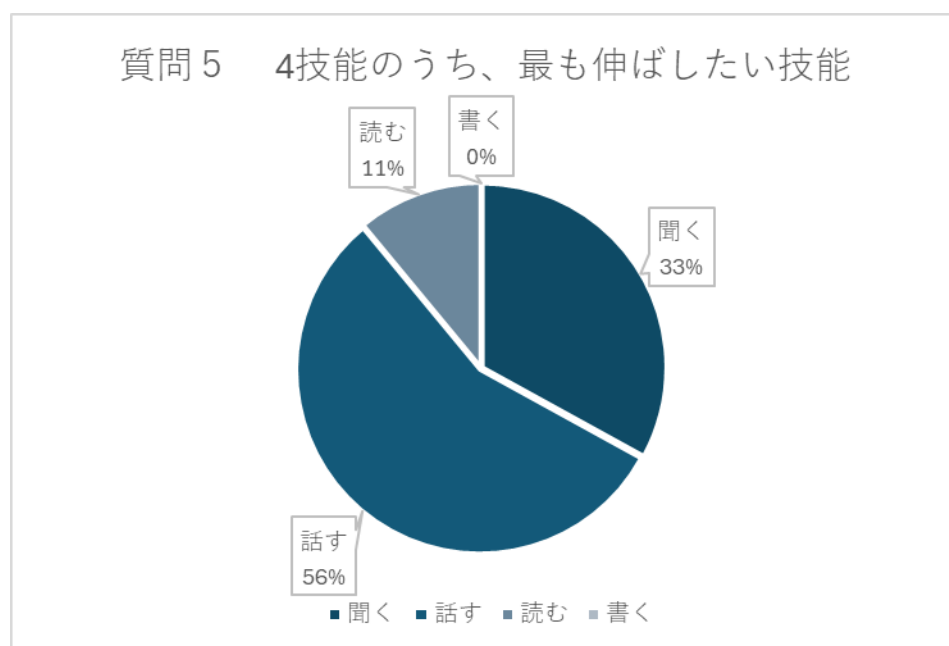
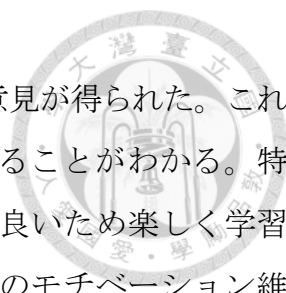


図 4 【授業形式】質問 5 前期、授業前

次に、授業後の結果と比較する。この項目については、どの質問においても特に大きな変化は見られなかった。授業後アンケートの自由記述形式の質問では「雖然課程變難,但是上課氣氛很好,學習起來很開心 (授業は難しくなったが、クラスの雰囲気良く、楽しく学習できた)。」、「我覺得 J3¹⁴比 J2 難蠻多,影片可以幫助複習 (J3 は J2 より難しくなった。動画が復習の助けになった)。」、「一樣很有趣,而且不用抄寫很多筆記就能快速記住 ((J2 と) 同じく面白かった。しかもメモをたくさん取る必要がなく、速く覚えられる)。」、「因為有影片增加了預習的頻率,並使學習更有效率,希望補充的內容都可以有紙本 (動画があるため予習の頻度が増え、学習の効率が

¹⁴ J3、J2 はクラス名。それぞれ Japanese Level3 (『大家的日語 I・II』第 10～14 課)、Japanese Level2 (『大家的日語 I』第 5～9 課) の略。また J3 は本論文における前期のこと。



高まった。補足内容については紙の資料が欲しい。」という意見が得られた。これらから、学習者は反転授業に対して概ね肯定的な評価をしていることがわかる。特に、授業の難易度が上がったと感じつつも、クラスの雰囲気が良いため楽しく学習できたという意見が複数見られたことから、学習環境が学習者のモチベーション維持に寄与していると考えられる。また、授業が難しくなったと感じる学習者にとって、講義動画が復習の助けとなったという意見があり、反転授業の予習・復習支援の効果が一定程度認められる。さらに、メモを取る必要が減り、効率的に学習できたと感じる学習者がいることから、動画の活用によって授業中の負担が軽減され、より理解に集中できる環境が整ったと考えられる。一方で、「補足内容については紙の資料が欲しい」という意見が見られたことから、デジタル教材だけでなく、紙媒体の補助資料を併用することで、学習者のニーズにさらに応えられる可能性がある。

これらの結果を踏まえると、学習者は反転授業を通じて予習・復習の習慣を身につけつつあり、学習の効率向上を実感していることが分かる。しかしながら、学習内容の難易度が上がる中で、補助教材の充実や授業内でのサポートの工夫が課題となった。

続いて、【反転授業】の項目では授業前は反転授業に期待すること等に関する 6 つの質問、授業後は学習者が反転授業をどう評価したのかに関する 9 つの質問を設けた。授業前アンケートは質問 6、授業後アンケートは質問 8、9 が自由記述式の質問である。

まず、授業前の結果は表 16 のとおりである。

表 16 【反転授業】前期、授業前

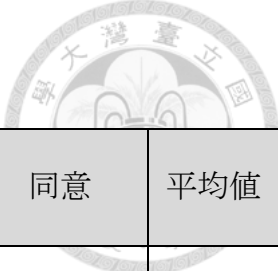


質問		反対	同意	平均値
1	反転授業形式の授業を受けたことがある。	8 人 (89%)	1 人 (11%)	1.4
2	反転授業についてよく理解している。	9 人 (100%)	0 人 (0%)	1.4
3	反転授業が学習効率を上げることを期待する。	0 人 (0%)	9 人 (100%)	3.4
4	反転授業が先生との交流を増やすことを期待する。	0 人 (0%)	9 人 (100%)	3.4
5	反転授業がクラスメートとの交流を増やすことを期待する。	0 人 (0%)	9 人 (100%)	3.4

この結果から、ほとんどの学習者にとって今回の実践が初めての反転授業だったことがわかる。また、学習効率や教師、クラスメートとの交流の機会を増やすことを期待している。その他授業に期待することについて聞いた質問 6 では、「期待上課（授業が楽しみ）。」や「希望可以了解一些日本的規範或避免的行為（日本のルールや避けるべき行動について理解したい）。」などの意見が得られ、学習者が単に日本語を勉強ではなく、日本旅行などの際に役立つ日本文化に関する紹介も期待していることがうかがえる。

次に、授業後の【反転授業】項目の結果を表 17 に示す。

表 17 【反転授業】前期、授業後



質問		反対	同意	平均値
1	反転授業形式に満足した。	0 人 (0%)	9 人 (100%)	3.4
2	反転授業は先生との交流を増やした。	3 人 (33%)	6 人 (67%)	3.2
3	反転授業はクラスメートとの交流を増やした。	3 人 (33%)	6 人 (67%)	3
4	反転授業が学習効率を上げた。	0 人 (0%)	9 人 (100%)	3.6
5	反転授業形式によって主体的な学習の習慣を培うことができた。	0 人 (0%)	9 人 (100%)	3.3
6	以前の授業形式より反転授業形式のほうが好きだ。	0 人 (0%)	9 人 (100%)	3.4
7	反転授業形式は面倒で嫌いだ。	9 人 (100%)	0 人 (0%)	1.6

質問 1、4、5、6 ではすべての学習者が「同意」もしくは「強く同意」を選っており、反転授業によって自習の習慣ができ、学習効率が高まったという理由から反転授業を高く評価していることが分かる。しかし、先生やクラスメートとの交流の機会についての質問 2、3 では回答が割れており、授業前アンケートで期待されていた「教師やクラスメートとの交流を増やす」ということは達成されたとはいえない結果となった。これに関しては、授業内での進行において、単語の導入や丁寧な文

型の確認に加え、授業内容から派生した日本文化の紹介や雑談的なやり取りに時間が割かれ、口頭練習にかけられる時間が大幅に増えたという実感が学習者にとって得られにくかったと考えられる。結果的に反転授業においても、教師やクラスメートとの交流に割かれる時間が従来の授業と大きく変わらなかったように感じられた可能性がある。前期はまた、自由記述の質問8、9の結果は表18、19の通りである。

表 18 【反転授業】前期、質問 8

質問 8 反転授業に関する意見
看影片預習有助於了解上課內容。 (動画をみて予習することは授業内容の理解に役立った。)
上課有趣不死板,考前複習很方便,上課可以一直練習口說。 (授業は面白く、(動画が) テスト前の復習に便利だった。授業中はずっと口頭練習ができる。)
因為有影片,複習跟預習更方便了,我覺得很棒。 (動画があるため、復習と予習に便利。素晴らしいと思う。)
我覺得課後或考前可以看影片複習,可以提高學習效果。 (テスト前に動画を見て復習することで学習効果を上げることができると思う。)
很棒,複習時忘記可以回去再看一次加深印象。 (すばらしい。復習の時、忘れたらもう一度見る事ができ、印象深くすることができる。)
影片增加了很多練習的方式,可以課前就了解上課的主要內容,除了文型也可以有其他的預習內容。 (動画が沢山の練習方法を増やした。授業前に授業の主要な内容を理解できる。(教科書の) 文型以外にも他の予習内容がある。)

表 19 【反転授業】前期、質問 9

質問 9 今回の反転授業実践に対して、改善が必要な点やアドバイス
更多對話口說練習。 (より多くの口頭練習。)
我覺得影片可以縮短一點,然後分多部,可以比較好找到自己要複習的片段。 (動画はもっと短くてよいと思う。またいくつかのパートに分けた方が復習の際に自分が必要な説明箇所を探しやすい。)
可以分成較多小節。 (短いパートに分けた方がよい。)
影片的收音稍微比較不好,有時候細節會比較聽不清楚。 (動画の音量がすこし悪い。細かい部分がはっきりと聞こえない時がある。)
課堂上的互動內容可以更多,使得學生有更多練習口說或聽力的練習。 (授業での(会話などの)活動を増やし、学生らにより多くの口頭練習とリスニングの練習をさせた方がよい。)

これらの結果から、動画があることで授業前に理解を深めることができ、授業後の復習の際にも便利であることを評価していることが分かる。また、インタビューでも「テスト前に動画で文法説明を再確認できて便利」という意見が数名から得られた。口頭練習の多さについては、増えたと感じた学習者も見られるが、もっと多いほうが良いと回答した学習者もいた。これについては、筆者自身も実践期間中、思っていたほど口頭練習の時間を増やせていないことを感じていた。その理由として、授業冒頭に行う確認問題の答え合わせを教師中心で詳しく行なっていたこと、文法説明は動画内で完結させるものの、単語は授業内で初めて導入すること¹⁵、教科書の単調な練習が多かったこと¹⁶が理由として挙げられる。確認問題の答え合わせについては後期において学生主体で確認を進め、単語導入についてもできるだけ

¹⁵ 単語の導入方法：単語のイラストもしくは写真をスライドに用意し、学習者には単語の導入、その単語から派生する内容や印象強化につながる内容があれば逐次導入。意味の確認後、復唱練習。

¹⁶ 所属する補習班からの要求で、教科書内の問題はすべて終わらせるよう言われていた。

簡潔に進めるよう改善を試みた。ただし、単語導入を簡潔にする代わりに、補助教材として単語音源を後期から導入し、個人のニーズに合わせて予習・復習に使用できるようにした。また、動画の長さについてもう少し短くした方が良いという意見が見られたため、後期では全ての動画を10分以内で作成するよう心がけた。

最後に【文法動画】項目の結果を報告する。

まず、質問1「動画が役に立ったか」には56%が「1-とても役に立った」、44%が「2-役に立った」を選んでいった。また、質問2「動画は必要か」には「1-あったほうが良い」が100%であり、学習者らは動画を用いた学習を高く評価していることがわかる。動画の長さについての質問3では1名が「2-少し長い」それ以外は「3-ちょうどよい」と回答していた。複数回答形式の質問4~6については結果を図5~7に示す。まず、図5を見ると、「3-教科書を見ながら視聴した」と回答した学習者が最も多い。次いで、「何度も視聴した」「途中で一時停止しながら見た」の順で回答が多かった。「5-その他」を選んだ学生については、「考前復習好回憶（テスト前に復習して思い出す。）」「影片有分講解和最後的重點整理,復習可以依據需求回頭選要看的部分（動画は説明とまとめの部分に分かれているから、復習の時は自分が必要なところだけを見る。）」という回答があった。視聴回数が多いのに対し、平均視聴時間が短いのはこのためである¹⁷。

¹⁷ 詳しい視聴回数と平均視聴時間は第三章表7を参照されたい。

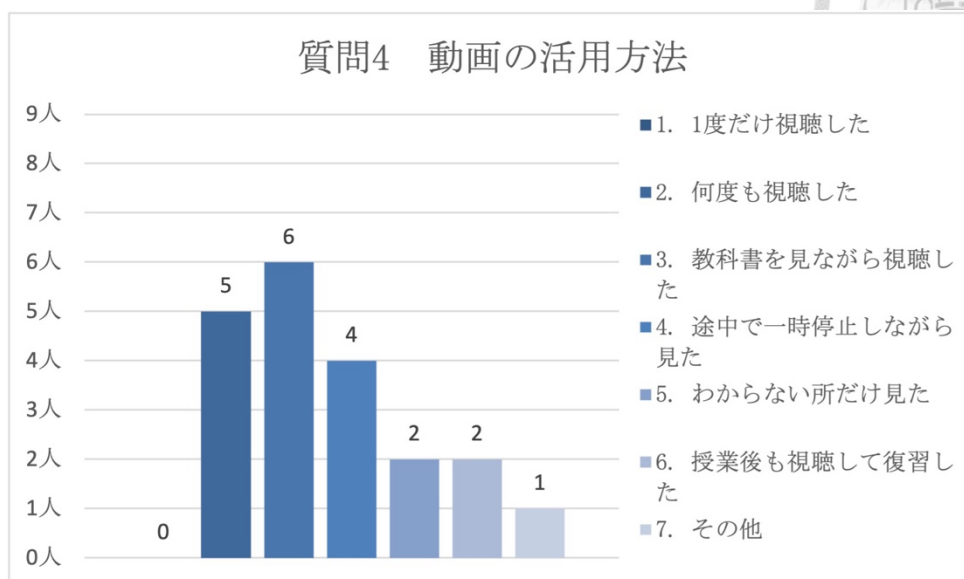


図5 【文法動画】質問4 前期、授業後（複数回答）

続いて質問5「動画の利点」について、特筆すべきは、すべての学習者が「予習がしやすくなった」を選んでしたことだ。学習者らは動画視聴と文法問題という予習課題が課されることで、予習の指針が明確になり、【反転授業】項目の質問5「主体的な学習習慣を養うこと」が可能になったのではないかと考える。

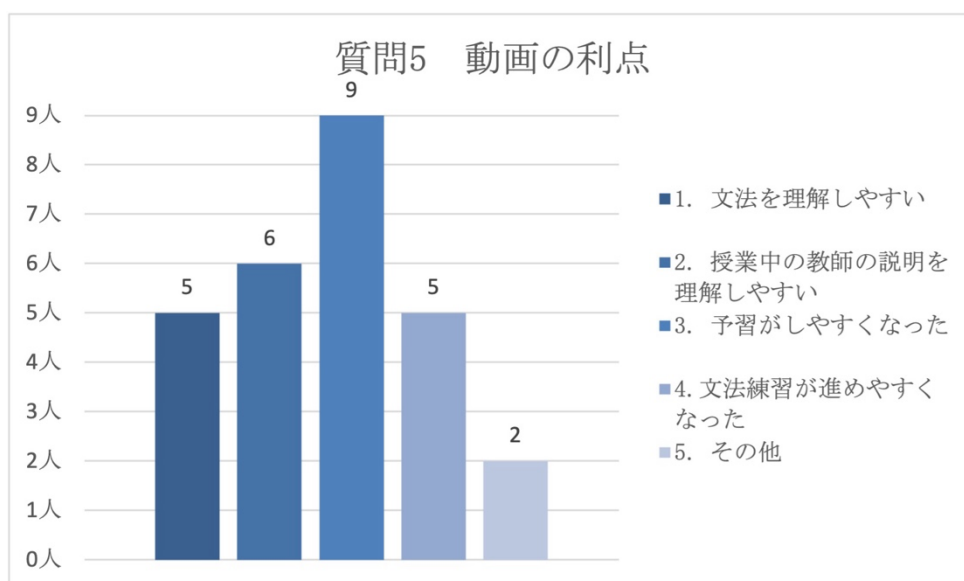


図6 【文法動画】質問5 前期、授業後（複数回答）

最後に、質問 6「動画を見なかった理由」については、「1－忙しく時間が無かった」が最も多かった。「5－その他」を選んだ学生は「太忙不小心忘記了（忙しすぎて忘れてしまった。）」と回答していた。インタビューでは「忙しくて動画を見られなかったことがあり、授業中にも文法説明が少しあればいいと思った」という意見が得られた。

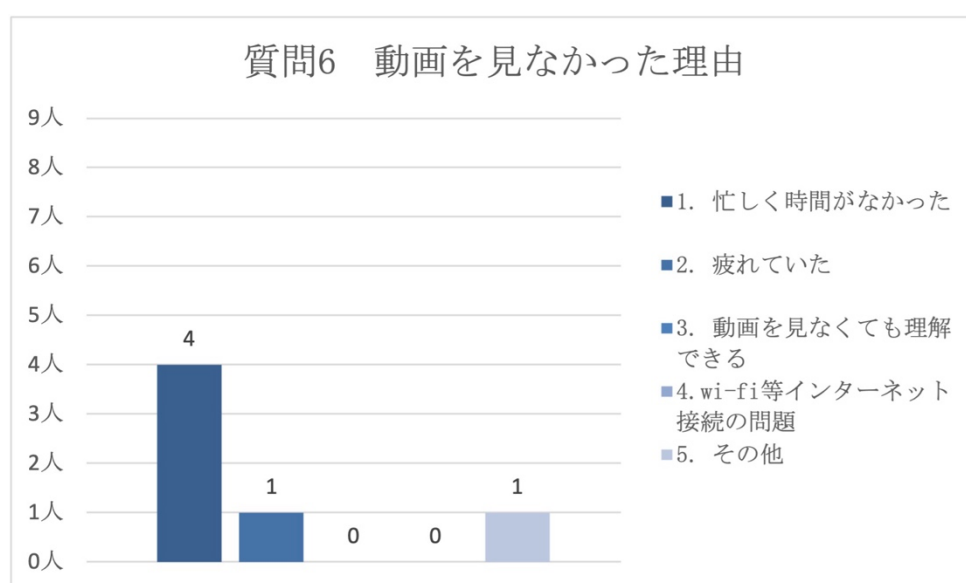


図 7 【文法動画】 質問 6 前期、授業後（複数回答）

以上が前期における授業前後アンケートの結果である。次節では後期における授業前後アンケートの結果を報告する。

4-2.後期の授業前後アンケートの結果と分析

後期の授業前アンケートにおいては前期で反転授業を経験した学習者らが今回の授業に対してどのような期待をしているのか【前期への感想】と普段の自習に関する【学習方法】の項目を設けた。また、授業後アンケートでは前期の授業後アンケートと同じく【学習方法】【授業形式】【反転授業】の項目の他、【自己評価】と【動画と筆記予習課題】に関する質問を設けた。

まず、前期の授業に参加した感想、今回の授業に求める事など 4 つの質問を設けた【前期への感想】の結果を報告する。ただし、後期の学習者 14 名のうち、調査対象となったのは 13 名で、うち 5 名は新規学習者であった。そのため未回答も多くみられた。前期では単語の定着度に改善の必要が見られたため、質問 1 では「単語の音源が必要か」を問うた。図 8 にその結果を示す。

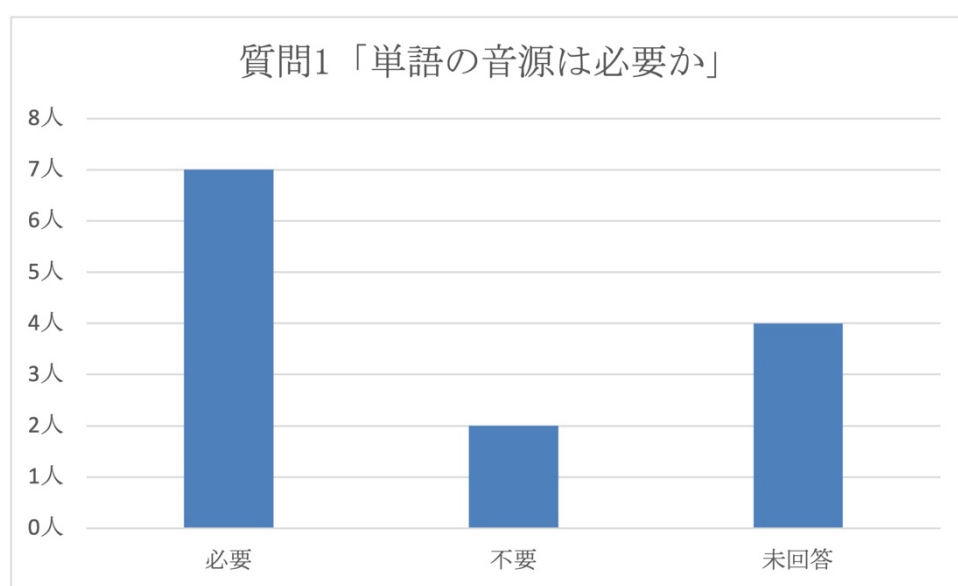


図 8 【前期への感想】質問 1

このように、半数以上が単語音源が「必要」を選んだため、後期では文法解説動画、筆記課題に加えて教科書内の単語を読み上げた音源も配布した。この単語音源については授業後アンケートの【動画と筆記予習課題】の項目における質問 11、12 においてどう活用したか確認したところ、「単語音源を利用しましたか」という質問 11 に対して 13 名のうち 10 名が「利用した」と答えた。また質問 12 でその活用方法に聞いたところ、表 20 のように、授業前や単語復習時に聞き、発音面を意識して活用したという回答が得られた。



表 20 【動画と筆記予習課題】質問 12 後期、授業後

質問 12 単語音源の活用方法
注意老師的發音。 (先生の発音に気をつける。)
邊聽邊備單字,確認唸法。 (聞きながら覚えて、読み方を確認する。)
聽,發音,加強印象。 (聞く、発音、印象付ける。)
背單字前會先聽一次。 (単語を覚える前に一度聞く。)
上課前聽一次。 (授業前に一度聞く。)
聽後跟著唸。 (シャドーイングする。)
抱歉最近才發現,用的時間很少,但通勤的時可以聽,用聽的。 (すみません。最近気が付いたので使用した時間が少ないです。でも通勤の時に聞くことができます。)

単語音源に関して改善すべき点を聞いた質問 13 では「唸慢一點,要停頓一下 (もう少しゆっくり読んでほしい。停めなければいけない。)」という意見が見られたため、読み上げのスピードに関しては改善の必要がある。今回は学習者の負担を考え、単語音源の使用は任意としたが、授業前に単語音源を一度以上聞いてくることを必須にした方が、授業での単語導入がスムーズになったと考える。単語については小テストを実施するかなどについても今後検討が必要である。

【前期への感想】の質問3「どんな口頭練習が一番好きか」という質問に対しては、ペアワークを1位もしくは2位に選んだ学生が最も多く、ペアワーク、グループワークに関してはばらつきが見られた。また、自由回答の質問3「文法説明動画に関して改善してほしい点や求めることはありますか。」と質問4「今学期の授業になにか期待することはありますか。」で得られた回答を表21に示す。

表 21 【前期への感想】質問 3,4 後期、授業前

質問 3 文法説明動画に関して改善してほしい点や求めることはありますか。
希望詳細。(詳しい説明が良い。)
很棒,可以多一點更好。(素晴らしい。もっと多ければなお良い。)
更加加強印象的表達或照片。(より印象に残る表現や写真を増やしてほしい。)
聲音方面建議可以使用好一點點設備～戴耳機有時候開到最大聲還會有點不太清楚。(音質面に関して、少し良い機材を使ったほうが良い。イヤホンをして音を最大にしてもはっきり聞こえない時がある。)
質問 4 今学期の授業になにか期待することはありますか。
滿意。(満足。)
口說練習。(口頭練習。)

動画に関しては詳しい説明を求める声や、動画内で使用するイラストの工夫を求める声が見られた。また音質についてもはっきりと聞こえないと指摘があったため、後期では撮影の際にマイクを使用し、スライドには印象に残りやすいようなイラスト等を用いることを心掛けた。また、授業の際にはペアワークをメインにし、グループワークやゲーム形式も適宜導入しながら、前期よりも口頭練習の時間を増やすことを意識した。また、インタビューでは、「文法説明の際や授業中の練習で以前に習った文法をもっと入れてほしい」という意見もあったため、文法動画作成や授業内活動を考える際に、既習文法も含めつつ復習となるように意識した。

次に、授業前アンケートの【学習方法】の項目で得られた結果を報告する。

まず、質問1「一週間の日本語学習時間」の結果を図9に示す。

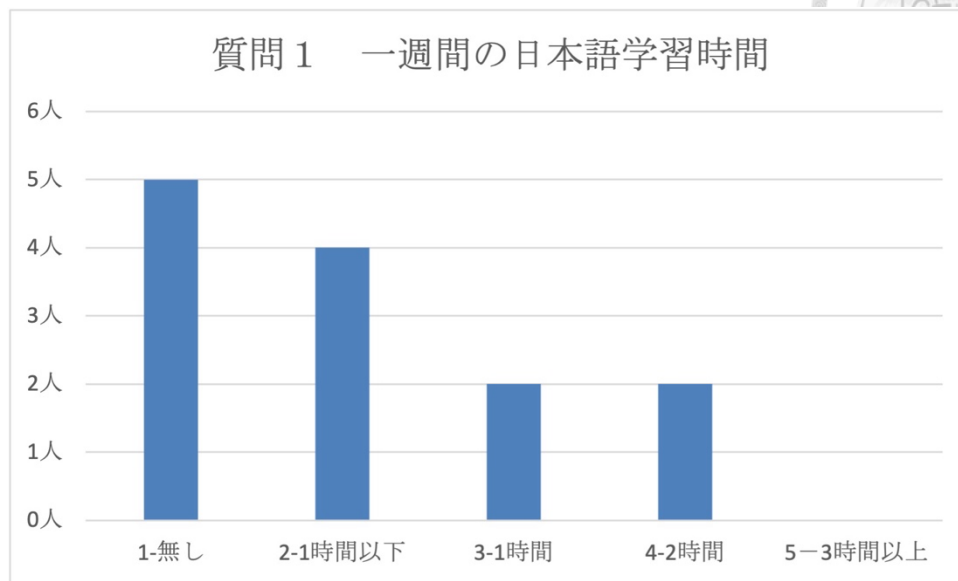


図 9 【学習方法】質問 1 後期、授業前

先に述べた前期の授業前後アンケートにおける「1 週間の日本語学習時間」の質問では授業後は授業前に比べ学習時間の増加が見られたが、後期の授業前においては「1-無し」を選んだ学習者が多かった。しかし、「1-無し」を選んだ 5 人のうち、3 人は後期から参加した新規学習者であり、前期から継続して授業に参加している学習者についてはほとんどが「1 時間以下」～「3 時間」を選んでいて、そのため、反転授業に参加した学習者については学期終了後もある程度の日本語学習習慣が継続されていたと考えられる。

また、同様の質問について、授業後アンケートではこれまでの「1 時間以下」を選んでいる学習者が多いという回答結果を踏まえ、選択肢を「1-無し」「2-10 分以内」「3-30 分以内」「4-1 時間」「5-2 時間以上」に変更した。その結果、図 10 の通り、30 分以内と回答した学習者が最も多かった。

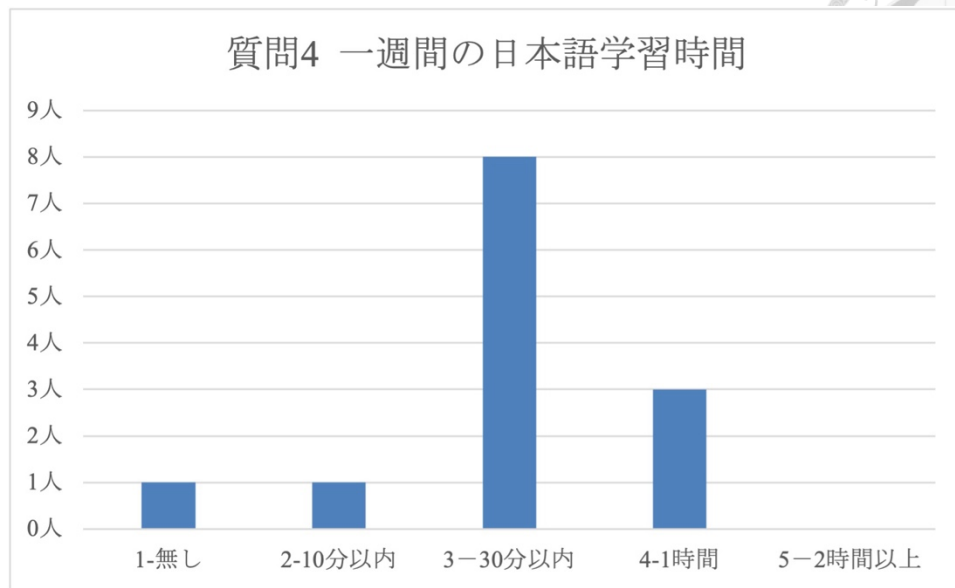


図 10 【学習方法】 質問 4 後期、授業後

次に、予習復習の習慣があるかという質問 2 は図 11 の結果となった。

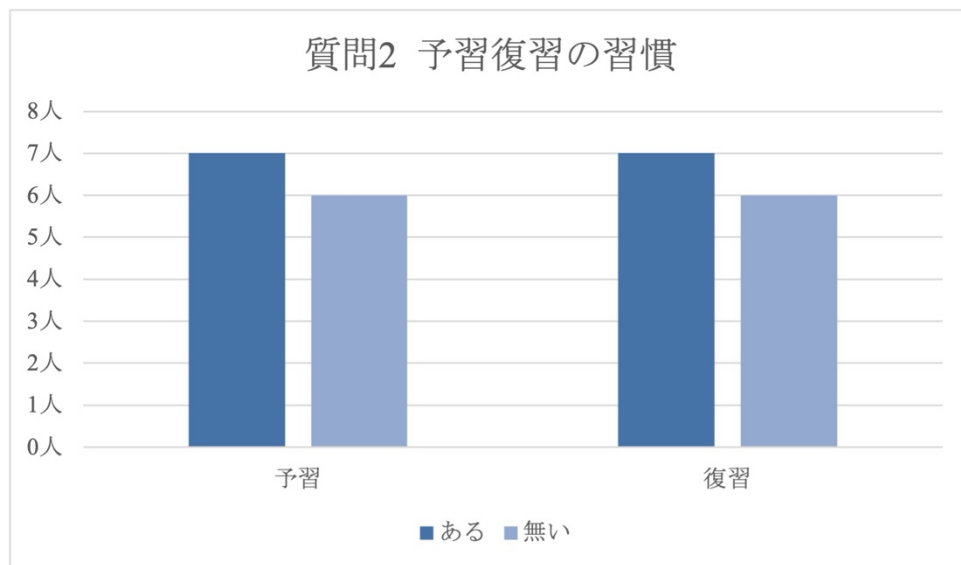


図 11 【学習方法】 質問 2 後期、授業前

この結果について、予習復習の習慣があると答えた学習者のほとんどが既存の学習者であり、反転授業を経験した既存学習者は新規学習者に比べ、予習復習の習慣が定着していたと言える¹⁸。

また質問 2 で予習・復習の習慣が「ある」と答えた学習者に対し、質問 3 でどのように予習復習を行っているのか尋ねた¹⁹。その結果を図 12、13 に示す。

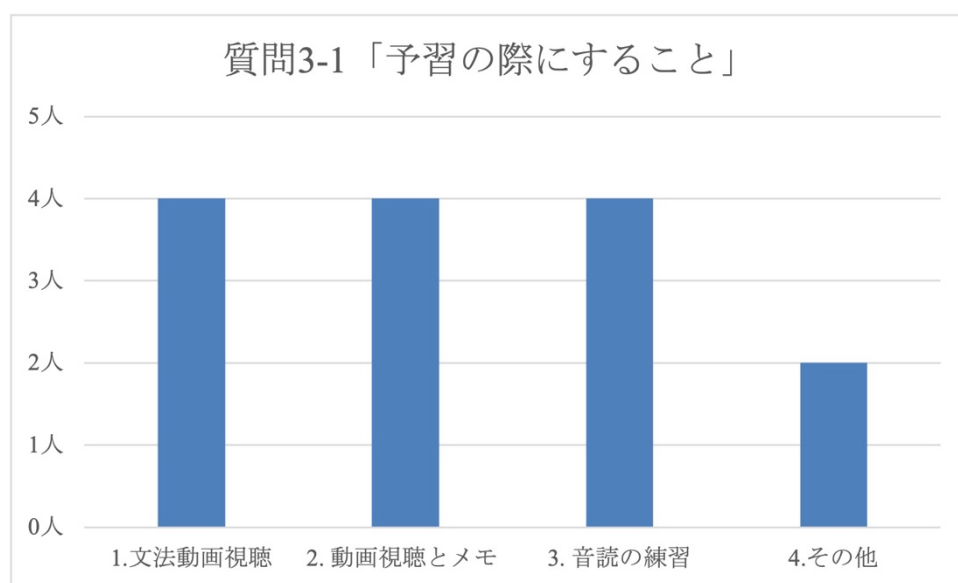


図 12 【学習方法】 質問 3-1 後期、授業前（複数回答）

¹⁸ 予習・復習の習慣があると答えた 7 人の内訳は次のとおりである。

「予習の習慣がある」既存学習者：5 名 新規学習者：2 名

「復習の習慣がある」既存学習者：6 名 新規学習者：1 名

¹⁹ 予習・復習の際の使用媒体について問うた質問 3-1 と 3-2 はそれぞれ選択肢が異なる。質問 3-2 「復習の際にすること」で選択肢を増加させたのは、授業で一通りの文法理解と練習を終え、復習では使用できる媒体が多いと考えたためである。特に選択肢 2 の「YouTube 上の動画視聴」を増やしたのは定期テスト対策等で、配布した文法動画や授業で得た基本知識の理解補助として YouTube 上の動画も利用するのではないかと考えたためである。

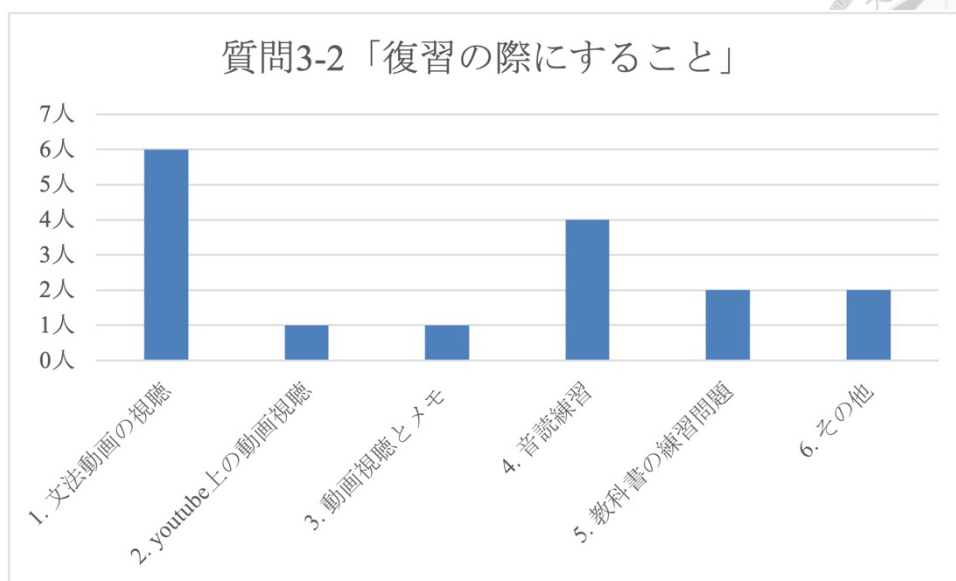


図 13 【学習方法】質問 3-2 後期、授業前（複数回答）

予習・復習どちらにおいてもほとんどの学生が複数回答しており、学生らは予習動画の視聴やメモ、音読など複数の方法を組み合わせて予習・復習を行っていることが分かった。また、「その他」を選んだ学習者は、「教科書を見る」と回答していた。授業前アンケートの最後には、社会人学習者が自習の際に好む学習教材を調べた。質問 4「授業以外の時間に参考になっている教科書や教材」ではインスタグラムや X などの SNS、YouTube、bilibili 等の動画サイト、また duolingo 等の言語学習アプリを使用している学生が見られた。質問 5「好きな予習・復習教材」では図 14 に示す通り、わずかな差ではあるが、予習の際は文法説明動画を、復習の際は教科書をより好む人が多かった。

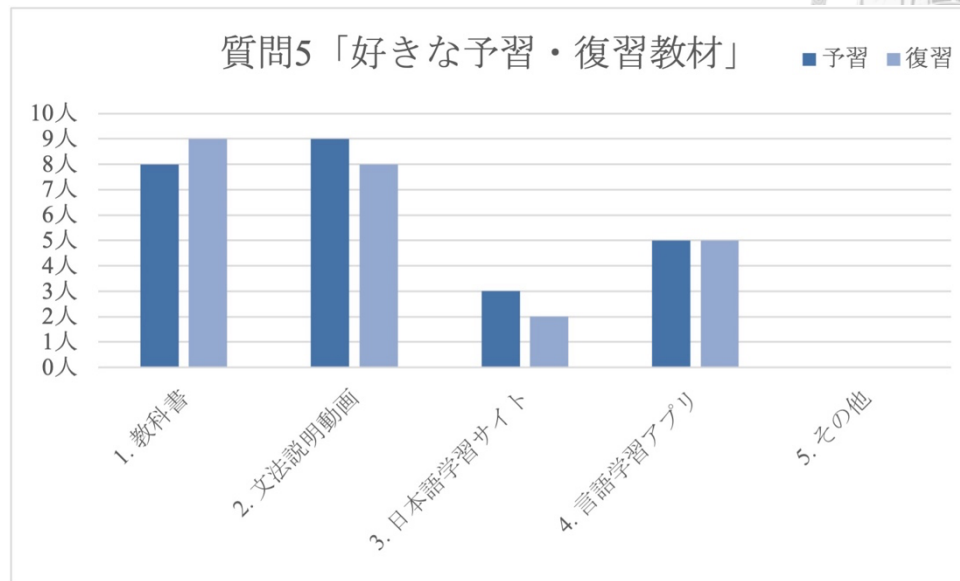


図 14 【学習方法】質問 5 後期、授業前（複数回答）

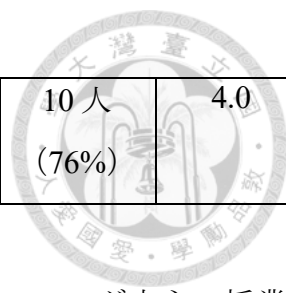
続いて、後期の授業後アンケートの【授業形式】【反転授業】【予習課題】という 3 項目の結果を報告する。

【授業形式】の項目は表 22 の結果であった。

表 22 【授業形式】後期、授業後

質問		反対	どちらでもない	同意	平均値 ²⁰
1	会話とリスニング中心の授業のほうが好きだ	0 人 (0%)	1 人 (8%)	12 人 (92%)	4.3
2	読解と作文中心の授業のほうが好きだ	4 人 (31%)	3 人 (23%)	6 人 (46%)	3.3
3	文法中心の授業が好きだ	4 人 (31%)	3 人 (23%)	6 人 (46%)	3.3

²⁰ 第三章でも述べたが、分析の際は「強く反対」を 1 点、「反対」を 2 点、「どちらでもない」を 3 点、「同意」を 4 点、「強く同意」を 5 点とし、数値化し、学習者の傾向をより明確に把握するために、平均値を記載した。数値が高いほど、同意の傾向が強いことを示す。なお、前期における全ての設問の回答者数は 13 人であり、各項目の合計は 100%となっているため、本表では合計欄の記載を省略している。



4	授業中ペアワークやグループワークをするのが好きだ	2人 (15%)	2人 (15%)	10人 (76%)	4.0
---	--------------------------	-------------	----------	--------------	-----

前期の結果と同様、半数以上が文法や読解よりも、会話とリスニング中心の授業を好み、ペアワークやグループワークについても半数以上が「同意」もしくは「強く同意」を選んでいる。インタビューでは、「自分より日本語能力が高い相手が教えてくれる」という声や、「授業中ずっと口に出して練習できるから記憶に残りやすい」などの意見が得られた。また、後期の授業全体への感想を聞いた質問5では授業動画が役に立ったことや動画作成への感謝のコメントが複数見られた（表 23）。また、後期の実施は年末が近く、前期に比べ全体的に仕事が忙しい学習者が多かった。そのため、授業進度が早く感じられたり、授業内容を吸収する能力が落ちたという意見が見られた。授業進度について、インタビューでは、すべての授業に参加した学習者は「早すぎず遅すぎず、丁度良い」という意見が得られた一方で、出張などで何度か欠席した学生からは「授業の難易度が上がり、授業進度が早く感じた」という意見が得られた。そのため、授業進度が早いか遅いと感じるかは学習者のライフスタイルに影響されると考えられる。

表 23 【授業形式】質問 5 後期、授業後

質問 5 今回の授業を受けた感想
因為工作關係這次課參與時間較少,體感上會覺得比較趕。(個人因素居多)。 (仕事の関係で授業に参加した時間が少なく、体感では授業進度が早く感じた (個人の原因が多い)。)
謝謝老師每次上課前拍影片給我們預習,上班很忙的時候也打電話叫我來上課。突然接到嚇到!後面太累就先離開了。 (私たちの予習のために授業前の動画を撮ってくれてありがとう。仕事が忙しい時も授業に来るよう電話してくれた時は、驚きました。(その日は)疲れすぎてすぐに帰りましたが。)
互動多,老師有趣。但有時候因為同學上課較晚到,有點壓縮到上課時間。 (やりとりが多い。先生がおもしろい。でもほかの学生が授業に遅れて来るために、授業時間がおしてしまうことがある。)
上班好忙好累導致缺課次數較多,課堂吸收能力變差,老師辛苦了! (仕事が忙しくて疲れて欠席回数が増え、授業での吸収能力が悪くなった。先生ありがとう!)
老師教學很認真,很活潑。 (先生はとてもまじめで明るい。)
很多時間可以練習口說很棒,很喜歡。 (口頭練習の時間が多くとれて素晴らしい。とても好きだ。)
老師很活潑,上課很有趣。 (先生がとても明るく、授業がおもしろい。)
上課有趣,分組一起進步很不錯。 (授業がおもしろく、グループで一緒に進歩できるのも良い。)

次に【反転授業】の項目について報告する。質問 1～7 は前期の授業後アンケートと同じ質問内容であり、質問 8 では「反転授業形式は忙しい社会人に適していると思うか」という問いを設け、選択肢は「5－とても適している」「4－適している」「3－どちらでもない」「2－あまり適していない」「1－とても適していない」にした。さらに質問 9～10 は記述式の問題を設けた。

まず、質問 1～7 の回答結果を表 24 に示す。

表 24 【反転授業】質問 1～7 後期、授業後

質問		反対	どちらでもない	同意	平均値
1	反転授業形式に満足した。	0 人 (0%)	0 人 (0%)	13 人 (100%)	4.5
2	反転授業は先生との交流を増やした。	0 人 (0%)	0 人 (0%)	13 人 (100%)	4.4
3	反転授業はクラスメートとの交流を増やした。	1 人 (8%)	1 人 (8%)	11 人 (84%)	4.2
4	反転授業が学習効率を上げた。	0 人 (0%)	0 人 (0%)	13 人 (100%)	4.4
5	反転授業形式によって主体的な学習の習慣を培うことができた。	0 人 (0%)	3 人 (23%)	10 人 (77%)	4.2
6	以前の授業形式より反転授業形式のほうが好きだ。	0 人 (0%)	2 人 (15%)	11 人 (84%)	4.2
7	反転授業形式は面倒で嫌いだ。	12 人 (93%)	0 人 (0%)	1 人 (8%)	2.0

この結果から、学習者は反転授業に満足し、反転授業によって学習効率が上がったことや主体的学習の習慣を養うということに概ね同意していると考えられる。

「反転授業が先生／クラスメートとの交流を増やした」という質問 2、3 は前期では「反対」から「強く同意まで」意見が割れていたが、今回はほとんどの学生が「同意」もしくは「強く同意」を選んでいった。これについて、記述回答形式の質問 10 で「先生や学習者同士の交流が増えた」という意見が多数見られた。質問 3 でわずかに反対もしくはどちらでもないを選んでいる学生が 2 名いた。一名については欠席が続いた学生であった。また、質問 8「反転授業は忙しい社会人に適しているか」は半数以上が「5－とても適している」もしくは「4－適している」を選んでおり、社会人学習者が反転授業形式を高く評価していたと考えられる（図 15）。

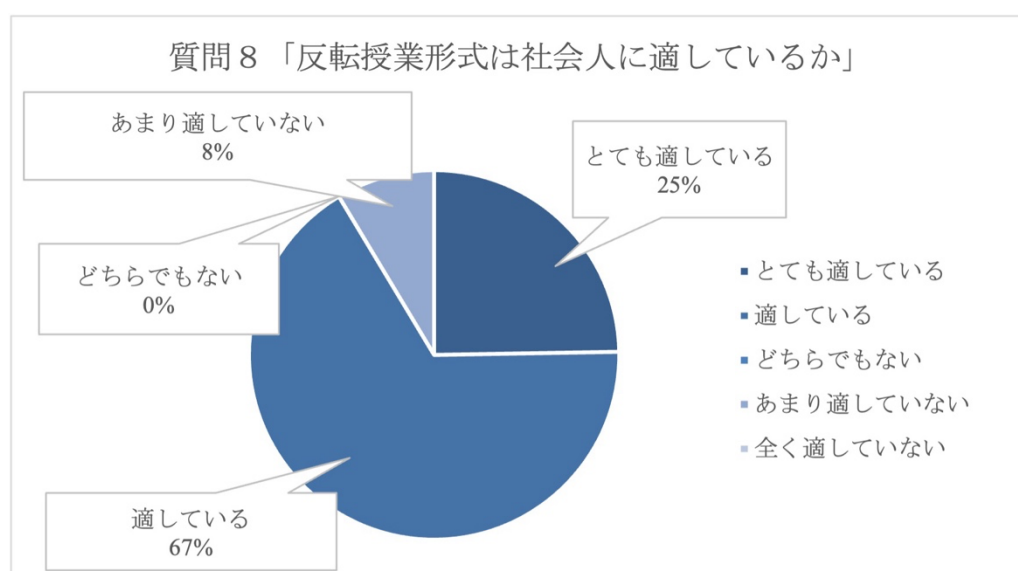


図 15 【反転授業】 質問 8 後期、授業後

「適している」と考える理由について聞いた質問 9 では「自分のペースで学習を進められる」「先に文法内容を理解しておくことで授業内容にスムーズに入ることができる」「授業で多くの時間を口頭練習に使える」などの意見が見られた。また、インタビューでは「仕事で疲れていても、毎週必ず自分で予習しようという動機になるため、日本語学習に役に立つ」という意見が得られた。一方で、質問 8 で「2－適していない」「1－全く適していない」と答えた学習者二名のうち一名が「仕事後はいつもだらけてしまう」ことを理由に挙げていた。もう一名は今学期とくに仕事が忙しく、欠席回数も特に多い学習者であった。文法動画をいつでも見られることは

多くの社会人学習者にとって利点であるが、実生活がかなり忙しく、日本語学習の必要性も高くない学習者にとっては、わざわざ動画を見る時間を設ける余裕はなかったようである。また、反転授業の利点と欠点を問うた質問11では欠点として、「授業前に予習時間をとる必要があること」「動画を見なければ授業進度に追いつけない」「教師の準備負担が増える」などの意見が見られ、先に挙げたような学習者がいざ授業に参加できた際に、動画を視聴していないことから、スムーズにペアワークをできないなどの課題が残った。その他、自由記述式の質問9～12までの結果を表25～28に示す。

表 25 【反転授業】質問9後期、授業後

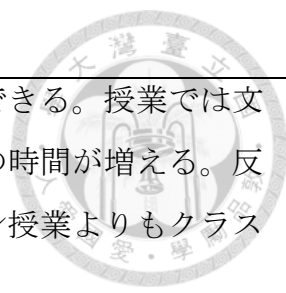
質問9 質問8で「適している」／「適していない」と答えた理由
便於快速抓重點,即便在忙碌的情況下也能迅速進入學習狀態。 (すばやく重点を掴むことができ、忙しい状況でも迅速に学習状態に入ることができる。)
可以利用空間的時間先做學習。 (空き時間を利用して先に学習することができる。)
對上班族來說,如果不是因為考試或工作需求比較難去要求自己自主學習。有時候可能也會因為工作繁忙而無法上課,但用翻轉課程的方式可以讓自己在沒上課的情況下也能了解文法并增加了課堂上的練習機會。 (社会人にとって、試験や仕事の必要がなければ、自主学習をしようとするのは難しい。仕事が忙しくて授業に出られないこともあるが、反転授業なら授業に出られない時でも文法を理解できるし、授業内での練習の機会も増える。)
可以自行找空檔時間看影片,不需要所有人互相配合。 (自分の空いている時間に動画を見ることができ、全員の予定を合わせる必要がない。)
可以先有初步的理解,在正式課程中縮短講解的時間。 (あらかじめ基本的な理解を得ることで、授業での説明時間を短縮できる。)
可以多看不幾次,比單看課本還印象深刻。



(何度も見る事ができ、教科書を見るだけよりも印象が深くなる。)
可以提前學習上課會用到的文法,比較容易進入狀況,缺課也還是能跟上。 (授業で使う文法を事前に学べるので、スムーズに授業に入れるし、欠席しても遅れにくい。)
上課之前只要花短短十分鐘不到的時間就可以對下一堂課的內容有一些初步的瞭解,上課的時候也可以有更多時間練習。 (授業前にたった 10 分もかからず次の授業の内容を軽く理解できるし、授業中により多くの時間を練習に使える。)
可以在課堂練習。(授業中に練習ができる)
適合: 可以按照自己有空的時間學習。不適合: 要多花課外時間學習。(適している点: 自分の空いている時間に合わせて学習できる。適していない点: 授業外で学習時間を取る必要がある。)
雖然工作忙的時候可能來不及預習,但是可以增加學習效果。 (仕事が忙しくて予習が間に合わないこともあるが、学習効果を高めることができる。)
下班以後都很 lazy 懶。(適していないと思う理由は) 仕事後はいつもだらけてしまう。)

表 26 【反転授業】質問 10 後期、授業後

質問 10 反転授業形式で一番良いと思う部分
有影片能預習內容，影片的結尾也有做總結加強記憶及方便複習定位。 (動画で内容を予習できるし、動画の最後にはまとめがあるので、記憶を強化しやすく、復習の際にも便利だ。)
可以依據自己的步調學習。(自分のペースで学習できる。)
可以自行安排時間學習，自由有影片可以課前預習。課堂上花在文法講解的時間可以減少，藉此來增加與同學的互動練習時間。翻轉教學形式比傳統課堂增加了彈性，也比線上課程增加了和同學的互動與練習。



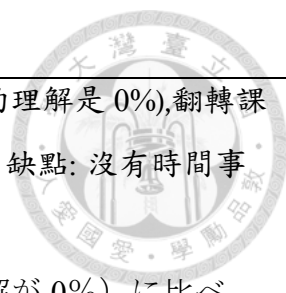
(自分で学習時間を調整でき、動画を使って授業前に予習ができる。授業では文法の説明時間を短縮でき、その分クラスメートとの相互練習の時間が増える。反転授業形式は、伝統的な授業よりも柔軟性があり、オンライン授業よりもクラスメートとの交流や練習が増える。)
老師不需要花太多時間再課堂上解釋文型，有更多練習機會。 (授業で先生が文型説明に多くの時間を費やさなくて済むので、練習の機会が増える。)
可先從影片中預習，先做作業。在課堂中能更快進入狀況。 (先に動画で予習でき、宿題をすることで、スムーズに授業に入ることができる。)
可以有更多機會複習與練習。(復習と練習の機会が増える。)
老師很活潑。(先生が明るい。)
可以多複習影片，考試前可以針對不會的地方重點複習。也可以多跟其他同學練習口說的部分。(動画で繰り返し復習でき、試験前には苦手な部分を重点的に復習できる。また、クラスメートと口頭練習を多く行うこともできる。)
可以想上課就上課，方便預習複習。 (受けたい時に授業を受けられるので、予習や復習にも便利である。)
可以依據自己的步調學習。(因為可以重複看解釋文法的影片) (何度でも文法解説動画を見ることができるため、自分のペースで学習が進められる。)
可以預習，上課可以有很多時間跟其他學生練習。 (予習ができ、授業中はクラスメートとの練習の時間が多い。)
跟大家互動，也可以有較多內容變化。 (みんなと交流できる。また、より授業内容に変化を加えられる。)



表 27 【反転授業】質問 11（記述式）後期、授業後

質問 11 他の授業形式と比較した、反転授業形式の利点と欠点

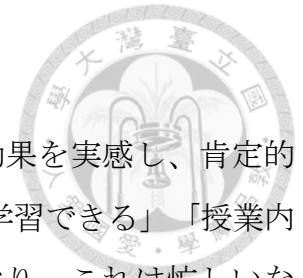
有影片能留存紀錄,一方面圖像學習能加深記憶。 (動画があるため記録を残すことができ、画像を用いた学習は記憶を深めることができる。)
優點:可以先預習,幫助在上課時,快速進入狀況。缺點:沒有。 (利点:先に予習ができ、授業にスムーズに入ることができ役に立つ。欠点:なし。)
優點: 增加了學習的彈性並增加了與同學或與老師的互動練習機會。缺點: 增加了老師的備課負擔與門檻,因此可能比較難去普及這種授課方式。 (利点: 学習の柔軟性が増し、学生や先生との双方向の練習機会が増える。欠点: 教師の準備負担が増し、敷居が高くなるため、普及が難しい。)
不死板,比較多有趣的互動增加上課動力。 (堅苦しさがなく、面白い双方向の練習が増え、授業のモチベーションが高まる。)
優點是跟老師,同學的互動變多。課堂前可先從影片學習,課堂上可以針對不懂的問題進行討論。 (利点は先生や学生の交流が増えること。授業前に先に動画から学習できるので、授業中に分からない問題などを討論できる。)
可以增加課前預習意願。(授業前の予習の意識を高められる。)
太開心,沒有壓力。我需要壓力。(楽しすぎてストレスが無い。私にはプレッシャーが必要だ。)
對於口說和聽力的部分可以多和同學練習。缺點是課前要比較花費時間。 (スピーキングやリスニングの部分で他学生との練習ができる。欠点は授業前に時間がかかりなければならないこと。)
沒有看跟不上進度。(動画を見なければ進度に追いつけない。)
優點同上,缺點是老師很辛苦還要準備影片。 (質問 10 に同じ。欠点は先生が動画の準備が大変なこと。)



優點: 相對於傳統課程的"齊頭式平等"(因為在上課前對於內容的理解是 0%), 翻轉課程感覺是"真正的平等"(可以依據自己的步調學到一定的程度)。缺點: 沒有時間事先學習的話, 在課上就會比較辛苦。 (利点: 従来の授業形式の「形式的平等」(授業前の内容理解が 0%) に比べ、反転授業は「真の平等」(自分のペースで一定レベルまで学べる) と感じる。欠点: 事前に勉強する時間がないと、授業で困る。)
複習的教材比較少, 忘記沒有影片可以看, 沒上到課就要問老師或同學文法。 (復習の教材が少ない。忘れても見る動画がない。授業に出られなかったら、先生や他学生に文法を聞かなければならない。)
上課很有趣, 比較不會落後進度。 (授業がおもしろい。進度に置いていかれることがない。)

表 28 【反転授業】質問 12 後期、授業後

質問 12 反転授業形式で改善すべき点
訪談時 有建議了><, 老師很快就導入了～。 (インタビューのときに言いました。先生は直ぐに導入していた)
可以跟同學有更多即性(興?)問答, 讓學生可以自己想方法表達。 (もっと他学生と即興性の問題があってもいい。学生に自分で表現方法を考えさせる。)
文法上課可以再重複一次。 (文法は授業の時にもう一度説明してもいい)
這次 Kahoot 比較少。(今回は Kahoot が少なかった)
題目寫完會忘記自己寫了什麼, 導致上課時也不知道自己寫得正不正確。 ((文法予習課題に) 自分が何を書いたか忘れてしまい、授業の時自分の答えが正解だったか分からない。)
除了影片預習, 作業練習, 也可以有更多的口說練習。 (動画や文法練習問題の予習の他に、もっとスピーキングの練習があってもいい。)



以上の結果から、後期において多くの学習者は反転授業の効果を実感し、肯定的な評価を示したと言える。特に、反転授業が「自分のペースで学習できる」「授業内での口頭練習の時間を確保できる」といった点が支持されており、これは忙しいなかでも運用能力を伸ばしたいと考える社会人学習者にとって大きな利点であると考えられる。一方で、「予習の負担がある」「動画視聴が必須である」ことを課題として挙げる意見もあり、学習者の生活環境や個々の学習スタイルに応じた支援策を検討する必要がある。また、「授業が楽しい」という意見が多い一方で、「もっとプレッシャーが欲しい」という意見もあり、より厳しい授業スタイルを求める学習者には物足りなさを感じる結果となった。また「もっと即興性の練習が欲しい」という意見もあることから、適度な緊張感を持たせる活動の導入も検討する必要がある。具体的には、小テストの実施や発表の機会を増やすことで、学習者がより集中して学習に取り組める環境を整えることが求められる。

最後に、【自己評価】と【動画と筆記予習課題】の項目の結果を報告する。

まず、【自己評価】の項目は質問1「今学期一番伸びたと感じる能力」のみであり、「読む」を選んだ学習者が最も多く、次いで「話す」、「聞く」、「書く」の順となった(図16)。

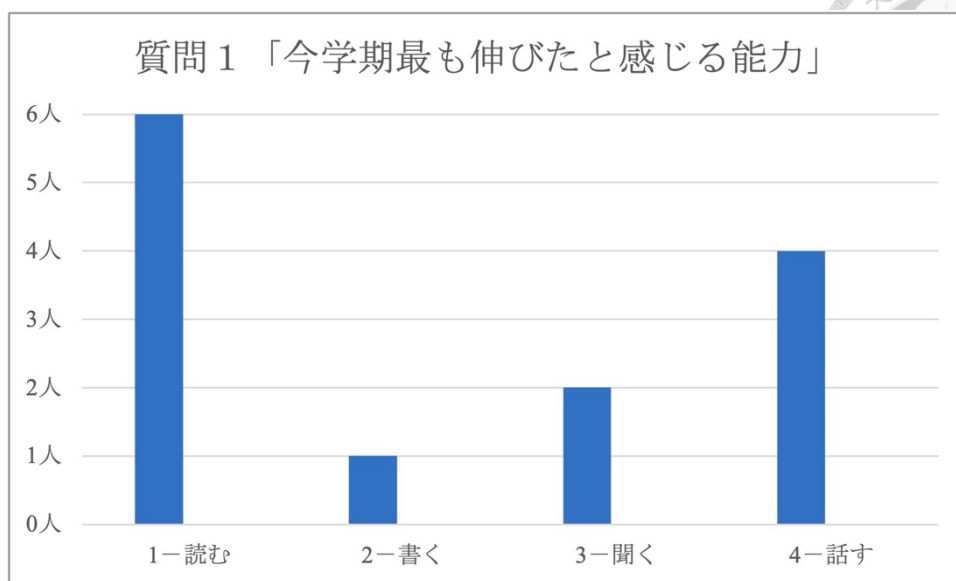
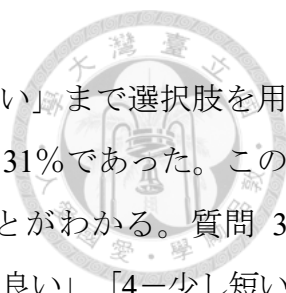


図 16 【自己評価】質問 1 後期、授業後

後期開始前に「伸ばしたい技能」に関して別途調査したところ、「話す」「聞く」を 1 位に選んでいる学習者が多く、「読む」の技能についてはそれほど重視していない傾向が見られた。そのため、学習者が伸ばしたいと考えていた技能と実際に伸びたと感じる技能には乖離があったことが分かる。これについては、予習課題での短文翻訳の問題や筆記テストの読解部分での出来具合から学習者が「読む」面での自分の進歩を実感しやすかった一方で、口頭試験では思うように回答する事ができなかったと感じる学習者が多かったことから、進歩した実感が得られなかったことが原因と考えられる。そのため、今後は口頭試験の実施方法の工夫と口頭練習の成果を発表できる機会を設け、学習者らが自身の「話す」能力の伸びを実感できる機会を増やすことが必要であると考え。また、アンケートでは「書く」を選んだ学生が一番少なかったが、インタビューでは「(文法課題をするとき) 前よりも何を書くのがスムーズになった」という意見も得られた。

次に【動画と筆記予習課題】の項目の結果を報告する。まず、動画に関しては選択形式の質問が 3 問、記述形式を 3 問設けた。質問 1「動画は必要か」という問題には「1-あったほうが良い」「2-どちらでもよい」「3-わからない」という選択肢を設けた結果、「1-あったほうが良い」の回答が 100%であった。また、質問 2「動画を用いた予習は文法内容の理解を助け、日本語学習において役に立ったか」



という質問は「1ーとてもそう思う」から「5ー全くそう思わない」まで選択肢を用意し、結果「1ーとてもそう思う」が 69%、「2ーそう思う」が 31%であった。このことから、学習者が動画を用いた学習を高く評価していることがわかる。質問 3「動画の長さ」は「1ー長すぎる」「2ー少し長い」「3ーちょうど良い」「4ー少し短い」「5ー短すぎる」のうち、「3ーちょうど良い」が 100%であった。前期では 10 分前後の動画が多く、動画を区切って欲しいという意見が見られたことから、後期ではすべての動画を 4～10 分以内にした²¹。これが、質問 3 の結果につながったと思われる。

複数回答形式の質問 8～10 の結果は図 17～19 に示す。

質問 8「動画の活用方法」では「途中で一時停止しながら見た」という回答が最も多く、次いで「何度も見た」、「授業後に復習として見た」が多かった。反対に、「1 度だけ見た」を選んだ学習者は少なく、ほとんどの学習者が授業前に数回、そして授業後、特にテスト前に複数回視聴していることが分かる。前期と同様に、全体の視聴回数に対して、平均視聴時間が短いのはこのためである。また、インタビューで「1 日のうちのどの時間帯に動画を視聴していたか」と聞くと、食事の時や仕事の休憩時間に見ているという意見が多かった。

²¹ 各動画の長さについては第 3 章の表 8 を参照されたい。

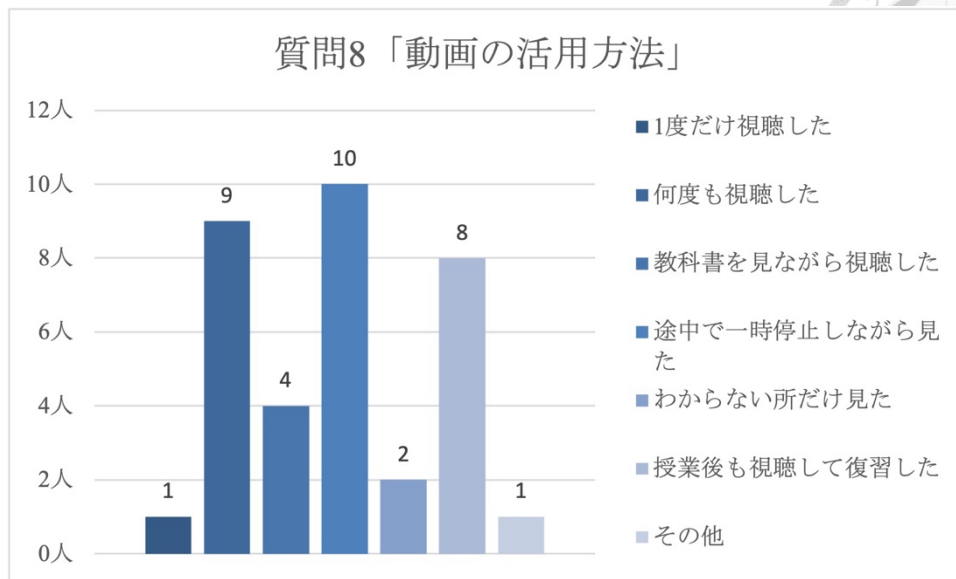


図 17 【動画と予習課題】質問 8 後期、授業後（複数回答）

また、質問 9「動画の利点」については前期と概ね同様の結果が得られ、「予習がしやすくなった」の回答が最も多かった。

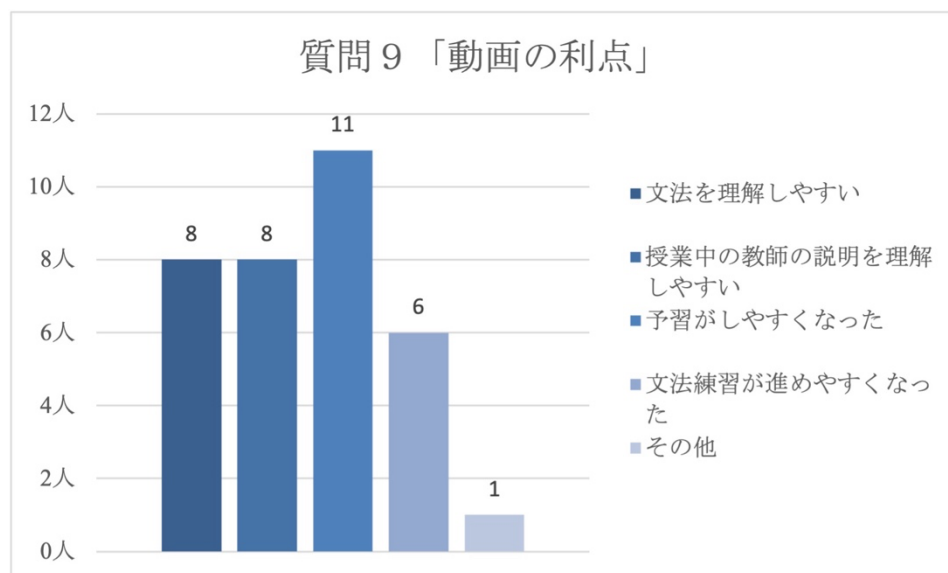


図 18 【動画と予習課題】質問 9 後期、授業後（複数回答）

質問 10「動画を見なかった理由」についても前期と同様、「忙しく時間が無かった」が最も多かった。「その他」を選んだ 1 名については「太懶惰了（やる気がでなかった。）」と回答していた。当該学習者は他アンケートの結果から見ると、授業内での再説明を求める旨の回答をしており、毎回の授業で動画を見る事が負担になってしまったと考えられる。

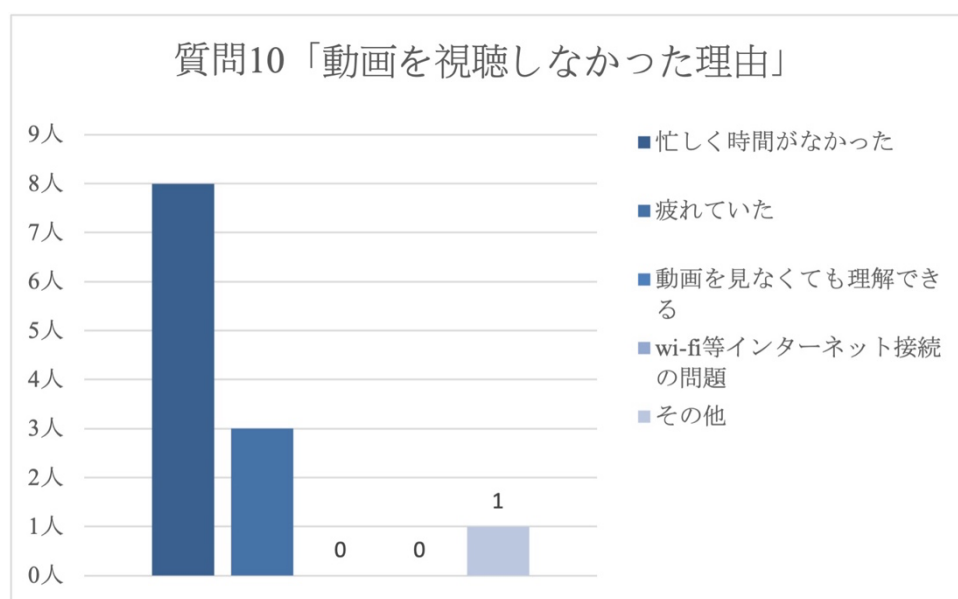
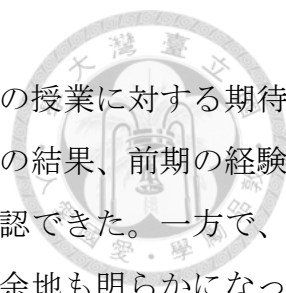


図 19 【動画と予習課題】質問 10（複数回答）後期、授業後

次に、【動画と予習課題】項目内の予習課題（文法確認問題）に関する質問、計 4 問の回答結果を報告する。まず、質問 4「文法確認問題は必要か」については 92% が「1ーあったほうが良い」を選んでいて。また、質問 5「文法確認問題は役立ったか」は「1ーとてもそう思う」が 69%、「2ーそう思う」が 31%であった。さらに、文法確認問題の量について質問 6 で 77%が「3ーちょうどよい」を選び、難易度についても質問 7 で 92%が「3ーちょうどよい」と回答しており、文法確認問題の量と難易度に関して、多くの学習者が適切であると感じていることが分かった。しかし、インタビューでは「文字を打つのに時間がかかるので大変だと感じるがあった」や「文字を打つのが大変だった」という意見が複数見られ、一部の学習者は文作成問題を負担に感じたようである。



本節では、後期の授業前後アンケートの結果を基に、学習者の授業に対する期待や学習方法の傾向、反転授業の評価について分析を行った。その結果、前期の経験を踏まえた改善点が学習者に肯定的に受け止められたことが確認できた。一方で、学習者の忙しさに応じた授業進度の調整など、さらなる工夫の余地も明らかになった。

以上の結果を踏まえると、前期・後期を通じて、反転授業は学習者に概ね肯定的に受け入れられ、特に学習効率の向上や自律的学習習慣の形成、授業内での練習時間の増加といった点で高く評価されていた。前期では初めての実践であったため口頭練習時間の確保に課題が見られたが、後期では授業内での文法練習問題の確認方法を改善したことで、他学習者や教師との交流の機会が増え、学習者の満足度はさらに向上した。一方で、前期・後期ともに出張や仕事との兼ね合いで予習時間を確保することができない学習者も一部見られた。そのため今後の課題としては、学習者の生活スタイルに応じた柔軟な支援策や、負担感の少ない予習活動の設計が求められる。これらの比較結果を踏まえ、次章では学習者の受容過程や意識変容について、半構造化インタビューの分析を通じてより詳細に検討する。

第五章 社会人学習者の反転授業の受容過程



本章では、半構造化インタビューをもとに SCAT 分析を実施し、社会人学習者の反転授業の受容過程、および意識変化について分析する。本分析では、前期において初めて反転授業を経験した際の反転授業への評価及び学習意識の変容と、後期において継続して反転授業を受講した際の受容姿勢と学習意識の変容に焦点を当てて分析を行なった。

前期では、反転授業という新たな授業形式に対する初期的な反応や不安、適応の試みが観察され、後期では、継続による慣れや予習課題への意欲的姿勢、さらには練習形式への懸念が語られた。本章では、まず前期のデータをもとに、SCAT 法を用いた分析を行い、反転授業形式を初めて体験した社会人学習者らの受容過程と意識変容を分析した後、後期のデータをもとに、継続して反転授業を受けた際の受容姿勢と意識変化の有無を分析する。なお、第 3 章でも述べたが、本章における分析は前期から継続して反転授業を受講していた学習者のみを対象に行なっている。そのため、本章での分析対象者の内訳は以下の通りである。

表 1 インタビュー対象者の内訳

学習者	受講時期		インタビュー実施の有無		分析（節）
	前期	後期	前期	後期	
学習者 A	○	○	○	×	5-1
学習者 B	○	△	○	△	5-1、5-2
学習者 C	○	○	○	○	5-1、5-2
学習者 D	○	○	○	○	5-1、5-2
学習者 E	○	○	×	○	5-2



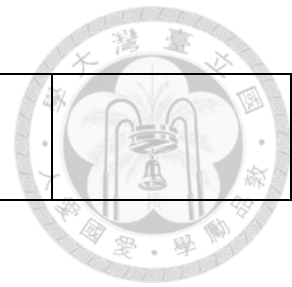
5-1.始めて反転授業を受けた際の受容過程

前期における半構造化インタビューを SCAT 法によって分析した結果、学習者に共通する構成概念として、「時間的制約と予習への不安」「反転授業の受容」「自律学習行動の増加」「内発的動機の育成」の 4 つが抽出された。以下に、学習者の反転授業への評価に関する構成概念と意識の変容に関する構成概念に分けて報告する。第三章でも述べたが、分析にあたっては大谷（2008、2011）の作成したエクセルフォームに従って構成概念を抽出した。再度その手順を以下表 30 に載せる。

表 30 SCAT 法による分析の例(学習者 B のテキストから)

テキスト	〈1〉 テキスト 中の注目すべき 語句	〈2〉 テキスト 中の語句の言 い換え	〈3〉 左を説明 するようなテ キスト外の概 念	〈4〉 テーマ・ 構成概念
比較擔心的是 怕會跟不上。 （中略）可能 工作忙了就沒 有時間看影 片。（授業に ついていけな くなるかもし れないのが心 配。仕事が忙 しかったら動 画を見る時間	授業について いけなくなる かもしれない のが心配	授業について いけない不安	学習負荷への 不安と仕事と の折り合い	予習への不安 ／仕事の忙し さと時間的制 約

がないかもし れない。)			
-----------------	--	--	--



5-1-1. 反転授業への評価に関する構成概念

授業内容や予習動画を含めた反転授業全体に対する評価に関する構成概念としては「時間的制約と予習への不安」と「反転授業の受容」の2つが抽出された。まず、「時間的制約と予習への不安」については、授業開始前に行なった初回インタビューで4名中3名が抱いていた懸念であり²²、特に仕事との両立に関する発言が顕著に見られた。以下表31はその具体的な発話内容である²³。

表 31 構成概念：「時間的制約と予習への不安」

発話者	テキスト	テーマ・構成概念
学習者 A	怕會忘記看影片，或是沒有時間看。 (動画視聴を忘れてしまうことや見る時間がないかもしれないのが心配。)	予習への不安／時間的制約
学習者 B ²⁴	比較擔心的是怕會跟不上。(中略)可能工作忙了就沒有時間看影片。(授業についていけなくなるかもしれないのが心配。仕事が忙しかったら動画を見る時間がないかもしれない。)	予習への不安／仕事の忙しさと時間的制約
学習者 C	擔心…可能沒有預習,或者是下班忘記或者是想休息之類的。(心配…予習をし	予習への不安／学習と私生活の衝突

²² 一方で、学習者 D に関しては「沒有擔心。覺得很節省時間，很好。(心配していない。時間の節約になりとてもいいと思う。)」という意見が得られた。

²³ 紙面の都合上、本文では「テキスト」及び「テーマ・構成概念」のみ掲載する。

²⁴ すでに注釈した通り(注7)、学習者 B は授業後のインタビューデータがないが、社会人学習者の反転授業受講前及び継続受講時の初期の心理的傾向を分析するのに重要なデータであるため、分析対象としている。



	ないこと。仕事終わりで忘れてしまったり、休みたくなったりするかもしれない。)	
--	--	--

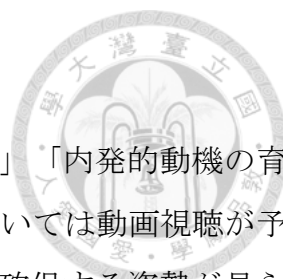
これに対し、中間テスト後及び授業終了時に行なったインタビューの分析からは表 32 に示す通り、「反転授業の受容」という構成概念が見られた。授業を通じて実際に動画を視聴し学習を進める中で、学習者らは次第に反転授業形式の利点を理解し、肯定的評価を示すようになった。特に、動画が増えたことにより自習の方法が増え、学習効率が高まることに対する肯定的評価が挙げられた。一方で、動画を見られなかった際に授業進度が早く感じられることや動画視聴をするかどうかは個人差があることを心配する意見も見られた。

表 32 構成概念：反転授業の受容

発話者	テキスト	テーマ・構成概念
学習者 A (中間テスト後)	我覺得（翻轉教學的方式）蠻好的。上課的時候會講到同一個，就是影片裡面也有講到的。可是就是在上課前已經先知道了這些東西，就先有個概念再上課就會更快上手。我覺得蠻好的。（反転授業形式はとてもいいと思う。授業の時、動画の中で話したことと同じことが出てくるけど、事前に概念を知っているから、授業でより早く理解できる。とてもいいと思う。）	反転授業の受容／学習効率の向上に対する自覚

學習者 A (授業終了後)	我蠻喜歡這一次的(課程)。就是先知道上課要學什麼，上課的時候會更快了解。然後跟同學練習的時候也會比較知道要…就會比較知道是在幹嘛。(今回の授業形式が好き。何を学ぶか先に知っておけるから授業の時の理解も早い。それにクラスメートとの練習の時も何をしているのかわかる。)	反転授業の肯定的評価／ 学習の効率化
學習者 B (中間テスト後)	影片其實變成說你可以不用帶課本，你可能在坐車的時候，或者是吃飯，或者是想放空的時候就可以看看一下。(中略)我覺得影片蠻需要的。因為影片一方面相較書面來說，比較沒有那麼枯燥乏味。然後因為老師還有放很多圖片啊，一些範例啊，那其實可以加深印象。(動画があるということは教科書を持ち運ばなくてもいいということになる。車に乗っている時やご飯を食べている時、或いはただリラックスしている時にでも見ることができる。(中略)動画は必要だと思う。動画は紙の教材よりも退屈ではないから。先生がたくさんの写真や例文を示してくれているので印象も深まる。)	反転授業の受容(動画による学習の柔軟性)／日本語学習の日常への組み込み／動画教材による印象強化
學習者 C (中間テスト後)	影片好處是可以回去看。但如果沒空沒看影片，我會覺得上課可能會比較快一點。(動画の良い点は何度も見れるこ	動画教材の利点認識／予習と授業の連動性への認識

	と。でも動画を見る時間がなかったら、授業進度が早く感じる。)	
学習者 C (授業終了時)	我覺得每一期的難度都比上一期的，對我來說難不好。所以可能影片的方式，在之後如果課程越來越難的話，可能會比較有幫助。(中略)應該說我覺得這個方式沒有不好，但大家會不會看影片就不一定了，這就是看每個人的學習狀況跟想要學到什麼程度吧。那對於說如果有看影片來說我覺得多少都有幫助吧。(每学期、前学期より難しくなっている。だから動画の方法はもし今後どんどん難しくなるなら助けになる。 (中略)たぶん、この方式は悪くないけど、みんなが動画を視聴してくるかはそれぞれの学習状況とどれくらい学びたいかによる。もし動画を視聴できるなら役に立つと思う。)	反転授業の受容(動画教材の補助的価値)／反転授業の課題
学習者 D (授業終了時)	覺得很方便。就是考前還可以再看一下。隨時想看就可以。就是…沒有馬上看，之後補看也可以。(とても便利だと思う。テストの前にまた見ることができる。見たい時に見ることができる。もしすぐ見られなくても後から見直してもいい。)	反転授業の受容(動画の利便性)



5-1-2. 学習意識の変容に関する構成概念

学習意識の変容に関する構成概念には「自律学習行動の増加」「内発的動機育成」の2つが抽出された。まず、「自律学習行動の増加」については動画視聴が予習のきっかけとなったことで、日常の中で学習時間を意識的に確保する姿勢が見られた。また、動画視聴と教科書の併用など指定された予習課題だけでなく、自分なりの工夫を取り入れた学習行動が形成されていた。次に、「内発的動機の増加」については、社会人という立場上、会社の昇給制度や検定資格など実質的メリットが存在しないが、反転授業形式にすることで授業に「面白さ」を見出すことができ、学び続ける動機になるという意見が挙げられた。これは、反転授業の形式や授業内活動が、学習の意味づけや動機づけを促していたと考えられる。

表 33 構成概念：「自律学習行動の増加」「内発的動機の増加」

発話者	テキスト	テーマ・構成概念
学習者 A (授業終了時)	(一週的學習日文的時間)一定有(増加)。因為要看影片。(中略)但我看影片我也會打開書一起看。就會有一個預習這樣子。(1週間の日本語学習時間は絶対に増えた。動画を見なければならぬから。動画を見るときは教科書も一緒に見て、予習する。)	予習習慣の形成／予習の際の工夫
学習者 B (中間テスト後)	我覺得會比較有動力去學日文。因為就是很多方式，變成有很多方式。你可以看影片，可以看課本。有影片，因為那個 classroom 裡面還會有練習題，去寫那個其實還蠻有成就感的。(以前より日本語学習の意欲が高まった。勉強方法が増えた。動画を見てもいいし、教科	学習意欲の向上／学習スタイルの多様化／課題を進めることの達成感

	書も見てもいい。classroomの中には練習問題もある。練習問題を解くのは達成感がある。)	
学習者 C (授業終了時)	我覺得因為我們畢竟也是上班族，那學語言的話，因為現在公司沒有語言的加薪，（中略）那因為現在這個制度沒有了，所以我覺得老師的上課方式有辦法讓大部人的人對於學日文有興趣，這個，老師很厲害。畢竟對我們來說我們沒有實質上的一個好處或者目標，因為我們不是為了出國留學，不是為了加薪，不是為了檢定，對，就是興趣這樣。（私たちは会社員だから、語学を学ぶ時、会社には語学昇給制度がないので、先生の教え方でほとんどの人が日本語学習に興味を持たせられているのがすごいと思う。結局のところ、私たちにとっては実質的なメリットや目標はない。留学でも昇給でも資格取得でもなくただの趣味だから。)	反転授業による内発的動機 の育成／語学学習の意 味づけ

5-1-3. 前期におけるストーリーラインと理論記述

以下の表 34 に前期のインタビュー調査で抽出された構成概念を基に作成したストーリーライン、理論記述である。なお、分析で生成したテーマ及び構成概念は太字で表記している。

表 34 前期におけるストーリーラインと理論的記述

ストーリー ライン	授業前開始前、学習者らは予習習慣がないことや仕事の忙しさから 時間的制約と予習への不安 を抱いていた。しかし、授業が進行するにつれ、動画教材の利便性や柔軟性、反転授業形式がもたらす学習効率の向上から 反転授業の受容 を始めた。さらに、動画視聴をきっかけとした、 自律学習行動の増加 を実感し、反転授業を肯定的に評価するようになった。また、社会人という立場上、学習成果が直接的な報酬に結びつかない中で、反転授業形式の自律学習を促す点や、授業内活動の充実から 内発的動機の育成 が見られた。
理論的記述	・学習者は動画教材の利便性や柔軟性から反転授業の学習効果を認識する。 ・反転授業形式による自律学習習慣の形成と教室内活動の充実が内発的動機を支える要因となる。

5-2.継続して反転授業を受けた際の意識変化

前期から継続して反転授業を受けた学習者らへの後期の半構造化インタビューを SCAT 法により分析した結果、「反転授業への前向きな受容姿勢」「学習時間確保の不安」「予習課題への改善案と意欲的姿勢」「練習方式と学習効率への懸念」の 4 つが見られた。以下に 2 度目の反転授業への受容姿勢と学習意識の変容の 2 項目に分けて報告する。

5-2-1.2 度目の反転授業への受容姿勢

2 度目の反転授業への受容姿勢については、授業開始前のインタビューデータから「反転授業への前向きな受容姿勢」と「学習時間確保の不安」の 2 つの構成概念が見られた。表 35 に示すように、学習者らは前学期ですでに反転授業形式の利点を理解していたため、後期でも継続して反転授業形式で授業を進めることに概ね前



向きな受容姿勢が見られた。一方で、後期の授業開講時期は年末に近く、繁忙期で忙しいという社会人特有の時間的制限による学習時間の確保に対する不安の声も見られた。

表 35 構成概念：「反転授業への前向きな受容姿勢」「学習時間確保の不安」

発話者	テキスト	テーマ・構成概念
学習者 B	(對上課的心情) 興奮。我會認真。只是工作有點忙。要趕工。要趕年底。 ((授業に対して) ワクワクしている。真剣に取り組むと思う。でも仕事が少し忙しい。年末だから。)	授業への期待／仕事による時間的制約
学習者 B	(對翻轉教學) 負面的情緒嗎？目前是還好，目前沒有。應該不會有。(ネガティブな気持ち？今のところ大丈夫、ない。これからもない。)	反転授業への前向きな受容姿勢
学習者 C	怕自己沒有時間好好上課。(中略) 期待啊，就正常。(授業にちゃんと来られるか心配。(中略) 期待している、普通に。)	反転授業への前向きな受容姿勢／不安と期待の共存
学習者 D	(負面的情緒) 不會啊。我一直都覺得還不錯啊。(中略) 就是有預習的話會先了解課程的內容。然後就是有看過影片，老師上課的時候就會想起那個影片的片段。((ネガティブな気持ちはない。(反転授業形式は) ずっといいと思っている。予習があると先に授業内	反転的授業への前向きな受容／反転授業の利点の理解

	容を理解できる。それに動画を視聴していれば先生が授業で話した時にその動画の部分を思い出せる。)	
--	---	---

5-2-2.学習意識の変容

続いて、学習意識の変容については中間テスト後および授業終了時に実施したインタビューデータから「予習課題に対する改善案と意欲的な姿勢」と「練習形式と学習効率の懸念」という 2 つの構成概念が見られた。まず、「予習課題に対する改善案と意欲的な姿勢」についての具体的な発話内容を表 36 に示す。前期では当初、動画視聴や文法問題の提出など予習しなければならないことに対して不安の声が挙げられていたのに対し、後期では予習課題はもっと多くてもいいという声や、リスニングや短文読解の問題を入れるのはどうか、テストと同じ形式の問題を入れるのはどうかなど、改善案や希望が多く見られた。これは学習者が予習課題の遂行が文法理解と定着につながるということを前期で理解・実感し、それぞれ伸ばしたい技能の練習を予習課題にも組み込みたいという積極的な学習の姿勢の表れであると考えられる。

表 36 構成概念：予習課題に対する改善案と意欲的姿勢

発話者	テキスト	テーマ・構成概念
学習者 A	就是教到什麼就寫什麼。就變成說不會太簡單但也不會有更進一步的應用，就會比較簡單一點。那我覺得可以再多變化一點。(中略)我覺得可以加入一些課本上沒有的(東西)。譬如說形容詞或是一些名詞。對，那就不會說寫作業都是一直看到熟悉的東西。(中略)我覺得可能可以再加一	予習課題に対する改善案 (応用問題の出題希望) ／自身の不得意分野の理解と改善意欲



	些短篇的閱讀。那其實聽力也可以放進題目裡，因為我覺得我自己聽力比較弱。那練習題的話大部分都著重在文法跟て形的變化。聽力就會比較少一點。聽力跟一些短篇的閱讀題(比較少)。(文法課題は教わったことから出題される。言い換えれば簡単過ぎないけどその分応用もない。だから、もう少し問題に変化があればいいと思う。教科書にないものをいくつか追加してもいいと思う。例えば形容詞や名詞などで。そうすれば宿題をする時馴染みのものだけを使うのではなくなる。(中略)短い読解問題があってもいい。それから、リスニングも。練習問題のほとんどは文法とて形の変化だから。リスニングと読解の練習が少ない。	
學習者 D	很少。(難度)還好吧，就沒有特別…不用花很多時間。(中略)或是可以給我們那個…作業是很像考試的那種作業。因為現在的作業比較像寫句子，就是(要)自己想，要寫什麼。作業跟考試，可能會有一點差異。會寫作業，但不一定會考試。作業練習文法比較多。(少ないと思う。難易度も普通かな、そこまで時間がかからない。(中略)テスト形式の問題を	予習課題への改善案(予習課題と定期試験の出題形式の統一)



	宿題に入れるのもいいかも。今の宿題は文作とか、自分で考えるものが多い。だから宿題とテストで差がある。宿題はできてもテストができないこともある。宿題は文法の練習が多い。)	
学習者 E	我覺得有句子翻譯那個不錯。就是日翻中、中翻日的造句那些。有比較多對不對？我覺得那還不錯，開頭的那個，每個禮拜有練習轉して形或ない形。也可以再多一點。(翻訳問題はいいと思う。日中翻訳、中日翻訳が増えたよね？あれはいいと思う。それから(課題の)最初に毎週ある、て形やない形の活用練習もいいと思う。あれはもっと多くてもいい。	予習課題への意欲的姿勢 ／予習課題への改善案 (動詞変化練習問題の増加希望)

次に、「練習方式と学習効率の懸念」については具体的な発話を表 37 に示した。アンケート調査及び今回のインタビュー調査において、ペアや少人数のグループワークについては印象が強まり日本語学習に有効であると答える学習者が多かった。一方で、ゲーム形式²⁵やロールプレイなどの活動については、練習に費やす時間の割に学習効率はそれほど高くないのではないかという懸念が見られた。しかし、学

²⁵ 後期に実施したゲーム・ロールプレイ活動の例：

- ①授業開始時に風船を用いた「て形」の復習を行なった。練習方法は、クラスを半分に分け、各グループに一つ風船を渡し、一人が動詞の「ます形」を言いながら風船を叩き、別の人が「て形」に変換しながら風船を叩き返すというものである。授業の際は、学習者が覚えている単語に限りがあるため、制限時間内で風船を地面につけないようチームで対抗戦という形にした。
- ②『みんなの日本語 聴解タスク』から、2 人の会話がある問題を抽出し、リスニング問題の練習後、ペアになって会話を再作成、発表させた。

習者らは教師のフィードバックには限界があることを理解し、現在の授業内での会話練習等の量については概ね満足しているという回答が多く見られた。したがって、今後は活動の「量」を増やすのではなく練習の「質」の改善を進めていくことが求められる。

表 37 構成概念：練習方式と学習効率への懸念

発話者	テキスト	テーマ・構成概念
学習者 C	如果比較不熟的話，還是比較喜歡先照課本。想要先熟了再玩遊戲，不然也玩不起來。我說課本內容，就是文法比較熟了，或者是新的東西比較熟了，再玩遊戲，才比較玩得起來。 （まだ慣れていないなら、まずは教科書の問題をやるのでいい。慣れてからゲーム活動をしたい。でないと遊ぶにも遊べないから。教科書の内容です。文法に慣れてから、ゲーム活動をする。そうした方が遊べる。）	習熟度のゲーム活動への影響／練習効率への懸念
学習者 D	（演戲/遊戲的練習會花太多時間）因為是大家每次都要想一下才回答得出來。（中略）所以我覺得我們自己練，沒有達到那個效果。我們自己練我們可能會講錯，然後我們自己也不知道。就是要講給你聽的時候，你才會知道。（（練習に時間がかかるのは）みんな少し考えてからじゃない	練習効率への懸念／教師のフィードバックの必要性



	と答えられないから。(中略)だから、自分たちだけで練習しても学習成果はそこまで高くない。自分たちだけで練習したらどこが間違っているのかわからない。先生に聞いてもらってやっと間違いに気づける。)	
学習者 E	其實現在應該是可以啦。就是自己個人的練習量不夠多。可是這現在的狀況如果班上再提升、再加強對話的這部分的話，可能就會比較亂，因為老師只有一個。然後如果說儘量用日文溝通的話，你沒辦法看太多人去顧他的文法，然後他的正確度也不確定。 對，就現在的(練習)現在應該就差不多可以了。(中略)可能大家要(進)入狀況也都會要(花)很長時間。就變成整個時間拉很長，然後就會覺得有點(花)費太多時間在上面。對，可是成果就沒有那麼理想。(練習は今のままでいい。自分の個人練習が足りていないだけ。会話練習の部分を改善・強化しようと思っても、先生は一人だけだからより混乱するかもしれない。できるだけ日本語でコミュニケーションを取らせても、先生は全ての学生の文法を確認することはできないし、学生が話している日本語の正確さも不確か。だから、練習は今のま	学習効率への懸念／教師支援の限界



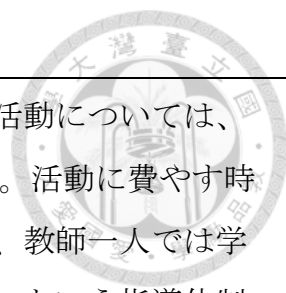
	までいいと思う。(中略) ロールプレイなどは全員がその状況に入る(理解する)までに長い時間がかかるかもしれない。だから練習全体の時間が長くなって練習に時間をかけ過ぎているように感じる。それなのに学習成果はそれほど理想的ではない。)	
--	--	--

5-2-3.後期におけるストーリーラインと理論記述

以下の表 38 は後期のインタビューデータをもとに得られた構成概念から、ストーリーラインと理論記述をしたものである。なお、分析で生成したテーマ及び構成概念は太字で表記している。

表 38 後期におけるストーリーラインと理論記述

ストーリーライン	前期から継続して反転授業を受けた社会人学習者は授業開始時から全体的に反転授業形式に対する前向きな受容姿勢が見られた。学習者たちは全学期の経験を通じて、反転授業形式に慣れており、引き続き同様の形式で学ぶことに抵抗はなかった。ただし、繁忙期であるという社会人特有の忙しさから、学習時間の確保への不安も一部に見られた。 中間テスト後及び授業終了時のインタビューからは、学習者の学習意識に前向きな姿勢が表れていた。特に予習課題に対する改善案と意欲的姿勢が顕著であり、予習課題の内容をより実践・応用的なものにしたいという声や、自身の弱点に対応した練習問題の追加を希望する意見が寄せられた。
----------	--



	一方で、ゲーム形式やロールプレイなどの練習活動については、練習方式と学習効率への懸念が浮かび上がった。活動に費やす時間に対し得られる効果が高くないという指摘や、教師一人では学習者全員にフィードバックをすることができないという指導体制上の限界への認識が見られた。
理論記述	・社会人としての忙しさに対する不安は残るものの、反転授業形式への慣れと効果への理解が、前向きな受容姿勢へとつながった。 ・予習課題について、学習者が自らの弱点や関心に応じて内容を調整してほしいという意見を持つようになり、課題を受け身的な「義務」ではなく能動的な「学習手段」として捉える姿勢が強まった。 ・主体的な授業参加意識が芽生えたことにより、より効率的な練習活動を求める意識が強まった。

5-3. 全体を統合したストーリーラインと理論記述及びさらに追求すべき課題

最後に、反転授業形式を2学期にわたり継続的に経験した社会人学習者らの反転授業への受容過程と学習意識の変容を前期と後期のストーリーラインを統合し、表39に示す。なお、分析で生成したテーマ及び構成概念は太字で表記している。

表 39 前期・後期を統合したストーリーライン、理論記述、追求すべき課題

ストーリー ライン	前期では、反転授業という新しい学習形式に対して、予習習慣のなさや日々の仕事から時間的制約と予習への不安を抱いていた。しかし、動画視聴を通じた事前学習に慣れ、学習効率の上昇を実感する中で、反転授業の受容を進めていった。また、動画視聴及び文法課題の提出により予習習慣が形成され、自律学習行動の増加が見られた。さらに、授業活動の活発化により、外的報酬が存在しない環境下でも内発的動機の育成を進めた。 後期では、前期の経験を経て、すでに反転授業形式を受け入れており、繁忙期という時期的関係から予習時間確保の不安は残ったものの、授業開始時点から全体的に前向きな受容姿勢を示していた。また、予習課題への改善策と意欲的姿勢が見られ、学習者が単なる参加者から「能動的な学習者」へと変化しつつあることが伺えた。 一方で、練習活動に対しては、活動量に対する学習効果への疑問や、教師一人ではフィードバックが行き届かないという構造的課題も指摘された。特に、ゲーム活動やロールプレイに対しては、練習方式と学習効率への懸念が見られた。これは、学習意欲が高まったからこそ「より良い学び」を求める姿勢が現れたとも言える。
理論記述	・反転授業形式は初導入時において、学習者に時間的・心理的負担をもたらす一方、継続することで次第に学習効果や利便性を認識し、受容が進み、内発的動機を喚起する学習環境となりうる。 ・後期では、学習者が自らのニーズに合わせた予習課題を提案するなど、受け身の学習から能動的な学習へと意識変化が見られた。



	・練習活動については、活動量と成果のバランス、教師によるフィードバックの限界など、学習効果に対する現実的な課題意識が生まれていた。 ・反転授業形式は社会人学習者に対して「学習の質」や学習継続の「意味づけ」への意識変化をもたらした
さらに追求すべき課題	・予習課題の最適化にはどのような問題形式、内容にすべきか ・教師によるフィードバックの限界を補う授業内活動の構築

以上のように、前期・後期で得られた回答から抽出した共通する 8 つの構成概念を再文脈化し、ストーリーラインを作成することで、社会人学習者の反転授業への評価及び受容過程と、学習意識の変容を説明できる。導入初期は予習課題が増えることによる不安を持っているが、次第に反転授業の利点を認識し、受容していくという過程は、古川・手塚（2018）の結果と同じであった。

一方で、古川・手塚（2018）で導入当初に見られた「教育方法の変化による戸惑い／拒否感」については社会人学習者に対しては見られなかった。時間的制約に対する不安を口にする学習者は多く見られたものの、「面倒くさい」「やり方が変わって混乱した」といった形式自体への否定的な発言はほとんど確認されなかった。これは、社会人学習者が限られた時間の中で効率的に学ぶ手段を求めており、新しい学習形式に対しても比較的柔軟に受け入れる姿勢を持っていることが一因と考えられる。

加えて、本研究では仕事との両立や繁忙期等時期によっては学習時間の確保が困難になること、昇進や資格取得のためといった外的報酬が存在しないという社会人特有の性質を持つ学習者にとって、反転授業形式が自律学習を促進し、内発的動機を支える手段となり、学習継続の意味づけとして機能する可能性を示した。

理論記述を行った結果、今回のインタビューデータから、社会人学習者が反転授業をどのように受容し、反転授業がどのような変化をもたらすのかという点におい

て、以上の四点が挙げられた。また、表 39 の「さらに追求すべき課題」で示した
二点については、今後の課題として残った。



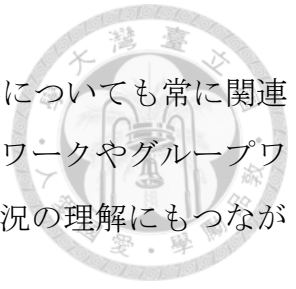
第六章 まとめと今後の課題



6-1. 研究結果のまとめ

本研究では、社会人学習者を対象に、2 学期間にわたり反転授業を実践し、授業前後アンケート及び半構造化インタビューで得られた学習者の反転授業に対する評価とその受容過程、意識変容を調査した。ここでは、研究結果の考察をアンケート調査とインタビュー調査の SCAT 法による分析に分けてまとめる。

まず、アンケート調査では、1 週間の日本語学習時間が前期・後期どちらにおいても授業後において授業前を上回っていたことから、反転授業の形式が学習者の予習・復習に影響を与えることがわかった。これについては動画や予習課題があることで、自学が促進されることをよく思う学習者がいる一方で、仕事が忙しい学習者らにとっては負担を感じるという意見も得られた。また、社会人学習者に対して反転授業の形式は適しているかと言うという問いに対して、ほとんどの学習者が「適している」と回答しており、自分のペースで進められることや授業に参加できなくても動画があることでいつでも授業に参加できる点を評価していた。中にはあまりに忙しく、授業に参加することも出来なければ動画を視聴する時間さえないという学習者もあり、このような学習者は反転授業が社会人学習者に適していないと考えていた。但し、このような学習者も動画がある事に対しては良い評価を持っており、動画を教材として配布すること自体はどのような学習者であっても高く評価していることが分かった。また、予習課題で適宜短文読解や翻訳問題を入れることで、学習者が読解力の向上を実感しやすくなると考えられる。また、授業内活動について、ペアワークやグループワーク等の協働学習が増えたことを学習者らは評価しており、授業が楽しくなったことや居眠りしてしまうことが減ったという感想が得られた。社会人学習者の語学学習参加の特徴として、単なる言語知識の取得ではなく、自己成長や他者との関わりによって自分の経験や価値観を広げるために参加するということが内山（2018）等によって明らかにされている。これは授業の参加目的を問うた結果から今回の学習者らにも共通しており、協働学習の時間が多い反転授業の形式はこのような目的を持った社会人学習者に適した授業形式であると考えられる。また、



文法動画作成の際には、10 分以内に収めるようにし、既習内容についても常に関連させて導入していくことが、高い評価につながる。また、ペアワークやグループワークの他に、定期的な小テストの実施が、学習者自身の学習状況の理解にもつながると考える。

次に、半構造化インタビューの SCAT 法による分析を通して、学習者らは反転授業導入当初は時間的制約などから不安を抱いていたが、授業が進むにつれ、反転授業の利便性や柔軟性を認識、評価し、反転授業形式を受容していくという過程が示された。加えて、動画視聴や文法課題をきっかけに、予習行動が習慣化され、自律学習行動の増加が見られた。さらに授業内活動の活発化、他者との関わりから学ぶことに意義を感じ、内発的動機の育成が促進された。後期においては、前期の経験を踏まえて反転授業形式に対する前向きな受容姿勢が最初から見られた。また、予習課題に対する改善案や自身の学習ニーズに応じた内容を希望する声も見られ、予習課題が「教師から与えられる義務的な課題」から「自律的な学習手段」へと学習者の認識が変化したと考えられる。一方で、授業内活動については、練習方式と学習効率への懸念が見られ、特に、ゲーム活動やロールプレイ活動に対しては「費やす時間の割に学習効率は高くない」との指摘があり、限られた時間の中で効率的かつ意味のある学習を重視する傾向が明らかとなった。

また、予習課題や授業内活動に対する改善案の提案は、前期のインタビューではあまり見られなかったのに対し、後期には学習者からの主体的な提案が増加した。これは、反転授業形式を継続して受講することで、自律学習の意識が育まれ、受動的な学習姿勢から能動的な学習者へと変容したことによると考える。

以上より、反転授業形式は、時間的制約が多く、具体的な目標が持ちにくい社会人学習者にとって、持続的かつ自律的な学習を促す手段になると考える。以下に第一章で掲げた本研究の研究課題とそれに対する結論をまとめる。

一、社会人日本語学習者が反転授業をどう評価し、どのように受容していくのか
(学習進度や理解度、学習継続のしやすさといった観点から)



結論：ほとんどの学習者が「自分のペースで進められる」や「授業での会話練習が増えた」などの理由から反転授業形式を肯定的に評価し、社会人学習者に適した授業形式だと評価した。また、導入当初は予習への不安があったが、次第に動画の利便性を認識し、予習習慣を形成し、主体的な学習への内発的動機づけが促進された。

二、社会人を対象とした反転授業を行う上で、講義動画を含む予習課題、授業内活動をどのように行うのが最適であるか

結論：講義動画は 10 分以内で作成し、逐次、既習の学習項目と関連づけながら導入することで、予習教材としてだけでなく復習教材としても活用できる。予習課題には適宜短文読解や翻訳問題を入れることで学習者が読解力の向上を実感しやすい。また、より効率的な学習を目指す学習者に配慮し、基本的な課題に加えてリスニングや読解問題を設け、任意で練習できるよう導入することが望ましい。また、授業内活動は新規文法が確実に定着するまでは教科書の練習や、ペアやグループワークなどで負荷の少ない協働学習を行うのが適切である。さらにゲーム活動やロールプレイを行う際にはその目的や期待される学習効果を明確に説明しておくことで、より活動への主体的な関与を引き出し、学習効果を上げることにつながる。

6-2. 今後の課題

今後の課題としては、①通常の授業形式との比較による学習成果の検証、②動画を見て来られなかった学生へのフォローアップの仕方の二点が挙げられる。以下にそれぞれについて詳しく述べていく。



①通常の授業形式との比較による学習成果の検証について

本研究では、反転授業の受容や学習意識変容に焦点を当て、主にアンケート調査の分析とインタビュー調査の SCAT 法を用いた質的分析を進めた。しかし、社会人学習者への反転授業の有効性をより包括的に検証するためには、通常の授業形式と反転授業形式を対比し、成績テスト等の量的データを用いて学習成果の差異を明らかにすることが必要である。本研究においても定期テストの実施は行なったが、これは反転授業を初めて受講した学期と継続して受講した学期との比較であり、反転授業が通常の授業形式に比べ学習成果を向上させることを示すものではない。大学生等の高等教育機関に通う学習者を対象とした反転授業の実践では量的分析からその有効性が示されているが、社会人学習者を対象とした通常授業と反転授業の成績比較は筆者の知る限り行われておらず、今後の課題である。

②動画を見て来られなかった学生へのフォローアップの仕方

今回の実践においても、仕事の忙しさから動画を見てくる時間さえない学習者の存在が確認された。そのような学習者に対してどのようにフォローアップを行うのかは今後社会人学習者を対象としたクラスで反転授業形式を実施するにあたり、重要な検討課題となるだろう。インタビュー調査では、動画を見てきた学生であるにもかかわらず、「文法の解説は授業内でもう一度あってもよい」という意見や「授業でもう一度解説を行えば、動画を見て来なかった学生はその場で学べるし、見てきた学生にとっては復習や確認になる」といった意見が得られた。これまで、従来の先行研究では反転授業を実施する際のポイントとして、動画で話した内容を授業で話すと学習者が動画を視聴する意義を感じられず、反転授業の効果を発揮できない（古川・手塚 2016）とされており、本研究においてもそうならないよう意識して実践を行なってきた。しかし、明確な学習目標や日本語学習の必要性が必ずしも高くない社会人学習者にとっては、授業内で動画内容を再確認することはむしろ全体の理解促進につながり、ゲーム活動等の応用練習もスムーズになる可能性がある。本研究では授業の最初に文法課題の答え合わせを活用し、簡単に文法内容の確認を行う程度に抑えていたが、動画内で使用したスライドを再利用するなど、確認の時

間及び方法に工夫を加えることで、すべての学習者が授業内での協働学習を円滑に進めることにつながると考える。

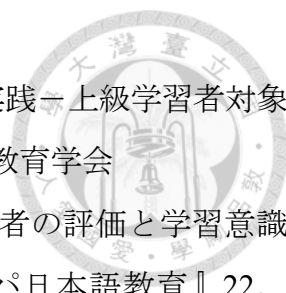
今後は、本研究で明らかになった課題を踏まえ、引き続き検討と実践を重ねながら、台湾における社会人学習者の自律的学習支援及び日本語学習支援に貢献していきたい。

参考文献



(1) 日本語文献

- 池畑祐介（2023）「社会人対象の日本語会話授業における絵本活用－SCAT 分析法を通して学習者の感想をみる－」『政大日本研究』20, 21-45. 国立政治大学日本學系研究社
- 内山喜代成（2018）「台湾における成人日本語学習者の学習継続プロセス－教室への参加及び参加継続の推進・阻害要因の分析－」『日本語教育』171, 31-46. 日本語教育学会
- 大谷尚（2008）「4 ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案－着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き－」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（教育科学）』54, 27-44.
- 大谷尚（2011）「SCAT: Steps for Coding and Theorization : 明示的手続きで着手しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法」『感性工学』10, 155-160.
- 黄聖文（2020）「台湾の大学における非専攻日本語初級クラスでの反転授業の可能性」『東吳日語教育學報』53, 86-144. 東吳大學日本語言文化系
- 鈴木靖代（2018）「オープン教材を活用した初級日本語授業における反転授業実践」『一橋大学国際教育センター紀要』、9、pp.59-71、一橋大学国際教育センター
- 張瑜珊（2021）『反転学習研究から得られた実践知－日本語初級文法授業を対象に－』、瑞蘭國際有限公司
- 陳文敏（2022）「反転教育とピア・ラーニングを実施した初級日本語の実践報告－学生の意見をもとに－」『政大日本研究』19, 69-98. 国立政治大学日本學系研究社
- 中溝朋子（2016）「日本語中上級文法クラスにおける反転授業の試み」『日本語教育方法研究会誌』22, 78-79.
- 林喜恵（2021）「高等教育機関における日本語教育での反転授業の試み－非日本語専攻学習者を対象に－」国立台灣大學日本語文學研究所 碩士學位論文

- 
- 古川智樹・手塚まゆ子（2016）「日本語教育における反転授業実践—上級学習者対象の文法教育において—」『日本語教育』164, 55-62. 日本語教育学会
- 古川智樹・手塚まゆ子（2018）「反転授業に対する日本語学習者の評価と学習意識の変容—SCAT による質的分析を通して—」『ヨーロッパ日本語教育』22, 465-471.
- 町田絵美（2019）「初級後半クラスでの反転授業の試み—ビデオの作成と授業の実践報告—」『日本語教育研究』65, 191-209. 長沼言語文化研究所
- 森朋子・溝上慎一（2017）「アクティブラーニング型授業としての反転授業」、ナカニシヤ出版
- 閻麗妮（2022）「ビジター・セッションにおけるコミュニケーション・ストラテジーの使用—地域成人日本語教室の事例研究—」『東吳日語教育學報』55, 27-53. 東吳大學日本語言文化系
- 虞 安寿美（2022）「日本語学習に関するアイデンティティ—台湾人就業女性学習者の事例研究—」『東吳外語學報』53, 125-157. 東吳大學外語學院
- 山内裕平・大浦弘樹（2014）「反転授業の二つの類型」ジョナサン・バーグマン
アーロン・サムズ著／山内・大浦監修／上原裕美子訳『反転授業』オデッセイ
コミュニケーションズ



(2) 中国語文献

林婷芳(2024)「翻轉教育應用於成人日語教學之個案研究－以某機構之反轉教育為例－」
國立台北教育大學教育經營與管理學系 碩士學位論文

葉丙成 (2015) 「教出孩子的真正能力！BTS 翻轉教學法」 『教育脈動』 1 , 53-64.

(3) 英語文献

Bergmann., & Sams, A. (2012) “Flip Your Classroom: Reach Every Student in. Every Class Every Day(pp.120-190). Washington DC: International Society for Technology in Education.

Baker, J.W. (2000) “The Classroom Flip: Using Web Course Management Tools to Become the Guide by the Side.”, 11th international Conference on College Teaching and Learning, Jacksonville, Florida Community College.

Carroll, J. B. (1963) “A Model of School Learning.” *Teachers College Record*, 64(8), 1-9.
<https://doi.org/10.1177/016146816306400801> (Original work published 1963)

Guo, P. J., Kim, J., & Rubin, R. (2014) “How video production affects student engagement: an empirical study of MOOC videos.” *Learning at Scale 2014*, pp.41- 50

Lage, M.J., Platt, G. J., & Treglia, M. (2000) “Inverting the Classroom: A Gateway to Creating an Inclusive Learning Environment. *The Journal of Economic Education*, 31, 30-43.
<http://dx.doi.org/10.2307/1183338>

(4) インターネット資料

国際交流基金 (2017) 『海外日本語教育機関調査報告書：国・地域別情報，台湾』：
https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2023/taiwan_2.pdf
(閲覧時間 2025 年 6 月 11 日)

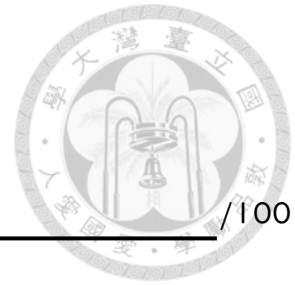
ベネッセ教育研究所（2013）『Benesse 発 これからの教育』、VIEW21 小学版：
https://benesse.jp/berd/up_images/magazine/2013vol4_262.pdf（閲覧時間：2025 年 6
月 11 日）

安喬（2017）『翻轉教育，教育翻轉了什麼？』、換日線 CROSSING：
<https://crossing.cw.com.tw/article/8240>（閲覧時間：2025 年 6 月 11 日）

（5） 教材

スリーエーネットワーク『大家的日語 初級Ⅰ 改訂版』大新書局、2015 年

スリーエーネットワーク『大家的日語 初級Ⅱ 改訂版』大新書局、2015 年



(1) 單字 選擇 (1.5 点×8) /12

- | | | | | |
|----------|---------|----------|---------|----------|
| ①東西 | a. のみもの | b. スイッチ | c. くだもの | d. もの |
| ②窗戶 | a. ドア | b. まど | c. ポスト | d. たな |
| ③兄弟姊妹 | a. しまい | b. きょうだい | c. おとうと | d. あね |
| ④外國 | a. がいこく | b. こうえん | c. りょこう | d. そと |
| ⑤きっさてん | a. 機場 | b. 郵局 | c. 便利商店 | d. 咖啡店 |
| ⑥れいぞうこ | a. 箱子 | b. 郵筒 | c. 大樓 | d. 冰箱 |
| ⑦多久 | a. いくつ | b. どれ | c. どう | d. どのくらい |
| ⑧一張 (量詞) | a. ひとつ | b. いちまい | c. ひとり | d. いちだい |

(2) 單字 ※①～④不要寫漢字 (2.5 点×8) /20

- | | | | |
|-------|---|--------------|---|
| ①桌子 | → | ⑤ちかく | → |
| ②各式各様 | → | ⑥うしろ | → |
| ③父母 | → | ⑦かかります | → |
| ④船運 | → | ⑧(会社を) やすみます | → |

(3) 文法 選擇 (2 点×5) /10

- ①あそこにこうえんが (あります・います)。
- ②ミラーさんはワンさんの隣に (あります・います)。
- ③事務所にだれも (います・いません)。
- ④今までどのくらい日本語を (勉強します・勉強しました) か。
- ⑤毎日何時間 (はたらきます・はたらきました) か。

(4) 文法 填空 (5 点×5) /25

- ①いす () 下 () ねこがいます。
- ②銀行はスーパー () 花屋 () 間にあります。
- ③80 円の切手 () 3 枚ください。

(5) 翻譯 (3.6 点×5) /18

- ①わたしの家族は4人です。父と母といもうとが1人います。
→
- ②わたしはいま、いもうとの家にいます。
→
- ③かのじょ (わたしのいもうと) は家のまへのコンビニにいます。



→ _____

④かのじょ（わたしのいもうと）は毎日コンビニで5時間アルバイトをします。

→ _____

⑤わたしといもうとは1週間に2回いっしょにごはんをたべます。

→ _____

(6) 聴力 (3点×5) /15

	A	B	C	D
①				
②				
③				
④				
⑤				



(1) 單字 選擇 (2点×10) /20

- | | | | | |
|--------|-----------|-----------|---------|---------|
| ①天氣 | a. あめ | b. くもり | c. てんき | d. ゆき |
| ②機場 | a. こうこう | b. コンビニ | c. ホテル | d. せかい |
| ③游泳池 | a. パーティー | b. プール | c. スキー | d. うみ |
| ④寛 | a. はやい | b. おそい | c. ひろい | d. せまい |
| ⑤じゅうしょ | a. 地圖 | b. 名字 | c. 問題 | d. 地址 |
| ⑥ゆっくり | a. 慢慢地 | b. 直直地 | c. 馬上 | d. 等一下 |
| ⑦ただいま | a. 累了 | b. 你要點什麼 | c. 我回來了 | d. 你回來啦 |
| ⑧おつり | a. 第一次 | b. 套餐 | c. 回答 | d. 零錢 |
| ⑨あまい | a. 重 | b. 輕 | c. 甜 | d. 辣 |
| ⑩つけます | a. 開(空調等) | b. 關(空調等) | c. 拿 | d. 取 |

(2) 形容詞・動詞變化-て形*請寫漢字並標上假名 (2点×10) /20

形容詞-過去形・過去否定形

- ①さむいです→(過去形) _____ ・(過去否定) _____
- ②ひまです →(過去形) _____ ・(過去否定) _____

動詞-て形

- | | | | | | |
|-------|---|-------|--------|---|-------|
| ③来ます | → | _____ | ④急ぎます | → | _____ |
| ⑤呼びます | → | _____ | ⑥見ます | → | _____ |
| ⑦買います | → | _____ | ⑧食事します | → | _____ |
| ⑨見せます | → | _____ | ⑩借ります | → | _____ |

(3) 文法 選擇 (2点×5) /10

- ①映画は(どうですか・どうでしたか)。
・・・とても良かったです。
- ②パンダと象とどちらが好きですか。
・・・(どちらも・何も) 好きです。
- ③先週、日本へ(遊びます・遊び・遊んで)に行きました。
- ④タクシーを(呼びます・呼んで・呼び)ましょうか。
- ⑤・・・ええ、(2台呼んでください・2台呼びました)。

(4) 文法 填空 (4点×5) /20

- ①フランスの大学()美術()勉強します。
- ②日本料理()何がいちばん好きですか。



③レストラン（ ）食事（ ）行きます。

(5) 閱讀 (3 点×5) /15

田中さんから手紙をもらいました。田中さんはフランスを旅行しています。

ワンさん、こんにちは。お元気ですか。こちらは今、朝の9時半です。フランスはとても暑い^{あつ}です。わたしは今、パリにいます。フランスでいちばんにぎやかな町^{まち}です。外国人^{がいこくじん}がたくさんいます。橋の上で男^{おとこ}の人がアイスクリームを食べています。わたしもアイスクリームを食べたいです。これからマリアさんと美術館^{びじゅつかん}へ絵^えを見^みに行きます。マリアさんは10時にパリへ来^きます。
じゃ、また手紙^{てがみ}を送^{おく}ります。

- ① () 田中さんはワンさんへ手紙を送りました。
- ② () 男の人は部屋の中でアイスクリームを食べています。
- ③ () パリはフランスでいちばん静かな町です。
- ④ () 田中さんはこれからひとりで美術館へ行きます。
- ⑤ () 田中さんは今、マリアさんを待っています。

(6) 一問一答, 翻譯*①~④請寫漢字並標上假名 (3 点×5) /15

①毎日どのくらいテレビを見ますか。

②季節でいつがいちばん好きですか。

③時間とお金とどちらが欲しいですか。

④次の日曜日は何をしたいですか。

⑤請用原子筆寫你的名字。*中翻日

添付資料①-3 前期口頭試験



J3 口頭試験

- (1) あなたの会社に外国人がいますか。
- (2) あなたはどのくらい日本語を勉強しましたか。
- (3) 海と山とどちらが好きですか。
- (4) 週末何をしたいですか。



(1) 單字 (1点×10) /10

- ①資料 a. じんじゃ b. けいざい c. しりょう d. しゅくだい
 ②衣服 a. はな b. ふく c. みみ d. おなか
 ③慢跑 a. カタログ b. ソフト c. エアコン d. ジョギング
 ④明亮 a. きれいな b. あかるい c. しずかな d. あたらしい
 ⑤わかい a. 年輕 b. 簡單 c. 愉快 d. 有趣
 ⑥サービス a. 軟體 b. 淋浴 c. 服務 d. 目錄
 ⑦はいしゃ a. 高中 b. 大學 c. 市政府 d. 牙醫
 ⑧みじかい a. 高 b. 便宜 c. 長 d. 短
 ⑨A: すみません。田中さんは(a. どの b. どちら c. どれ d. どうやって)人ですか。
 B: 田中さんですか。あのダンスが上手な人ですよ。
 ⑩A: すみません。大学まで(a. どこ b. どうして c. どれ d. どうやって)行きますか。
 B: 京都駅からバスに乗って、大学前で降ります。

(2) 動詞て形 (2点×5) /10

- ①^{つく}作ります→ _____ ⑥^あ浴びます→ _____
 ②^お置きます→ _____ ⑦^い入れます→ _____
 ③^き来ます→ _____ ⑧^お押します→ _____
 ④^か借ります→ _____ ⑨^の飲みます→ _____
 ⑤^{はじ}始めます→ _____ ⑩^{けんがく}見学します→ _____

(3) 文法 (2点×5) /10

- ①教室でお酒を(飲んでもいいです/飲んではいけません)。
 ②A: 学校の電話番号を(知ります/知りて/知って)いますか。
 B: いいえ、(知っていません/知りません)。
 ④A: ここに(座りましょうか/座ってもいいですか)。
 B: ええ、どうぞ。
 ② A: 食事に行きませんか。
 B: すみません。メールを(送ってから/メールを送って)、行きます。

(4) 助詞 填空 (2点×5) /10

- ①大阪はにぎやかで、食べ物()おいしいです。
 ① 大阪駅からJR()乗って、京都駅()降ります。
 ③大学()出してから、英業達()働いています。



(5) 翻譯 (5 点×4) / 20

① 試験ですから、隣の人と話してはいけません。

→ _____

② 東京はにぎやかでおもしろいです。

→ _____

③ 我先打電話再去朋友家。

→ _____

④ A: 不好意思, 請問你結婚了嗎 B: 沒有, 我是單身。

→ _____

(6) 問答 (5 点×4) / 20

1. 今だれと、どこに住んでいますか。

2. きょう、何をしましたか。(請用兩個以上的動詞並使用て形)

3. あなたの部屋はどんな部屋ですか。(請用兩個以上的形容詞並使用て形)

4. 台湾の食べ物はどうですか。(請用兩個以上的形容詞並使用て形)

(7) 閱讀 (2 点×5) / 10

① () ② () ③ () ④ () ⑤ ()

I しても いいです… (○)

しては いけません… (×)

1) ()

午後 1:30



2) ()

午後 2:45



3) ()

火曜日 午後 8:30



(4)

午後 12:15



(5)

午後 2:00





(8) 聽力 (2 点×5) /10 ①~③是○/×

1. ①() ②() ③()

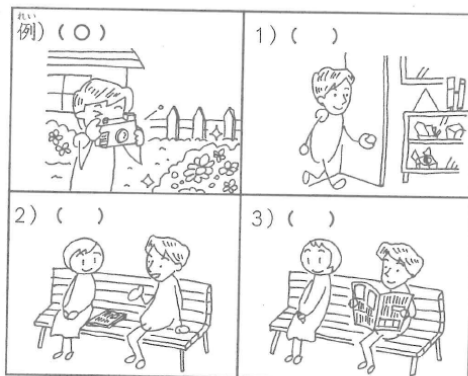
ミラーさんは散歩に 行きました。

途中で 何を しましたか。 Track 09

途中で
途中、半路

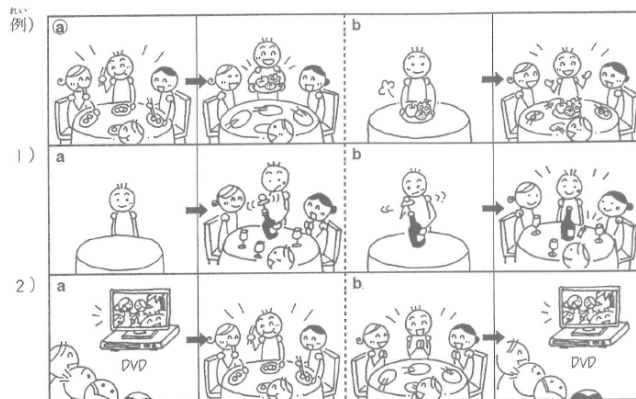
珍しい
珍奇、罕見

しました……○ しませんでした……×



2. ④(a / b) ⑤(a / b)

パーティーを します。a と b の どちらですか。 Track 15





(1) 單字 (1点×10) /10

- ①熱水 a. みず b. おゆ c. ジュース d. おちゃ
②聲音 a. おと b. みみ c. みち d. うた
③尺寸 a. アルバイト b. カード c. サイズ d. レポート
④寂寞 a. ねむい b. つよい c. さむい d. さみしい
⑤おかし a. 午餐 b. 點心 c. 蛋糕 d. 便當
⑥セーター a. 外套 b. 毛衣 c. 帽子 d. 眼鏡
⑦しんごう a. 道路 b. 十字路口 c. 紅綠燈 d. 橋
⑧おじいちゃん a. 阿公 b. 阿媽 c. 店員 d. 學生
⑨週末は(a.あまり b.とても c.よく)ゲームをしています。
⑩A:パーティーの料理、おいしかったです。全部(a. 自分が b. 自分で c. 自分は)作りましたか。
B:いいえ、ミラーさんに手伝ってもらいました。

(2) 修飾名詞 (2点×5) /10

- ①學習日文的時間→ _____ ②我做的蛋糕→ _____
③戴眼鏡的人→ _____ ④給朋友的伴手禮→ _____
⑤沒吃早餐的人→ _____

(3) 文法 (2点×5) /10

- ①朝、(起きる／起きた)とき、「おはよう」と言います。
②(眠い／眠く／眠いの)とき、コーヒーを飲みます。
③左へ(回します／回す／回した)と、音が小さくなります。
④彼はわたしにワインを(あげました／くれました／もらいました)。
⑤A:去年、母の日にお母さんに何をしましたか。
B:歌を(歌ってあげました／歌ってくれました／歌ってもらいました)。

(4) 助詞 填空 (2点×5) /10

- ①A:すてきなカバンですね。
B:ええ。田中さん()くれました。
②わたしは山田さん()英語を教えてくださいました。
③わたしは弟()駅まで送ってあげました。
④22歳()とき、大学を卒業しました。
⑤その橋()わたると、左に銀行がありますよ。



(5) 翻譯 (5 点×4) / 20

- ①たくさんお酒を飲むと、顔が赤くなります。
→ _____
- ②佐藤さんはわたしに赤いかばんをくれました。
→ _____
- ③冰箱裡面什麼都沒有的時候，我會用 FOOD PANDA。
→ _____
- ④我請山田先生幫我搬家。
→ _____

(6) 問答 (5 点×4) / 20

1. どうなうちが欲しいですか。

2. どんなとき、タクシーに乗りますか。

3. 友だちにお金を貸してあげたことがありますか。

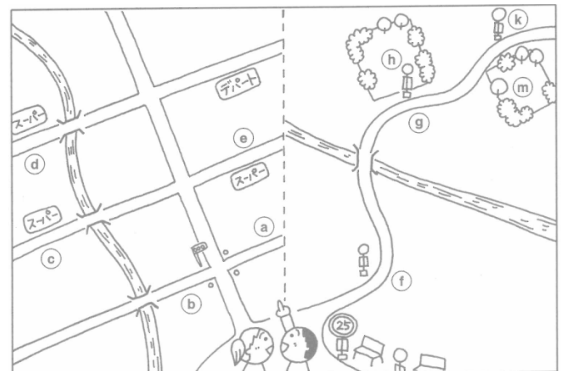
4. あなたはわたし(先生)に何をくれますか。

(7) 閱讀 (2 点×5) / 10

1. 例1 (○) アランさんは大阪に住んでいます。
例2 (×) アランさんはアメリカ人です。
①() アランさんは日本人と時々英語で話します。
②() アランさんは日本語がわかりませんから、日本人は英語で話します。
③() 駅の前で日本人と話したとき、女の人は男の人より親切でした。
④() アランさんが図書館へ行ったとき、図書館は休みでした。
2. アランさんはどうして「日本人の皆さん。日本語をお願いします。」と言いましたか。
①英語が嫌いからです。
②日本人の英語より日本語のほうがわかりますから。
③日本語を覚えたいからです。

(8) 聴力 (2 点×5) / 10

1. どこですか。〈聴解タスク L23-4〉
例) (a) ①() ②()

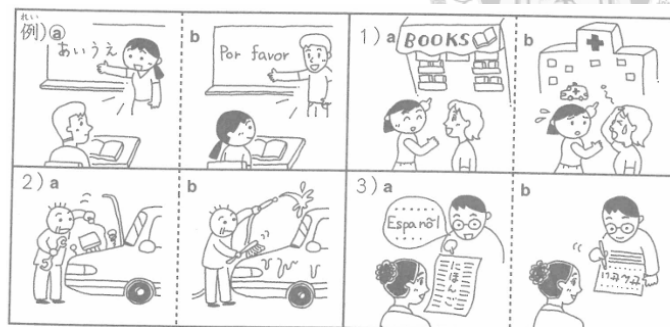


2. きょう日本語教室のクラスが終わります。

外国人は日本語のボランティアに何をしてもらいましたか。

〔ボランティア…義工〕

①() ②() ③()



添付資料②-3 後期口頭試験



J4 口頭試験（中間）

- （１） 日曜日、何をする？
- （２） 果物で何が一番好き？
- （３） 日本についてどう思いますか。

J4 口頭試験（期末）

- （１） この人はどんな人ですか？（動詞普通形＋名詞で回答）
- （２） 道がわからない時、どうする？
- （３） 子供の時、お父さんやお母さんによく遊んでももらいましたか。
- （４） 友達の誕生日に何をしておあげたいですか。

添付資料③-1 前期授業前アンケート



前測問卷調查

◆ 個人資訊

1. 姓名：_____
2. 年齡(不介意的話)：_____

◆ 學習經歷

1. 日文學了多久?： ☐1 年 ☐2 年 ☐3 年 ☐4 年 ☐5 年以上
2. 除了(公司名稱)開的日語課程, 你有學過日文嗎?： ☐有 ☐沒有
3. *回答[有]的人
什麼時候?： ☐國小 ☐國中 ☐高中 ☐大學 ☐其他_____
- 課本名稱：_____
4. 學習日文的動機：_____

◆ 學習方法

	非常不同意	不同意	同意	非常同意
1. 上課前會先預習或課後複習。				
2. 你是等到快考試時才開始準備。				
3. 你平常會接觸或使用日文。				
4. 一個禮拜學習日文時間是(不包含 J3 班)?	☐ 無	☐ 1 小時	☐ 2 小時	☐ 3 小時以上

◆ 上課方式

	非常不同意	不同意	同意	非常同意
1. 比較喜歡會話和聽力為主的課。				
2. 比較喜歡閱讀和寫作為主的課。				
3. 比較喜歡文法教學的課。				
4. 你喜歡在課堂上的兩人一組或分組協作。				
5. 四項技能(聽、說、讀、寫)中哪一項你最想提高?	☐ 聽	☐ 說	☐ 讀	☐ 寫



6. 你對這次的 J3 班有什麼需求或意見嗎?	_____

◆ 之後的計畫

	非常不同意	不同意	同意	非常同意
1. J3 班結束後也會想繼續學習日文。				
2. 之後想要考日本語能力試驗(JLPT)。將來想要用日文工作。				
3. 將來想要在工作上使用日文。				
4. 之後想要在旅行時使用日文。				

◆ 翻轉教學

	非常不同意	不同意	同意	非常不同意
1. 你有上過翻轉教學模式的課。				
2. 你對翻轉教學了解很多。				
3. 你期待翻轉教學模式能提升學習效率。				
4. 你期待翻轉教學模式能增加和老師的互動。				
5. 你期待翻轉教學模式能增加和同學的互動。				
6. 上述以外還有其他期待的嗎?	_____ _____ _____			

添付資料③-2 前期授業後アンケート



後測問卷調查

◆ 個人資訊

1. 姓名：_____

◆ 學習方法

	非常不同意	不同意	同意	非常同意
1. 上課前會先預習或課後複習。				
2. 你是等到快考試時才開始準備。				
3. 你平常會接觸或是使用日文。				
4. 一個禮拜學習日文時間是(不包含 J3 班)?	☐ 無	☐ 1 小時	☐ 2 小時	☐ 3 小時以上

◆ 上課方式

	非常不同意	不同意	同意	非常同意
1. 比較喜歡會話和聽力為主的課。				
2. 比較喜歡閱讀和寫作為主的課。				
3. 比較喜歡文法教學的課。				
4. 你喜歡在課堂上的兩人一組或分組協作。				
5. 你對這次的 J3 班有什麼感想或意見嗎?				

◆ 影片

1. 影片有幫助你學習日文
☐ 非常有幫助 ☐ 有幫助 ☐ 沒有什麼幫助 ☐ 一點都沒有幫助
2. 有需要影片嗎? ☐ 有影片比較好 ☐ 有沒有都沒差
3. 影片時間長短
☐ 太長了 ☐ 有點長 ☐ 剛剛好 ☐ 有點短 ☐ 太短了



4. 影片的活用方法

- ☐看了一次 ☐重複看了 ☐邊確認課本邊看影片 ☐看影片有時候會暫停
☐只看不懂的文法說明的地方 ☐上完課也有會影片複習
☐其他_____

5. 影片的優點

- ☐比較容易理解文法結構 ☐比較容易理解上課時老師的說明
☐預習變了輕鬆 ☐比較容易進行文法練習
☐其他_____

6. 沒有看影片/沒辦法看影片的理由

- ☐因為太忙沒有時間 ☐因為太累 ☐不看影片也能理解 ☐wi-fi 等網絡的問題
☐其他_____

◆ 翻轉教學

	非常不同意	不同意	同意	非常同意
1. 你對翻轉教學模式的課感到滿意。				
2. 翻轉教學模式增加了我和老師互動。				
3. 翻轉教學模式增加了我和同學的互動。				
4. 翻轉教學模式能提升學習效率。				
5. 翻轉教學能培養你主動學習的習慣。				
6. 跟之前的上課方式比起來你比較喜歡翻轉教學模式。				
7. 你覺得翻轉教學模式比較麻煩, 不喜歡。				
8. 你對翻轉教學課程教學方法有什麼想法或意見?	_____ _____ _____			
9. 你對翻轉教學課程教學方法有什麼改善的建議?	_____ _____ _____			

添付資料④-1 後期授業前アンケート



前測問卷調查

◆ 個人資訊

1. 姓名：_____

◆ 關於 J3：影片

1. J3 班有八個影片，你大概看了幾次呢？

	L10 ①	L10 ②	L11 ①	L11 ②	L12	L13	L14 ①	L14 ②
課前								
課後								

2. 你會想要單字的音檔或影片嗎？ 要/不要

3. 對於影片有其他需求或建議嗎？

◆ 關於 J3 班：課堂活動

1. 你最喜歡哪一種口說練習？（請按照喜歡順序編號）

兩人一組_____多人練習_____遊戲_____其他_____

2. 對於課堂上的練習有什麼需求或建議嗎？

◆ 關於學習方法

1. 一個禮拜學習日文時間有多久？(不包含 J3,4 班)

☐無 ☐1 小時以下 ☐1 小時 ☐2 小時 ☐3 小時以上

2. 你有預習／複習的習慣嗎？

預習：☐有 ☐沒有 複習：☐有 ☐沒有

3. 上一題回【有】的人；預習/複習的時候你會做哪些事？

預習：☐只看老師錄的影片 ☐邊看影片邊作筆記 ☐練習朗讀

☐其他：_____

複習：☐看老師錄的影片 ☐看 youtube 上的其他影片 ☐邊看影片邊作筆記

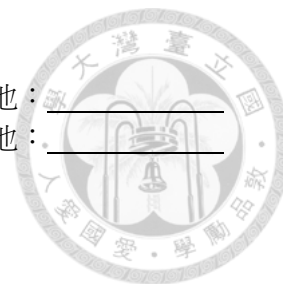
☐練習朗讀 ☐重複做課本的練習題 ☐其他：_____

4. 上課之外的時間(預習或複習的時候)你有參考課本之外的教材嗎？

☐有：_____ ☐沒有

5. 你喜歡用什麼樣的教材預習／複習？

預習：☐看課本 ☐看影片 ☐日語學習網頁 ☐手機 APP ☐其他：
複習：☐看課本 ☐看影片 ☐日語學習網頁 ☐手機 APP ☐其他：



添付資料④-2 後期授業後アンケート



後測問卷調查

◆ 個人資訊

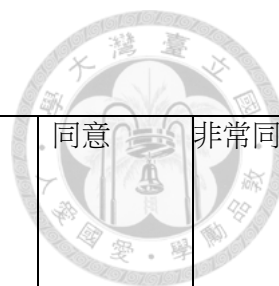
1. 姓名：_____

◆ 學習方法

	非常不同意	不同意	既不同意也不同	同意	非常同意
1. 上課前會先預習。					
2. 你是等到快考試時才開始準備。					
3. 你平常會接觸或是使用日文。					
4. 一個禮拜學習日文時間是(不包含 J4 班)?	☐ 無	☐ 10 分鐘以內	☐ 30 分鐘以內	☐ 1 小時	☐ 2 小時以上

◆ 上課方式

	非常不同意	不同意	既不同意也不同	同意	非常同意
1. 比較喜歡會話和聽力為主的課。					
2. 比較喜歡閱讀和寫作為主的課。					
3. 比較喜歡文法教學的課。					
4. 你喜歡在課堂上的兩人一組或分組協作。					
5. 你對這次的 J4 班的感想或意見。					



◆ 翻轉教學

	非常不同意	不同意	既同意也不同意	同意	非常同意
1. 你對翻轉教學模式的課感到滿意。					
2. 翻轉教學模式增加了我和老師互動。					
3. 翻轉教學模式增加了我和同學的互動。					
4. 翻轉教學模式能提升學習效率。					
5. 翻轉教學能培養你主動學習的習慣。					
6. 跟之前的上課方式比起來你比較喜歡翻轉教學模式。					
7. 你覺得翻轉教學模式比較麻煩, 不喜歡。					
8. 你認為翻轉課程形式對於忙碌的社會人學習者有適合嗎?	☐ 非常適合	☐ 多適合	☐ 沒差	☐ 不太適合	☐ 完全不適合
9. 關於上面第 8 題, 你覺得適合/不適合的理由是?					
10. 在翻轉課程形式中, 你覺得最好的部分是什麼?(例如: 可以依據自己的步調學習, 課堂上能跟其他學生互動等)					
11. 相較於其他學習方法(如傳統課堂授課), 你認為翻轉課程的優點/缺點是什麼?					
12. 你對翻轉教學課程教學方法有什麼改善的建議?					



◆ 學習效果的自我評估

1. 透過 J4 的課程，你覺得「讀、寫、聽、說」這四項能力中，哪一項進步最多？

☐讀 ☐寫 ☐聽 ☐說

◆ 影片 + 預習作業

1. 有需要影片嗎？

☐有影片比較好 ☐有沒有都沒差 ☐沒意見

2. 預習觀看影片對你理解課程內容有幫助你學習日文

☐非常有幫助 ☐有幫助 ☐沒有什麼幫助 ☐一點都沒有幫助 ☐不知道

3. 影片時間長短

☐太長了 ☐有點長 ☐剛剛好 ☐有點短 ☐太短了

4. 有需要作業（文法理解問題）嗎？

☐有作業比較好 ☐有沒有都沒差 ☐沒意見

5. 預習(作業-文法理解問題)對你理解課程內容有幫助嗎？

☐非常有幫助 ☐有幫助 ☐沒有什麼幫助 ☐一點都沒有幫助 ☐不知道

6. 預習作業量

☐太多了 ☐有點多 ☐剛剛好 ☐有點少 ☐太少了

7. 預習作業內容

☐太難了 ☐有點難 ☐剛剛好 ☐有點簡單 ☐太簡單了

8. 影片的活用方法（可以多選）

☐看了一次 ☐重複看了 ☐邊確認課本邊看影片 ☐看影片有時候會暫停

☐只看不懂的文法說明的地方 ☐上完課也會看影片複習

☐其他_____

9. 影片的優點（可以多選）

☐比較容易理解文法結構 ☐比較容易理解上課時老師的說明

☐預習變輕鬆了 ☐比較容易進行文法練習

☐其他_____

10. 沒有看影片/沒辦法看影片的理由（可以多選）

☐因為太忙沒有時間 ☐因為太累 ☐不看影片也能理解 ☐wi-fi 等網路的問題

☐其他_____

11. 你有利用單字音檔嗎？

☐有 ☐沒有

12. 第 11 題回答{有}的人

- 11-1. 怎麼利用呢？

☐_____

- 11-2. 對於單字音檔有哪些地方希望可以改進呢？

☐_____



參與研究同意書

1. 研究目的

本研究目的為調查翻轉教學對於日文學習者的影響。

2. 研究方法

本研究預計在（公司名稱）J4 課程進行實驗教學, 並向研究參與者針對設計課程進行調查。調查將分為兩個部分, 並分作兩次實施。第一部分為紙本問卷, 第二部分則根據第一部分的填寫資料進行訪談。每次訪談最長時間為三十分鐘, 並且訪談時全程錄音。

3. 預期的效益

參與本研究將為您帶來日語學習之協助, 您的參與亦將有助於日語教學之發展。

4. 預期的風險

本研究並沒有危險性, 若在參與研究的過程中, 問卷或訪談的某些問題造成您在心理上感到不適時, 您可以當場向人員表示, 並隨時拒絕回答問題。

5. 關於研究資料

問卷和訪談的結果將在進行統計分析之後, 用於本研究的考察內容。本研究不會公開您的個人資料, 亦不會透露您的個人身分。所填寫的問卷以及錄音檔等研究紀錄將只用於本研究, 並妥善儲存及保密, 保存期限為研究結束後三年, 期限結束後立即銷毀。

我_____已瞭解上述的研究內容, 並同意接受為此研究之自願研究參與者。

日期_____

簽名_____